

京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成 28 年度

2017 年 3 月

京 都 市 文 化 市 民 局



1 平安京左京九条一坊十二町跡・史跡教王護国寺境内 (27N076)
東寺灌頂院北築地堀オルソ写真 (第II章・4)

例 言

- 1 本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成28年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。平成28年1月から12月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果のあったものについて本文で報告している。
- 2 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
- 3 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT. P. (東京湾平均海面高度)による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点(KBM)として用いている。
- 4 本書で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/2,500)を調整し、作成したものである。なお、図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13 1/8,000 図版14～31 1/10,000

- 5 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年の研究」『研究紀要』第3号、(財)京都市埋蔵文化財研究所、1996年に準拠する。
- 6 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
- 7 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・平安京跡、長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。
- 8 一覧表の地区分けについては、右の地区設定概念図にもとづいている。

- 9 遺物整理にあたっては、上茶谷美保・上別府亜紀・熊代信吾・中村春美・美馬順二・義井良作・吉本健吾の協力を得た。
- 10 調査及び本書作成は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課が担当し、(公財)京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。なお、「IV-3 大塚・小山石切丁場跡」は京都橘大学が調査を実施し、同大学研究生 嵯峨根絵美氏が報告を担当した。



地区設定概念図

本文目次

	頁
I 調査概要	1
II 平安京左京	4
1 平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡 (14H067)	4
2 平安京左京五条二坊十町跡 (16H245)	10
3 平安京左京五条三坊十町跡・烏丸綾小路遺跡 (15H620)	12
4 平安京左京九条一坊十二町跡・史跡教王護国寺境内 (27N076)	14
III 平安京右京	18
1 平安京右京北辺四坊四町跡・史跡妙心寺境内 (26N005)	18
2 平安京右京二条二坊三町跡 (16H424)	22
3 平安京右京三条二坊二町跡 (16H462)	25
4 平安京右京四条三坊十三町跡・山ノ内遺跡・西院城 (小泉城) 跡 (16H160)	27
5 平安京右京九条一坊十四町跡・史跡西寺跡・唐橋遺跡 (27N097)	29
IV その他の遺跡	35
1 上京遺跡・寺ノ内旧域 (15S714)	35
2 尊重寺跡 (16S062)	38
3 大塚・小山石切丁場跡 (16A003)	40
4 醍醐鹿寺 (15S004)	45
5 極楽寺跡 (15S393)	48
調査一覧表	51
報告書抄録	80

挿 図 目 次

地区設定概念図	1
平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡 (14H067)	
図1 調査地位置図	4
図2 基底部石列検出状況(南西から)	4
図3 調査地点位置図	5
図4 調査地点1 平面・断面・立面図	6
図5 A-A' 基底部石列南面(南東から)	7
図6 A-A' 基底部石列南面(南から)	7
図7 B-B' 断面(東から)	7
図8 C-C' 基底部石列北面(北東から)	7
図9 C-C' 断面(東から)	7
図10 調査地点2 断面図	8
図11 D-D' 断面基底部石列北面石検出(南から)	8
図12 D-D' 断面(東から)	8
図13 絵図内調査位置図	9
平安京左京五条二坊十町跡 (16H245)	
図14 調査位置図	10
図15 遺構位置図	10
図16 調査断面図	11
図17 出土遺物実測図	11
平安京左京五条三坊十町跡・烏丸綾小路遺跡 (15H620)	
図18 調査位置図	12
図19 調査地点位置図	12
図20 調査地点断面図	13
図21 No.1地点(東から)	13
図22 出土遺物実測図	13
平安京左京九条一坊十二町跡・史跡教王護国寺境内 (27N076)	
図23 調査位置図	14
図24 調査地点位置図	14
図25 灌頂院北築地塀断面図	15
図26 出土瓦実測図	16

平安京右京北辺四坊四町跡・史跡妙心寺境内 (26N005)	
図 27 調査位置図	18
図 28 断面図	19
図 29 立面図	19
図 30 石垣写真(北から)	20
図 31 妙心寺北限模式図	21
平安京右京二条二坊三町跡 (16H424)	
図 32 調査位置図	22
図 33 遺構位置図	22
図 34 遺構断面図・平面図	22
図 35 井戸断面(北から)	23
図 36 井戸掘削状況(北から)	23
図 37 出土遺物実測図	24
平安京右京三条二坊二町跡 (16H462)	
図 38 調査位置図	25
図 39 遺構位置図	25
図 40 遺構断面図	25
図 41 出土遺物実測図	26
図 42 内溝検出状況(南から)	26
平安京右京四条三坊十三町跡・山ノ内遺跡・西院城(小泉城)跡 (16H160)	
図 43 調査位置図	27
図 44 遺構位置図	27
図 45 調査断面図	28
図 46 断面検出状況	28
平安京右京九条一坊十四町跡・史跡西寺跡・唐橋遺跡 (27N097)	
図 47 調査位置図	29
図 48 遺構検出地点位置図	29
図 49 A地点断面図	30
図 50 A地点出土瓦実測・拓影	30
図 51 詳細分布調査地点図	31
上京遺跡・寺ノ内旧域 (15S714)	
図 52 調査位置図	35
図 53 調査区配置図	35
図 54 溝 1 検出状況(東から)	35

図 55	遺構平面・断面図	36
図 56	溝 1 出土遺物実測図	37
	尊重寺跡 (16S062)	
図 57	調査位置図	38
図 58	調査区配置図	38
図 59	南壁面西側断面 (北西から)	38
図 60	遺構平面・断面図	39
図 61	調査区全景 (南西から)	39
	大塚・小山石切丁場跡 (16A003)	
図 62	刻印石の分布と地区	40
図 63	クレーター状平場位置図	41
図 64	クレーター状平場測量図	42
図 65	クレーター状平場調査トレンチ平面・断面図	43
	醍醐廃寺 (15S004)	
図 66	調査位置図	45
図 67	遺構検出地点位置図	46
図 68	No. 1・2 地点断面図	46
図 69	B 地点出土丸・平瓦拓影	47
	極楽寺跡 (15S393)	
図 70	調査位置図	48
図 71	調査地点位置図	48
図 72	集石遺構実測図	49
図 73	出土遺物実測図	49

図 版 目 次

巻頭図版 平安京左京九条一坊十二町跡・史跡教王護国寺境内 (27N076)
 東寺灌頂院北築地塀オルソ写真 (第Ⅱ章 - 4)

図版 1～31 調査位置図

図版 1 平安宮

図版 2 平安京左京北辺～三条 一・二坊

図版 3 平安京左京北辺～三条 三・四坊

- 図版 4 平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版 5 平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版 6 平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版 7 平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版 8 平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版 9 平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版 10 平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版 11 平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版 12 平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版 13 平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版 14 伏見城跡・下三栖城跡・奉行前町古墳・桃陵遺跡
- 図版 15 伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）・太閤堤（小倉堤・槇島堤）・黄金塚2号墳
- 図版 16 1 大徳寺旧境内・特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園・御土居跡・北山蓮台寺境内・北野天満宮境内経塚・北野天満宮境内・北野遺跡・北野廃寺跡・尊重寺跡・世尊寺跡・上京遺跡・聚楽第跡
2 醍醐ノ森瓦窯跡 3 西北町遺跡
- 図版 17 1 寺ノ内旧域・悲田院跡・上京遺跡・上御霊遺跡・相国寺旧境内・室町殿跡（花の御所）・本満寺の構え跡・一条室町殿跡・寺町旧域
2 史跡賀茂別雷神社境内 3 史跡賀茂御祖神社境内・下鴨城跡
- 図版 18 音戸山古墳群・円乗寺跡・仁和寺院家跡・常盤御池古墳・草木町遺跡・村ノ内町遺跡・太秦馬塚町遺跡・法金剛院境内・森ヶ東瓦窯跡・一ノ井遺跡・和泉式部町遺跡
- 図版 19 北白川追分町遺跡・北白川追分町縄文遺跡・吉田上大路町遺跡・追分町古墳群・吉田二本松町遺跡・聖護院川原町遺跡・白河街区跡・白河北殿跡・名勝平安神宮神苑・東光寺跡・岡崎遺跡・法勝寺跡・成勝寺跡・円勝寺跡・粟田口窯跡・史跡南禅寺境内
- 図版 20 御土居跡・建仁寺境内・珍皇寺旧境内・六波羅政庁跡・法住寺殿跡・史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔
- 図版 21 1 革嶋館跡・革嶋遺跡・下津林遺跡 2 榎原遺跡
3 上久世遺跡・中久世遺跡・下久世構跡・下久世城跡・大藪遺跡・大藪城跡・長岡京跡
- 図版 22 長岡京跡・鶏冠井遺跡・東土川遺跡・久我殿遺跡・羽束師菱川城跡・羽束師志水町遺跡・川原寺跡

- 図版 23 長岡京跡・旧淀城跡・淀城跡
- 図版 24 1 大覚寺古墳群・広沢西裏遺跡・嵯峨北堀町遺跡・清凉寺境内・
嵯峨遺跡・史跡・名勝嵐山・史跡・特別名勝天龍寺庭園
2 長岡京跡・妙見山古墳・大原野東野町古墳・上里城跡・上里遺跡
- 図版 25 1 植物園北遺跡・御土居跡
2 鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡・下鳥羽遺跡
- 図版 26 1 中臣遺跡・坂上田村麻呂墓伝承地 2 法性寺跡・塚本古墳
3 史跡随心院境内・史跡醍醐寺境内
4 極楽寺跡・深草遺跡・貞観寺跡・深草坊町遺跡
- 図版 27 1 史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡 2 福西古墳群・大枝遺
跡 3 中街道遺跡・南春日町遺跡 4 灰方古墳群・小塩窯跡群
- 図版 28 1 嵯峨院跡 2 嵯峨折戸町遺跡 3 山越古墳群 4 龍安寺庭園
5 嵯峨野高田町遺跡 6 南野古墳群 7 鞍馬山経塚群
8 八幡古墳群・妙満寺窯跡・栗栖野瓦窯跡・本山古墳群
- 図版 29 1 大原延暦寺別院境内 2 冲殿町遺跡
3 中尾城跡・浄土寺七廻り町遺跡 4 如意ヶ嶽城跡
5 法成寺跡 6 寺町旧域 7 日ノ岡堤谷須恵器窯跡
8 山科本願寺跡（寺内町遺跡）・左義長町遺跡
- 図版 30 1 山科本願寺南殿跡 2 芝町遺跡 3 大塚・小山石切丁場跡
4 元屋敷庵寺 5 大宅遺跡・大宅庵寺 6 醍醐庵寺
7 向島城跡 8 唐橋遺跡・吉祥院天満宮境内
- 図版 31 1 御土居跡 2 烏丸町遺跡 3 西飯食町遺跡 4 横大路城跡
5 松尾大社境内・松尾十三塚古墳群・松室遺跡
6 比賀江古墳群・愛宕山古墳群 7 出口古墳群

表 目 次

表 1	詳細分布調査件数	2
表 2	遺物概要表	3
表 3	西寺跡詳細分布調査一覧	32

I 調査概要

本書は文化庁国庫補助事業に伴う平成27年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本報告書では平成28年1月4日から3月31日までの平成27年度分192件、平成28年4月1日から12月28日までの平成28年度分424件をあわせて報告する。調査件数は616件である。京都市内を便宜的に地区分けした調査件数は、表1のとおりである。

近年の調査の総件数は、例外的に件数が増加した平成25年の552件を除き、平成26年が474件、平成27年が480件と、これ以前も含め400件台後半が大半である。調査件数が600件を超えたのは平成以降では初めてであり、バブル期に比肩する件数である。市内のほぼ全域で件数が増加傾向にあるものの、特に伸び率が高いのは平安京左京域（前年比36件増）、洛北地区（前年比32件増）、南桂川地区（前年比25件増）であり、市内中心部、周辺部を問わず、開発が増加していることが分かる。調査要因は宿泊施設が顕著な増加を示しており、平成26年が10件、平成27年が9件であったが、平成28年は42件となった。国内外からの観光客の増加に応じ、観光に関わる開発が増加したものであろう。この傾向は今後数年続くものと考えられる。

以下、各地区の概要を述べる。

平安宮(HQ) 平安宮域では、平安宮跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡の4箇所の遺跡で調査をおこなった。

朝堂院跡(16K035)で平安時代中期の遺物包含層、御井跡(16K166)で宮内道路側溝の可能性のある溝を検出した。

平安京左京(HL) 左京域では、平安京跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、聚楽第跡、旧二条城跡、高陽院跡、二条城北遺跡、烏丸丸太町遺跡、烏丸御池遺跡、妙覚寺城跡、妙顕寺城跡、等持寺跡、寺町旧域、妙満寺の構え跡、烏丸綾小路遺跡、堂ノ口町遺跡、東市跡、本國寺城跡、東本願寺前古墓群、塩小路若山城跡、九条河原城跡、教王護国寺旧境内（東寺旧境内）、御土居跡、烏丸町遺跡の24遺跡で調査をおこなった。

このうち、一条四坊九町跡・公家町遺跡(14H067)、五条二坊十町跡(16H245)、左京五条三坊十町跡・烏丸綾小路遺跡(15H620)、九条一坊十二町跡・教王護国寺旧境内（東寺旧境内）

表1 詳細分布調査件数

地区	27年度1～3月	28年度4～12月	小計	地区	27年度1～3月	28年度4～12月	小計
平安宮(HQ)	15	41	56	洛東地区(RT)	8	34	42
平安京左京(HL)	42	83	125	伏見・醍醐地区(FD)	14	24	38
平安京右京(HR)	21	69	90	鳥羽地区(TB)	10	19	29
太秦地区(UZ)	9	26	35	長岡京地区(NG)	24	12	36
洛北地区(RH)	19	52	71	南桂川地区(MK)	20	37	57
北白川地区(KS)	10	24	34	京北地区(UK)	0	3	3
				合計	192	424	616

(27N076)の概要を報告する。このほかに八条四坊二町跡・塩小路若山城跡(15H488)で東洞院大路路面を検出した。

平安京右京(HR) 右京城では、平安京跡、史跡妙心寺境内、史跡・名勝玉鳳院庭園、史跡・名勝妙心寺庭園、西ノ京遺跡、壬生遺跡、山ノ内遺跡、西院城跡(小泉城)、西院遺跡、御土居跡、西京極遺跡、西市跡、衣田町遺跡、川勝寺城跡、西寺跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡、吉祥院城跡の18遺跡で調査をおこなった。

このうち、北辺四坊四町跡・史跡妙心寺境内(26N005)、二条二坊三町跡(16H424)、三条二坊二町跡(16H462)、四条三坊十三町跡・山ノ内遺跡・西院城跡(16H160)、九条一坊十四町跡・史跡西寺跡・唐橋遺跡(27N097)の概要を報告する。

太秦地区(UZ) 円乗寺跡、仁和寺院家跡、常盤御池古墳、草木町遺跡、和泉式部町遺跡、森ヶ東瓦窯跡、嵯峨院跡、南野古墳群、史跡・特別名勝天龍寺庭園、史跡・名勝嵐山、広沢西裏遺跡、大覚寺古墳群、嵯峨遺跡、清涼寺境内、嵯峨北堀町遺跡、嵯峨折戸町遺跡、山越古墳群、嵯峨野高田町遺跡、音戸山古墳群、太秦馬塚町遺跡、村ノ内町遺跡、法金剛院境内、一ノ井遺跡、名勝龍安寺庭園の24遺跡で調査をおこなった。

このうち、史跡・特別名勝天龍寺庭園および史跡・名勝嵐山(27N044)では2地点で整地層を確認し、草木町遺跡(15S208)では鎌倉時代の遺物包含層を確認した。

洛北地区(RH) 鞍馬山経塚群、史跡賀茂別雷神社境内、醍醐ノ森瓦窯跡、八幡古墳群、妙満寺窯跡、本山古墳群、栗栖野瓦窯跡、植物園北遺跡、御土居跡、西北町遺跡、北山蓮台寺境内、大徳寺旧境内、特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金閣寺)庭園、北野遺跡、北野廃寺、北野天満宮、北野天満宮境内経塚、尊重寺跡、世尊寺跡、上京遺跡、寺ノ内旧域、聚楽第跡、悲田院跡、室町殿跡(花の御所)、本満寺の構え跡、一条室町殿跡、相国寺旧境内、上御霊遺跡、寺町旧域、史跡賀茂御祖神社境内、下鴨城跡の31遺跡で調査をおこなった。

このうち、溝から16世紀初頭の土師器皿がまとも出土した上京遺跡・寺ノ内旧域(15S714)、当該遺跡内で初めて遺構を確認した尊重寺跡(16S062)の概要を報告する。他に大徳寺旧境内(15S386)では勅使門と山門をつなぐ複数時期の路面を確認した。室町殿跡(花の御所)(15S644)では室町時代の遺物包含層を確認し、相国寺旧境内・上御霊遺跡(16S417)では現在でも境内に残る堀跡とされる痕跡の延長部分で、堀と考えられる落ち込みを確認した。

北白川地区(KS) 大原延暦寺別院境内、沖殿町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、吉田上大路町遺跡、北白川追分町遺跡、追分町古墳群、中尾城跡隣接地、如意ヶ嶽城跡、浄土寺七廻り町遺跡、吉田上大路町遺跡、吉田二本松町遺跡、聖護院川原町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡、名勝平安神宮神苑、成勝寺跡、円勝寺跡、法勝寺跡、岡崎遺跡、東光寺跡、史跡南禅寺境内、法成寺跡の22遺跡で調査をおこなった。

このうち、白河北殿跡(15R562)で時期不明の路面を確認した。

洛東地区(RT) 寺町旧域、御土居跡、粟田口窯跡、建仁寺境内、珍皇寺旧境内、六波羅政庁跡、法

住寺殿跡、法性寺跡、塚本古墳、日ノ岡堤谷須恵器窯跡、芝町遺跡、山科本願寺跡(寺内町遺跡)、山科本願寺南殿跡、左義長町遺跡、元屋敷庵跡、中臣遺跡、坂上田村麻呂墓伝承地、大宅庵寺、大宅遺跡、史跡随心院境内、大塚・小山石切丁場跡の21遺跡で調査をおこなった。

このうち、近年地元有志の継続的調査によって再発見された大塚・小山石切丁場跡の調査概要(16A003)7を報告する。他に法住寺殿跡(15S636)では、三十三間堂の造営に伴う整地層を確認した。なお、この調査は同地で実施した試掘・発掘調査後の補足調査である。山科本願寺跡(寺内町遺跡)・左義長町遺跡(15S293)では焼土・炭化物を含む土坑を複数検出した。

伏見・醍醐地区(FD) 伏見城跡、桃陵遺跡、奉行前町古墳、桃山古墳群(永井久太郎古墳)、黄金塚2号墳、太閤堤(小倉堤、槇島堤)、向鳥城跡、極楽寺跡、貞観寺跡、深草坊町遺跡、史跡醍醐寺境内、醍醐庵跡の12遺跡で調査をおこなった。

このうち極楽寺跡(15S393)で極楽寺に関連すると考えられる中世集石遺構を確認し、醍醐庵寺(15S004)では寺域を限る可能性のある溝を検出したため、概要を報告する。この他に伏見城跡(15F429)で護岸の可能性のある時期不明の石組遺構を確認した。

鳥羽地区(TB) 鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、下鳥羽遺跡、唐橋遺跡、烏丸町遺跡、御土居跡、吉祥院天満宮境内、深草遺跡、西飯食町遺跡、久我殿遺跡、羽東師志水町遺跡、横大路城跡、下三栖城跡、淀城跡の14遺跡で調査をおこなった。

このうち、吉祥院天満宮境内(15S472)で平安時代の整地層を確認し、鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡(15T745)では鳥羽離宮にかかわる池の埋土を確認した。

長岡京地区(NG) 長岡京跡、鶏冠井遺跡、淀城跡、旧淀城跡、大原野東野古墳、上里遺跡の6遺跡で調査をおこなった。

このうち、左京九条三坊十二町跡・淀城跡で與杼神社に関連する整地面を確認した。

南桂川地区(MK) 史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡、松尾十三塚古墳群、松室遺跡、檜原遺跡、檜原庵寺瓦窯跡、福西古墳群、草嶋館跡、草嶋遺跡、下津林遺跡、上久世遺跡、中久世遺跡、大藪遺跡、大藪城跡、小堀窯跡群、灰方古墳群、南春日町遺跡の17遺跡で調査をおこなった。

このうち、上久世遺跡(15S169)で弥生時代ないし古墳時代の耕作土の可能性のある堆積土を確認した。

京北地区(UK) 比賀江古墳群、愛宕山古墳群、出口古墳群で調査をおこなったが顕著な成果は得られなかった。

(新田和央)

表2 遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内訳	Bランク点数 (箱数)	Cランク点数 (箱数)	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	61点(4箱)	土師器皿39点、須恵器2点、瓦器4点、緑軸陶器2点、灰軸系陶器1点、焼締陶器1点、輸入陶磁器3点、軒丸瓦1点、軒平瓦3点、丸瓦1点、平瓦2点、貨銭1点、木製品1点	2箱	8箱	14箱

Ⅱ-1 平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡 (14H067)

1 調査経過

本件は、大宮御所参観者休憩所棟の新築工事に伴う詳細分布調査である。対象地は京都御苑内にある大宮御所の北西部に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地「平安京跡」「公家町遺跡」に該当する。平安京左京一条四坊九町跡は、平安時代中期には藤原道長の妻、源倫子の「鷹司殿」が想定される場所で、長元六年（1033）には70歳の祝賀の会を行なったことが史料よりわかっている。また公家町遺跡は、安土・桃山時代以降に大規模な禁裏造営が行われたことに伴う公家の邸宅や江戸時代に禁裏周辺に形成された公家居住域であるため、現在の京都御苑とその範囲がほぼ重なっている。

京都御苑内での発掘調査はいくつか行われているものの、計画工事の掘削深度が浅いことから、掘削深度以下の遺跡は地中保存が図られ、公家町遺跡が調査の主体となっている。今回の工事が行われる仙洞御所内では、大宮御所に付随する事務棟の耐震補強工事に伴う発掘調査（図1-調査1）と5件の立会調査が行われており、江戸時代の遺構が確認されている¹⁾。

対象地は平成26年度に実施した試掘調査（14H067）の結果、平成27年度に工事の影響が及ぶ範囲（設計GL-0.45m：48.78m）までの範囲で発掘調査²⁾が行われ（図1-調査2）、以下の遺跡は地中保存が図られている。この調査では、宝永の大火（1708）後から慶応三年（1867）の大宮御所（女院御所）に伴う建物跡と宝永の大火後に撤去された塀の基礎（塀基礎453）が確認されている。

今回は、計画建物施工時の掘削深度の確認と建物に伴う電気及び給水管布設工事に伴う調査である。



図1 調査地位位置図（1：5,000）



図2 基礎部石列検出状況（南西から）

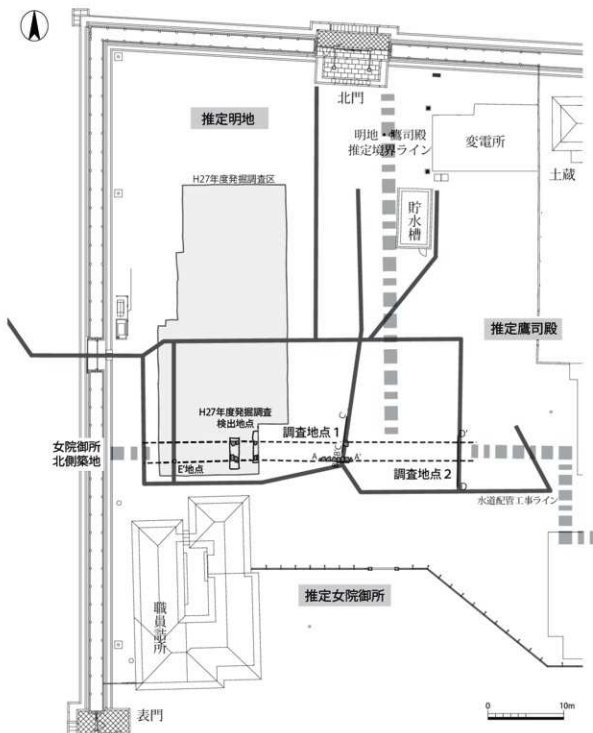


図3 今回の調査地点位置図 (1:500)

2 調査成果

今回の一連事業の中で32か所の調査を行ない、このうち、埋設管布設工事時に東西方向の築地基底部を確認した。今回は、確認した築地について報告する(図3-調査地点1・2)。

調査地点1 (図4-A・B・C)

現代盛土の下、GL-0.5mで小礫混じりにぶい黄褐色粘質土や褐色粘質土(図4-10・11)、礫を多く含む黒褐色粘質土や炭化物・陶磁器片などを含むぶい褐色粘質土(図4-12・13)、炭化

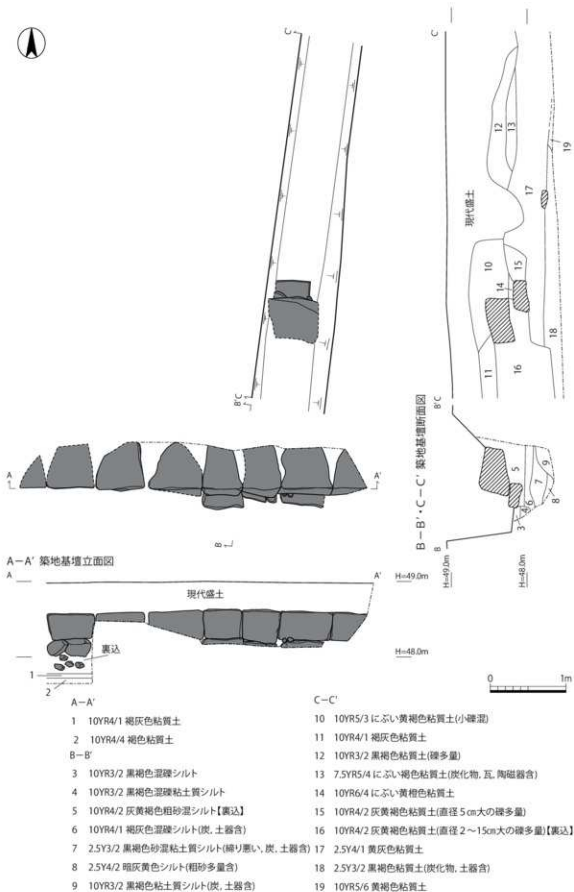


図4 調査地点1 平面・断面・立面図(1:50)



図5 A-A' 基底部石列南面（南東から）



図6 A-A' 基底部石列南面（南から）



図7 B-B' 断面（東から）



図8 C-C' 基底部石列北面（北東から）



図9 C-C' 断面（東から）

物や、土器片を含む黒褐色粘質土（図4-18）、黄褐色粘質土（図4-19）に至る。GL-1.5mまで土層を確認したが、工事掘削深度の都合上、地山は確認していない。

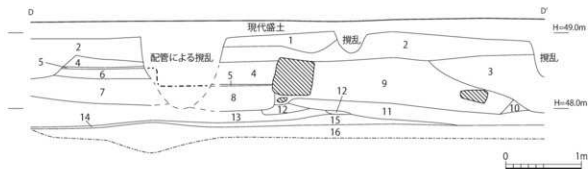
検出した築地基底部は、黄灰色粘質土（図4-17）上面で成立する。基壇最上部は現代盛土及び褐色粘質土（図4-11）の下、GL-0.5mで確認した。検出した基底部は、主に南面で、幅0.3

～0.5m、高さ約0.1mのやや小ぶりの花崗岩の割石や栗石を据え、その上に、幅0.5～0.7m、高さ約0.4mの花崗岩の切石を南に面をそろえて一列に並べ、構築している。北面の基底部も一石分確認できたことから、上段基底幅は幅2.6m、下段基底幅は2.9mである。断面観察より、構築部分を一段掘り込み、小礫混じりの粘質土を充填しながら、石を据えていることがわかる。また北面下段石の外側にはにぶい黄褐色粘質土（図4-14）が確認でき、上段の石もある程度埋め戻されていたものと考えられる。

裏込めから遺物は確認できなかった。基壇構築以前の土層（図4-6・7・9・13・18）では遺物が含まれることは確認できたが、いずれも細片で、土層形成時期は明らかでない。

調査地点2（図10-D）

現代盛土の下、にぶい黄褐色粘質土や礫混じりの褐色粘質土（図10-1-3）を挟み、GL-0.5m



- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(土器、礫少量含) | 9 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(礫少量混、土器含)【裏込】 |
| 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土(礫含) | 10 10YR6/6 明黄褐色粘質土(精良、締まり有り) |
| 3 10YR3/2 黒褐色砂質土(粘性弱い、小礫炭化物混) | 11 10YR3/2 黒褐色粘質土(小礫混) |
| 4 10YR4/1 褐灰色砂質土(礫混) | 12 10YR5/6 黄褐色シルト(粘性無し) |
| 5 2.5Y5/3 黄褐色細砂(締りあり) | 13 10YR3/2 黒褐色粘質土(礫混) |
| 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土(炭化物、土器、礫少量含) | 14 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(砂少量含) |
| 7 10YR3/3 暗褐色粘質土(炭化物少量混) | 15 10YR4/4 褐色細砂 |
| 8 10YR3/2 黒褐色粘質土(小礫混) | 16 10YR3/2 黒褐色粘質土(土器含) |

図10 調査地点2 断面図(1:50)

で築地基壇の上面に至る。基壇構築土に伴う土層(図10-5-10)の下は、小礫混じり黒褐色粘質土や灰黄褐色粘質土(図10-11-14)、褐色細砂(図10-15)、遺物包含層である黒褐色粘質土(図10-16)に至る。GL-1.6mまで土層の確認をしたが、工事掘削深度の都合上、地山は確認していない。

検出した石は幅0.5m、高さ約0.5mの花崗岩の割石である。断面での確認であるが、やや小ぶりの花崗岩の割石や栗石が充填されていることを確認した。基壇北面の基壇石は確認できなかったが、基壇下に据えてある石に類似した石は確認できる。基壇下段幅は約2.9mと推定でき、調査地点1で確認している基壇下部幅と同じ規模である。断面観察より、基壇構築の様子は調査地点1と同様である。また南面では上段、下段とも石の存在は確認できる。下段及び上段石の裾を埋めるように黒褐色粘質土(図10-8)が積まれ、その上面に厚さ3cmほどの締まった黄褐色細砂(図10-5)が確認でき、一時期の面を形成していた可能性が高い。またこれと同様の砂が、幅0.7mの攪乱を挟んですぐ南の断面でも確認でき、その高さは、上段石の上面に近い(図10-5)。攪乱にて確認できなかったが、築地基壇南側には、深さ0.2m、幅0.7~1.5m以内の内溝が形成されていた可能性がある。



図11 D-D' 断面基底部石列北面石検出(南から)



図12 D-D' 断面(東から)

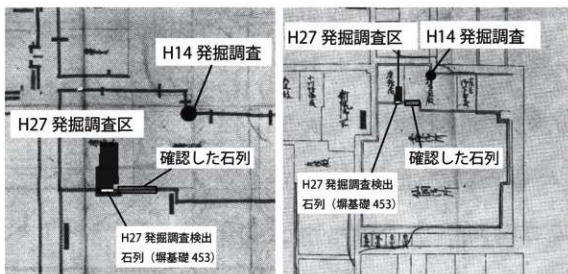


図13 絵図内調査位置図（縮尺不同）各絵図に加筆
 左絵図：万治四年内裏他炎上屋敷絵図 右絵図：寛文十三年内裏他炎上絵図

裏込め（図10-9）からは18世紀初頭から前半と考えられる土師器皿片，また基壇構築以前の堆積土（図10-16）からは概ね16世紀を示す土師器皿片と青磁碗の小片を確認した。

3 まとめ

今回，東西方向の築地底部を確認した。この築地底部は，石の形状，規格，構築方法などが，平成27年度発掘調査時に確認されている宝永の大火後に取り壊されたと考えられる塀基礎453に類似しており，検出位置から塀基礎453の延長と考えられる（図13）。また，出土遺物の年代観にも大きな齟齬は認められないことから，宝永の大火前に使用されていた女院御所の北側築地であるといえる。（奥井智子）

註

- 調査1：財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平安京左京一条四坊九町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-14，2006年。
 『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局，2000年。
 『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』京都市文化市民局，2001年。
 『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局，2002年。
- 調査2：公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平安京左京一条四坊九町跡・公家町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-13，2016年。
- 平成14年度に行なわれた発掘調査（図1-調査3）で絵図にかかれていた鷹司殿の北側築地中央角部分が確認されている。これと平成27年度調査成果を合わせると，図5の絵図中の□部分が今回の調査地と推定できる。
 調査3：財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平安京左京一条四坊九町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2002-8，2002年。

II-2 平安京左京五条二坊十町跡 (16H245)

1 調査経過 (図14・15)

調査地は、四条通と堀川通の交差点より南東に位置する。醒ヶ井通に面する区画で、平安京左京五条二坊十町の中央付近にあたる。四行八門制では北三門、西二行の区画に相当する。

この町域では、平安時代末期に宰相入道と呼ばれた藤原俊憲邸があったとされているが、これまでに関連する遺構は確認されていない。また、中世以後は下京の町組に属する町屋があったことが知られている。

この町域では、平成元年度に醒ヶ井通を隔てた西側区画で試掘調査が行われており(調査1)¹⁾、GL-1.0mの深度において鎌倉時代～室町時代のピットと土坑、-1.38mの深度において室町時代の南北溝が確認された。また、平成6年度に調査地より東南へ80m程度隔てた区画において行われた立会調査では、鎌倉時代の木組遺構と土坑、室町時代の落込みが大量の土器や木器とともに発見されている(調査2)²⁾。このため今回の調査でも関連する遺構の発見が予見された。



図14 調査位置図 (1:5,000)

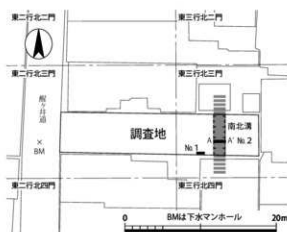


図15 遺構位置図 (1:500)

2 層序と遺構 (図16)

今回の調査では、対象区画の東半部の2箇所において断面観察及び遺構検出を行った。No.1地点では、GL-0.74m以下において室町時代の遺物包含層、GL-1.0mにおいて鈍い黄褐色砂礫を主体とする地山を確認した。この地山上面より東へ切り込む遺構状の落込みを確認したことから、改めて周囲を精査したところ、南北方向にのびる溝を1条検出した。

溝の検出長は約5.0m、最大幅は1.4mである。ただし削平を受けた後の検出規模であるため、本来はさらに幅広であった可能性が高い。埋土は灰色～暗褐色粗砂混じりシルトを主体とし、鎌倉時

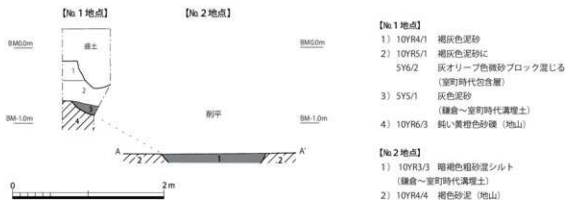


図16 調査断面図 (1:50)

代～室町時代の遺物、炭化物片を多量に含む。遺構内からは、土師器皿と甕、須恵器鉢、灰釉陶器の杯、瓦質土器鍋、平瓦片等が出土した。

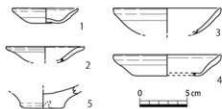


図17 出土遺物実測図 (1:4)

3 遺物 (図17)

1～4は土師器皿である。1は底部を厚く、やや上げ底に作る。2は口縁部が外方へ開くタイプで、口縁端部をやや強くナデる。3・4は直径10cmを超える中型品で、ともに平底を有する。すべて室町時代の製品で、概ね14世紀後半頃の所産である。5は土師器甕の底部で弥生時代末～古墳時代初頭の製品である。底部外面には焼成前に設けられた未貫通孔がある。

4 まとめ

今回の調査では、地山上面において室町時代の溝を1条検出した。位置は四行八門に制されるものではなく、その規模からは町屋の区画溝とは考えにくい。周辺調査ではほぼ同じ深度において同時期の遺構が多く確認されていることから、遺構面が連続する可能性が高い。特に、既往の調査(図14-調査1)では同じく南北方向の直線溝が確認されており、両者の関連が目される。

(黒須亜希子)

註

- 1) 財団法人京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局, 1990年。
- 2) 吉村正親・吉本健吾・竜子正彦「Ⅱ-3 左京五条二坊十町」『京都市内遺跡立会試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局, 1995年。

Ⅱ-3 平安京左京五条三坊十町跡・烏丸綾小路遺跡 (15H620)

1 はじめに

本件は、下京区釘隠町252-4、二帖半敷町668におけるホテル建設工事に伴う詳細分布調査である。調査地は、平安京左京五条三坊十町・烏丸綾小路遺跡に該当する。平安時代の同町についての文献資料の記載はほとんどないが、中世には下京の中心部として繁栄していたことが複数の発掘調査成果で明らかになっている¹⁾。

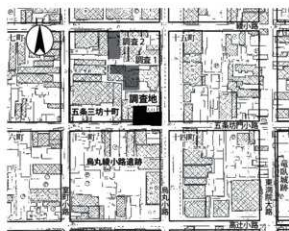


図18 調査位置図 (1:5,000)

調査地は、既存施設の地下室により敷地の大半で地山まで大きく削平されており、遺構面は全く残っていなかったため、敷地西半を調査対象とした。

調査は掘削工事に伴い3月14日～9月15日の間で断続的に6日間実施し、平安時代後期の五条坊門小路に関連する遺構や室町時代の土坑等を確認する成果を得た。

2 遺構

層序は、No.1地点では現代盛土直下のGL-1.0mで近世包含層、-1.4mでふい黄色シルト(ウグイス土)の平安時代後期整地層、-1.6mで黄褐色シルトの地山となる。No.2地点では、現代盛土直下、GL-0.6mで室町時代の土坑群、-0.9mでウグイス土の平安時代後期整地層、-1.1mで地山となるが、地山の標高は両所ともほぼ同じである(図20)。

遺構は、平安時代後期の整地層上面で確認した。No.1地点では、溝状の遺構を2基(7・8層)、ピット1基(9層)を確認した。7層は幅0.6m以上、深さ0.3m、8層は幅0.75m以上、深さ0.25mを測る。ピットは径0.3m、深さ0.2mを測る。位置的に7層が五条坊門小路沿いの宅地内溝、8層が五条坊門小路北側溝、ピットが築地に伴うものと捉えることが可能である。遺物は7・8層から平安時代後期の土師器皿、ピットからは白磁片が出土している。No.2地点では、ウグイス土の上層に室町時代の土坑を2基(4・5層)確認している。4層は幅0.35m



図19 調査地点位置図 (1:1,000)

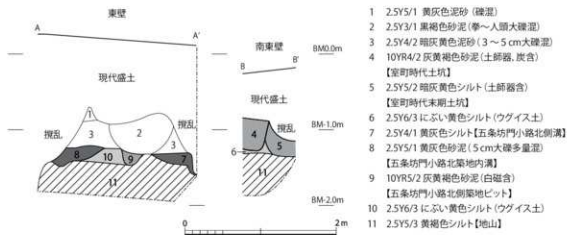


図20 調査地点断面図 (1:50)

以上、深さ0.4m、5層は幅0.4m以上、深さ0.4mを測る。遺物はいずれも室町時代の土師器皿が出土している。

3 遺物

調査では、平安から江戸時代にかけての土師器等が出土した。1は、7層から出土した土師器皿Aである。口径は9.6cmを測る。京都IV期に属するもので、11世紀後半。2は2層から出土した灰軸系陶器の鉢で、高台径は12.0cm。平安時代後期に属する。



図21 No.1地点(東から)

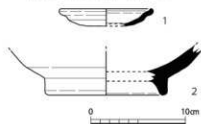


図22 出土遺物実測図 (1:4)

4 まとめ

今回の調査では、五条坊門小路の北側溝及び内溝、築地に伴うピットを確認したが、断面のみの確認に留まるため確実ではない。また、周辺の調査でも平安時代の同側溝が確認された例は無い。しかし、十町内の調査では平安時代後期に至り、遺構・遺物ともに急増することから、当該期の条坊側溝が施工されていた蓋然性は十分にある。今後も周辺の調査に注意していきたい。

(西森正晃)

註

1) 左京五条三坊十町域内の発掘調査には以下のものがある。

調査1：平尾政幸・中村敦「平安京五条三坊(1)」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1983年。

調査2：赤松佳奈「平安京左京五条三坊十町跡・烏丸綾小路遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成27年度』京都市文化市民局、2016年。柏田有香「平安京左京五条三坊十町跡・烏丸綾小路遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-7、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2015年。

Ⅱ-4 平安京左京九条一坊十二町跡・ 史跡教王護国寺境内 (27N076)

1 はじめに

史跡教王護国寺(東寺)境内では、平成22年度より、史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業を実施している。本件は、その中の灌頂院築地塼修復工事に伴う詳細分布調査である。

灌頂院は真言院とも称され、密教の修法や伝法の灌頂を行う建物であり、真言密教の道場である東寺にとって、極めて重要な堂舎である。完成した年代は不詳であるが、承和10年(843)には、当院で灌頂が行われている¹⁾。周囲の築地塼については、長治2年(1105)、嘉祥2年(1107)の修理願が初出である²⁾。灌頂院は転倒や焼失の度に再建され、現在の建物は、慶長元年(1596)のいわゆる慶長大地震で転倒後、寛永11年(1634)に再建されたものである³⁾。

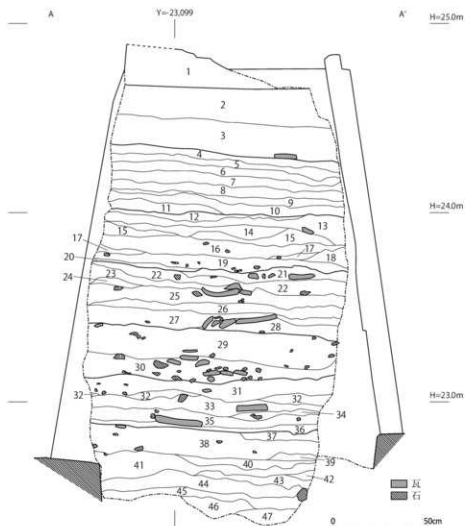
今回の調査に先立ち、老朽化が進んだ東築地塼の修復にあたり、構造や変遷など修復及び整備に必要な基礎資料とするため、発掘調査を実施している(図24-調査1)⁴⁾。調査では、東築地塼が平安前期まで遡ること、平安時代後期、江戸時代初頭、大正時代の大きく3度の修復が見られ、現在は太鼓塼であること、古代、中世に至るまで上土塼である可能性が高いことなどが明らかとなった。さらに、調査後に実施された解体工事の結果、東築地塼の太鼓塼に対して北築地塼は版築土塼であることが確認されたため、版築が良好に残る北築地塼の断面調査を今回実施することとなった。



図23 調査位置図 (1:5,000)



図24 調査地点位置図 (1:1,000)



- | | | | |
|----|---|---------------------------------------|--|
| 1 | 崩落土(締めり無し) | | |
| 2 | 10Y6/1 灰色砂質土(φ0.5cm未満の礫少量含む) | ⑦ | 29 2.5Y5/3 黄褐色砂質土(φ5cm未満の礫, 土師器片, 瓦片少量含む) |
| 3 | 7.5Y6/1 灰色砂質土(φ0.5cm未満の礫, 瓦片少量含む) | | 30 10Y6/1 灰色砂質土(φ8cm未満の礫, 瓦片多量に含む) |
| 4 | 10GY6/1 緑灰色粘土(固く締まる) | ⑥ | 31 10Y5/1 灰色砂質土(φ3cm未満の礫, 瓦片少量含む) |
| 5 | 5GY5/1 オリーブ灰色砂質土(φ0.2~0.3cmの礫少量含む) | | 32 7.5Y6/1 灰色砂質土(φ1cm未満の礫, 土師器片少量含む) |
| 6 | 7.5GY6/1 緑灰色粘土(固く締まる) | | 33 2.5Y5/2 暗黄褐色砂質土(φ8cm未満の礫, 瓦片少量含む) |
| 7 | 7.5GY6/1 緑灰色粘土(暗緑灰色粘土ブロック状に, φ0.5cm未満の小礫含む) | | 34 5Y7/1 灰白色粘質土 |
| 8 | 5GY6/1 オリーブ灰色粘土(固く締まる) | | 35 2.5Y5/3 黄褐色砂質土(φ3cm未満の礫, 瓦片少量含む) |
| 9 | 2.5GY6/1 オリーブ灰色砂質土(φ0.5cm未満の礫, 土師器片少量含む) | | 36 5Y6/1 灰色粘質土 |
| 10 | 5GY7/1 明オリーブ灰色粘土(固く締まる) | | 37 5Y7/1 灰白色細砂 |
| 11 | 5GY6/1 オリーブ灰色粘土(固く締まる) | | 38 2.5Y4/2 暗黄褐色砂質土(φ8cm未満の礫, 土師器片, 瓦片少量含む) |
| 12 | 2.5Y6/2 灰黄色砂質土(φ3cmまでの礫, 土師器片少量含む) | | 39 5Y6/1 灰色粘質土 |
| 13 | 10Y6/1 灰色粘土硬湿しり(オリーブ灰色粘土ブロック状に, 瓦片少量含む) | | 40 10Y6/1 灰色砂質土 |
| 14 | 2.5Y6/3 にふい黄色砂質土(φ1cm未満の礫, 土師器片少量含む) | 41 2.5Y5/3 黄褐色砂質土(φ1cm未満の礫, 土師器片少量含む) | |
| 15 | 10Y6/1 灰色粘質土硬湿しり(オリーブ灰色粘土ブロック状に含む) | ⑤ | 42 7.5Y6/1 灰色粘質土 |
| 16 | 2.5Y5/3 黄褐色砂質土(φ1cm未満の礫, 土師器片, 瓦片少量含む) | | 43 5Y5/1 灰色砂礫(φ1cm未満の礫少量含む) |
| 17 | 5Y6/1 灰色砂質土(φ1cm未満の礫少量含む) | ④ | 44 2.5Y4/1 黄灰色粘質土(土師器片少量含む) |
| 18 | 5GY6/1 オリーブ灰色粘土 | | 45 5Y5/1 灰色粘質土 |
| 19 | 5Y5/1 灰色砂質土(φ1~3cmの礫多量に含む) | | 46 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 |
| 20 | 10Y6/1 灰色粘質土(φ1cm未満の礫少量含む) | | 47 10YR6/2 灰黄褐色砂質土 |
| 21 | 5GY7/1 明オリーブ灰色粘質土(φ2cm未満の礫, 瓦片少量含む) | | |
| 22 | 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土(φ1cm未満の礫, 土師器片, 瓦片少量含む) | | |
| 23 | 10Y6/1 灰色砂質土(φ1cm未満の礫, 瓦片少量含む) | | |
| 24 | 2.5Y5/2 暗黄褐色砂質土(灰色粘土ブロック状に含む) | | |
| 25 | 2.5Y6/1 黄灰色粘質土(φ6cm未満の礫, 瓦片少量含む) | | |
| 26 | 10Y6/1 灰色粘質土 | | |
| 27 | 2.5Y5/2 暗黄褐色砂質土(φ3cm未満の礫少量含む) | | |
| 28 | 2.5Y7/1 灰白色砂礫(瓦片多量に含む) | | |

図25 灌頂院北築地塀断面図(1:20)

2 遺構

調査地点は、北築地塼と東築地塼の接点であるため(図24)、図25は南側から北築地塼断面をオルソ測量をした断面図となっている(巻頭カラー写真参照)。

幅は1.4m、高さは2.5m分を確認した。版築の単位は、最上層の崩落土を除き、25～35cmの厚さで大きく7単位(①～⑦)に区分できる。各単位毎に版築の様相は異なる。①は厚さ5～10cmで、下層はやや蒲鉾状を呈するため、下部にはそれまでの築地塼基底部が残存していると想定される。②より上層はほぼ水平方向に版築されている。②は厚さ2～10cmで、層中に大型の平瓦や小礫を含む。③は厚さ15cmの上下2層から成り、下層には碎片された瓦と礫を多量に含む。④は厚さ4～10cmで、瓦片、土師器片、小礫を含む。⑤は厚さ5～10cmで、土師器片や小礫のほか粘土ブロックも含む。⑥は厚さ3～5cmであり、粘土を用いて最も丁寧に版築され、固く締まる。⑦は、厚さ15～20cmの上下2層で、締まりは緩い。

3 遺物

今回は断面観察のため、出土した遺物は少ない。版築土からは、中世の土師器皿細片、古代～中世の瓦片が出土しているが、近世の遺物は認められなかった。

1は「左寺」銘の唐草文軒平瓦である(図26)。瓦当裏面はケズリ後ナデ。焼成は硬質。文様のズレが著しい。平安時代前期中頃。28層から出土した。

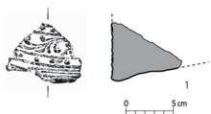


図26 出土瓦実測図(1:4)

4 まとめ

今回の調査で、灌頂院北築地塼東端は丁寧に版築工法で築かれていることを確認した。版築は大きく7つの作業単位に分かれ、各単位毎で版築の層厚や土質は異なるが、一連の作業で積み上げている。版築土から出土した土器群は細片のため、年代の特定は困難ではあるが、近世まで下る遺物は認められない。

境内の四周を囲う東築地塼の調査では、現在残る築地塼は、慶長大地震の崩壊後に豊臣秀頼や徳川家光が行った修繕(慶長～寛永)によるものであることが明らかとなっている⁵⁾。この時代の版築工法は、上半と下半で異なり、下半は丁寧に版築を行うものの、上半はあまり敲き締められておらず、全体を丁寧に版築を行っている灌頂院北築地塼の工法とは異なることがわかる。

灌頂院に関する記録では、天正13年(1585)に起こった大地震で灌頂院及び築地塼が破損しており、翌年に木食応其による修理が執り行われている⁶⁾。灌頂院は続く慶長大地震でも転倒しているが、「四方の築地塼は崩壊するが少し残る」との記載があることから⁷⁾、今回の調査で確認した灌頂院北築地塼は、天正大地震後の木食応其によって修繕された版築築地塼と想定したい。慶長年間以前に遡る築地塼とするならば、境内に現存するものでは最古級の可能性が高く、築地塼構築工

法の変遷を辿るうえで定点となるものであり、有益な成果を得ることができたといえる。

(西森正晃)

註

- 1) 『史跡 教王護国寺境内 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業報告書2015(本文編)』
宗教法人教王護国寺, 2015年。
- 2)・3) 1)に同じ。
- 4) 中谷正和『史跡教王護国寺境内・平安京跡 東寺灌頂院東築地修復工事に伴う埋蔵文化財発掘調査終了報告』(公財)京都市埋蔵文化財研究所, 2016年。
- 5～7) 1)に同じ。

Ⅲ-1 平安京右京北辺四坊四町跡・史跡妙心寺境内 (26N005)

1 調査の経緯

調査地は、一条通に面した妙心寺の北端で、平安京右京北辺四坊四町跡の北西部及び史跡妙心寺境内北端に該当する(図27)。妙心寺では、平成25年度から継続的に防災施設の整備を進めており、発掘調査と立会調査をおこなっている。今回の場所では、北門の東側に既に設置されている貯水槽から推進工事で土層の下を抜いて一条通へ配管を通す工事が計画されたため、立会調査をおこなった。

周辺の調査では、昭和59年に妙心寺北門に接する一条通南側で立会調査をおこない、幅2.2m以上、深さ2mの江戸時代の遺物を含む東西方向の濠を検出している¹⁾。また、北門東側の貯水槽部分で平成26年度に発掘調査をおこない、江戸時代初期の井戸1基と江戸時代前期の東西溝(溝10)などを検出している²⁾。溝10は幅1.1m、深さ0.7mで、下層の井戸から出土する遺物により、17世紀前半に開削され、1,700年前後に一気に埋められていることが明らかになっている。妙心寺北限にかかわる遺構と考えられる。



図27 調査位置図(1:2,500)

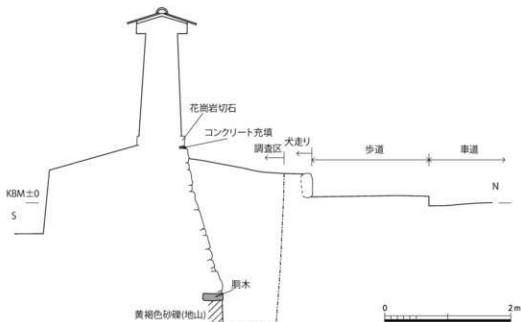


図28 断面図 (1:60)

2 検出遺構 (図28・29)

検出した遺構は現存する土塀の下の石垣である。石垣は50～70cm大の自然石で築かれており、間を間詰め石で補填する。石垣の高さは2.3mで、一番底には幅10cmの板を胴木として据えている。胴木の下は黄褐色砂礫の地山となる。また、一番上の石は表出しており、その上に花崗岩切石をのせ土塀を築く。石垣上端の石と花崗岩切石の間はコンクリートが充填されている。現況で表出している石垣上端の石は、今回検出した場所から西約40mの間で確認でき、この間でも石垣が良好に残存しているものと考えられる。今回の調査では遺物は出土しなかった。また、平安京にかかわる遺構や遺物は妙心寺関連遺構により削平され、検出されなかった。

3 まとめ (図31)

今回の調査で妙心寺北面土塀の下に深さ2m以上に及ぶ石垣を検出したことは、妙心寺北限の変遷を考えるうえで重要な成果といえる。

妙心寺の日記である『記録』に所収されている「北門

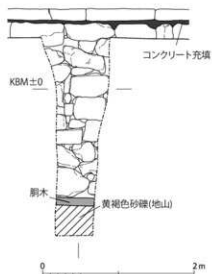
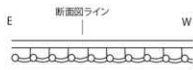


図29 立面図 (1:50)

前普請之記 元禄八年」に、本山による北門前にかかわる記事がある。その記述によれば、元禄7年（1694）5～10月に在家を移転させ、妙心寺北限の土塁と堀を北側に移設し、隣華院北側の通路を拡幅したと記されている。さらに翌8年には、隣華院から本山へ、「北門へ到る通路は広くなったが、隣華院は土居堀と庫裏の距離が狭いので、土居を撤去し堀を埋めて築地塀に変えたい」という願いが出された。本山は、築地雨落溝が通路の半ばにある石畳の南辺を越えないことを条件に許可している。

元禄7年以前の堀と土塁の位置や幅などは明らかではないが、少なくとも今回検出した石垣は、現在の妙心寺北限であり、元禄7年以降の堀の南岸とみられる。

昭和59年度の立会調査では、現在の一条通歩道部分で、堀の北肩を検出している。この堀は幅2.2m以上、深さ2mで南肩は検出しておらず、現在の土塀よりも南側までおよぶものと考えられる。したがって、昭和59年に検出した堀は元禄7年よりも古い可能性が高い。

さらに、「北門普請之記」には、元禄7年に改造した結果、大路幅4間半、堀幅7尺、土居幅2間5尺となったことが記されている。今回の調査地と昭和59年、平成26年調査地の場所が異なるため、通しで断面図を作成することができていないこと、現在の歩道や犬走りの幅と土塀の位置関係が異なることなどから、元禄7年前後の堀や土塁の位置関係を確定し難いが、今回の調査成果から堀の北肩は元禄7年前後でほぼ同じ場所を踏襲していた可能性を指摘できる。

前述したように、平成26年度の発掘調査で検出した東西溝10は1,700年前後に一気に埋められていることから元禄7年の普請時に埋められた北限内溝の可能性はあるが、今回検出した石垣と文献史料から復元できる元禄7年普請後の土塁南裾部分も、ほぼ同じ場所を踏襲していた可能性がある。そうした場合、在家を移転させ、妙心寺北限の土塁と堀を北側に移設したとする史料の位置付けが問題となるが、今回の調査成果からは明らかにすることができず、今後の課題である。

以上のとおり、今回検出した石垣は、元禄7年まで遡る可能性が高く、重要な調査成果を得ることが出来た。なお、今回計画された配管は、石垣の下を通すよう変更されたことから、検出した石垣は地中保存されている。

（家原圭太）



図30 石垣写真（北から）

註

- 1) 財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市埋蔵文化財調査概要 昭和59年度』1987年。
- 2) 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『史跡妙心寺境内・平安京跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-11, 2015年。

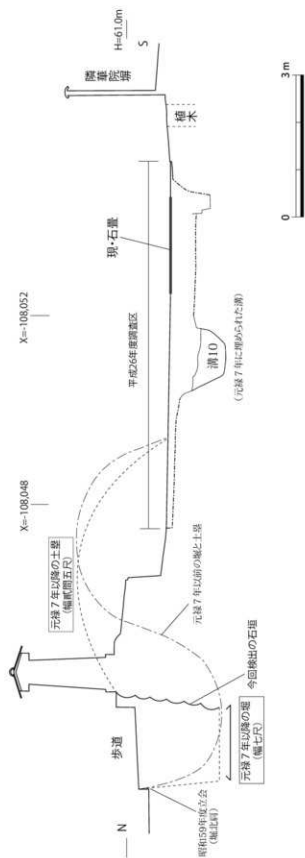


図31 妙心寺北限模式図 (1 : 80)

Ⅲ-2 平安京右京二条二坊三町跡 (16H424)

1 調査の経緯 (図32・33)

本件は、中京区西ノ京冷泉町における高齢者施設新築に伴う詳細分布調査である。調査地は平安京右京二条二坊三町跡に該当し、西大宮大路を挟んで東側には平安宮右馬寮が位置する。同町は『拾芥抄』西京図では、兵部省の厨町である兵部町、のちに今宮神社大政所となったとされる。同町北西側の大炊御門大路比定箇所で、昭和56年に(財)京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施しており、方形木枠の井戸(SE1)や、低湿地堆積(SX1)を検出し、「天曆七」(953)墨書緑釉陶器を含む平安時代中期の遺物が多量に出土している(図32-調査1)¹⁾。北隣でも平成元年に平安京発掘調査団が発掘調査を実施している(同-調査2)が、報告書未刊であり詳細は不明である。試掘調査は平成28年度に当該地の北側で、平成26年度に南側で、それぞれ実施しているが、いずれも西大宮川によると考えられる氾濫堆積を確認したにとどまっている。

今回の調査は、平成28年11月24日から11月29日に実施した。

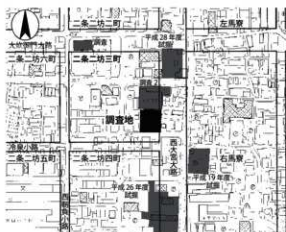
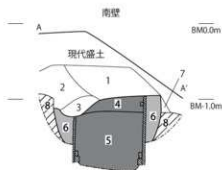


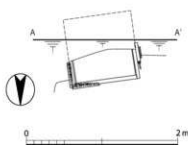
図32 調査位置図 (1:5,000)



図33 遺構位置図 (1:1,000)



- 1 10YR4/1 褐灰色泥砂
- 2 10YR4/1 褐灰色砂泥
- 3 2.5Y3/1 黒褐色泥砂(礫混)
- 4 2.5Y2/1 黒色シルト(礫大の礫、土器、瓦多量含む)【井戸埋土】



- 5 10YR2/1 黒色泥砂(礫大の礫、土器、瓦、木片多量含む)【井戸埋土】
- 6 2.5Y3/2 黒褐色粗砂(礫混)【井戸壁方】
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
- 8 7.5Y6/1 灰色砂礫(地山)

図34 遺構断面図・平面図 (1:50)

2 層序と遺構(図34～36)

今回の調査では5箇所で断面観察を行った。その結果、平安時代中期の遺物包含層、整地層やピット、土坑、井戸などの遺構を検出した。検出状況が極めて良好であった対象地中央南寄りで見出した№5地点の井戸を報告する。井戸検出箇所では、現地表面下0.45mまでの現代盛土、0.8mまでの褐灰色泥砂・砂泥層が確認でき、この下面が遺構面となる。この井戸は、掘削の壁面で検出し、上半が半蔵されている状況であった。方形の木枠が遺存しており、井戸枠内から土器・陶磁器の他、木製品を含む鎌倉時代の遺物が出土した。井戸は検出面から1.0m程度掘り下げ、木枠の最下部までは確認したが、底部の曲物等は確認していない。平面的に両端を検出できた北辺は0.9m程度である。井戸枠内には黒色の土が堆積し、掘削底付近で砂礫層に変わる。掘方は井戸枠から0.2～0.3mで、礫混じりの粗砂が堆積していた。上述したように、南北の試掘で、西大宮川の影響を確認しているが、今回の調査地では氾濫堆積は認められなかった。

3 遺物(図37)

井戸枠内から出土した遺物を報告する。1～5は図34-4層(井戸枠内上層)出土遺物である。1～3は土師器皿Sで、1は底部がわずかに押し上げられている。4は東播系須恵器こね鉢、5は剣頭文の軒平瓦である。6～8は5層(井戸枠内下層)出土遺物である。6は瓦器鍋で、外面はユビオサエ、内面はハケメ調整である。7は木製品で、農具類のような形態であるが、柄が付いた痕跡はなく、用途は不明である。8は758年初鑄の唐銭「乾元重宝」である。井戸から出土した遺物は、土師器皿の形態からⅦ期古段階(13世紀後葉)頃に帰属するものと考えられるが、細片で図化できない遺物の中に少し新しい様相の土師器皿が含まれており、遺構の存続時期は13世紀後葉から14世紀初め頃まで幅を持たせて考えたい。9は井戸付近で表面採集した白磁碗で、太宰府分類Ⅳ類である²⁾。井戸に伴うものかどうかは不明である。



図35 井戸断面(北から)



図36 井戸掘削状況(北から)

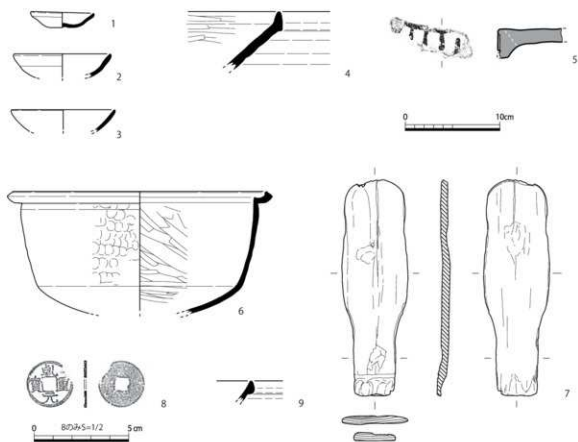


図37 出土遺物実測図（1：4、8のみ1：2）

4 まとめ

今回の調査では、鎌倉時代の井戸を非常に良好な状態で検出した。調査地に接する西大宮大路の東側は平安宮域となるが、鎌倉時代以降は荒廃が進んでいき、右京城の衰退も進む。図32-調査1地点では、鎌倉時代以後の建物、井戸、溝、土坑などを検出しており、今回の調査成果も合わせると、右京二条二坊域では鎌倉時代にも活発な土地利用がされていたと考えられる。個々の成果を積み重ねることで、平安宮および右京城の荒廃・衰退の具体相にも迫ることができるであろう。

（新田和央）

註

- 1) 辻裕司「右京二条二坊(2)」『平安京跡発掘調査概報』昭和56年度、京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所、1982年。
辻裕司「右京二条二坊(2)」『京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』昭和56年度、(財)京都市埋蔵文化財研究所、1983年。
- 2) 太宰府市教育委員会「大宰府条坊跡XV」太宰府市の文化財第49集、2000年。

Ⅲ-3 平安京右京三条二坊二町跡 (16H462)

1 調査の経緯

本件は、中京区西ノ京銅駝町における簡易宿所新築に伴う詳細分布調査である。調査地は、平安京右京三条二坊二町跡に該当する。文献史料等による居住者や伝領関係は詳らかではない。調査地周辺ではこれまでに4度の発掘調査が実施され、いずれも平安時代前期から中期の掘立柱建物跡や池跡、泉跡などを検出しており、平安時代の遺構が良好に遺存していることが分かっている。特に、天神通を挟んだ西側で、平成25年に国際文化財株式会社が発掘調査を実施し



図38 調査位置図 (1:5,000)

しており、西朝負小路西側溝や複数の掘立柱建物が平安時代前期から中期にかけて展開していたことが明らかとなっている(調査4)¹⁾。今回の調査は、平成28年11月22日から12月14日にかけて実施し、西朝負小路東築地内溝を検出した。この溝跡を中心に報告する。

2 層序と遺構・遺物

今回の調査では、平面と断面での調査を計7箇所で行い、盛土および旧耕土・床土下面のGL-0.8m前後で黒褐色粘質シルトおよび暗灰黄色細砂を埋土とする溝跡を検出した。深さは0.2m、検出幅は0.7m前後だが、上部を削平されており、本来の規模よりも小さい可能性が高い。平安時代前期から中期の遺物が出土している。1・2はB断面3層、3はB断面4層から出土してお



図39 遺構位置図 (1:500)

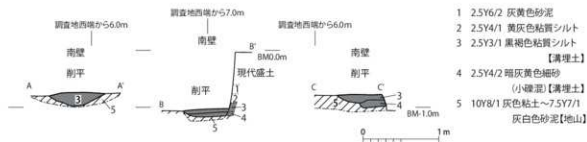


図40 遺構断面図 (1:50)

- 1 2.5Y6/2 灰黄色砂泥
 - 2 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
 - 3 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト
 - 4 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂
 - 5 10Y8/1 灰色粘土~7.5Y7/1 灰白色砂泥【地山】
- 【溝埋土】
【小礫混】
【溝埋土】

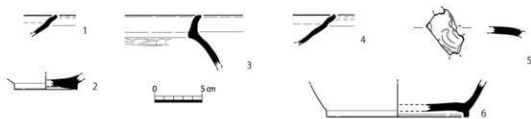


図41 出土遺物実測図(1:4)

り、1は土師器杯で京都Ⅲ期古段階(10世紀中頃)である。2は緑陶陶器の底部で、削り出しの蛇の目高台で、軟質である。平安京近郊産であろう。3は土師器甕である。外面には煤が付着している。4はC断面3層から出土した土師器杯で京都Ⅲ期古段階である。5・6はA断面3層から出土しており、5は緑陶陶器香炉の蓋で、猿投産の可能性が高い。6は須恵器の杯である。

3 まとめ

検出した溝はその位置から、西鞠負小路東築地内溝と考えられる。図38-調査4では、試掘調査時に西鞠負小路西側溝を検出しており(発掘調査時には調査範囲外)、西鞠負小路の東西両端を検出できたことになる。また、この調査時には複数の建物遺構の他、池跡等も検出しているが、今回の調査では調査条件の制約により、溝跡以外の遺構は検出できていない。本来は西側と同様に活発な宅地利用がなされたものと考えられる。調査地周辺は平安時代の遺跡の遺存状況が良好であることが、今回を含む複数の調査成果より明らかであり、今後の調査でより具体的な土地利用の変遷が判明すると考えられる。

(新田和央)



図42 内溝検出状況(南から)

註

- 1) 周辺調査の発掘調査報告書は以下のとおりである。なお、番号は図38の調査番号と一致する。
- 1: 近藤知子『京都市内遺跡発掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局, 2004年。
- 2: 平尾政幸『右京三条二坊』『昭和56年度 京都市埋蔵文化相調査概要(発掘調査編)』財団法人京都市埋蔵文化財研究所, 1983年。
- 3: 辻裕司『平安京右京三条二坊1』『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所, 1994年。
- 4: 百瀬正恒ほか『平安京右京三条二坊七町跡・西ノ京遺跡発掘調査報告書』国際文化財株式会社, 2015年。

Ⅲ-4 平安京右京四条三坊十三町跡・ 山ノ内遺跡・西院城跡（16H160）

1 調査経過（図43・44）

調査地は、四条通と西小路通の交差点より北西に位置する。平安京右京四条三坊十三町の東半部にあり、四行八門制では北五門、西四行の区画に該当する。この地点で共同住宅の新築が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

この町域は、隣接する四条三坊十二町とともに淳和院の所領地と推測されているが、関連する明確な遺構は、現時点では確認されていない。平安時代後期になると、耕地化により西院小泉庄が成立し、この小泉庄を地盤とする小泉氏が西院城（小泉城）を築いた。

この西院小泉城は、西大路市場の西北にあったと推測されているが、正確な位置は不明である（『山城名勝志』）。小泉城は室町時代まで存続し、天文19年（1550）におこった細川晴元と三好長慶の争乱時には主要な陣として機能した。翌々年（1552）、城主である小泉秀清が自ら城を焼いて破却し、その規模は徐々に縮小した（『言継卿記』）。城の建物位置は明らかではないが、上杉本『洛中洛外図屏風』にその姿が描かれていることから、少なくとも安土桃山時代までは西院城が当該地付近に存在したことは確実視される。

なお今回の調査地付近では、これまでも調査が複数実施されている。平成7年度に調査地の北側で行われた試掘調査（図43-調査1）¹⁾では、GL-0.3mの深度において掘立柱建物や溝を有する平安時代の遺構面を確認した。また、その西側の区画で行われた試掘調査（同調査2）²⁾では、GL-1.0mの深度において平安時代に遡る可能性がある土坑が6基確認されている。このほか、調査地より150m程度南東の区画では昨年度に詳細分布調査（同調査3）³⁾が行われ、西院城の破却を想起させるような人為的に埋め戻された溝と落込みが確認されている。



図43 調査位置図（1：5,000）



図44 遺構位置図（1：500）



図45 調査断面図(1:50)



図46 断面検出状況

2 層序と遺構(図45)

今回の調査では、3箇所において断面観察を行った。このうち明確な遺構を確認したのはNo.3地点である。GL-0.8mまで盛土及び洪水層、近世耕作土層があり、GL-0.93mまで中世包含層が存在する。その直下に礫混じり黄褐色泥砂を主体とする地山があり、中世包含層上面と地山上面の計2面において成立する遺構を確認した。このうち、上層遺構であるピット1からは桃山期の焼締陶器播鉢が1点出土した。また下層遺構であるピット2からは鎌倉～室町の土師器皿が出土した。このため、ピット1は中世末期～近世初頭、柱穴2は中世の遺構と認識される。

また、ピット2の底面には角礫を用いた礎石が据えられていたことから、建物を構成する柱穴のひとつであると解釈される。このNo.3地点は、No.1・2地点と比べて地山の検出レベルが0.5m以上も高いため、居住地として利用されたと考えられる。

3 まとめ

今回の調査では、中世及び中世末期～近世初頭の遺構面を確認した。既往の調査成果より、この付近では西へ向かってなだらかに下がる旧地形があり、今回の調査地は、その先端にあたる部分と考えられる。ここに西院城が存在したとされる鎌倉～室町時代の遺構を確認したことは、西院城の建物範囲を復元する上で注目される成果である。

なお、今回の調査では平安時代に遡る明確な遺構は確認できなかったが、中世包含層内には平安時代に遡る土師器や須恵器の破片が一定量含まれていたことから、近隣に遺構が存在する可能性は十分に考えられる。
(黒須亜希子)

註

- 1) 馬瀬智光「Ⅲ 平安京右京四条三坊十三町跡 No.41」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度』京都市文化市民局、1995年。
- 2) 京都市文化市民局「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』京都市文化市民局、2016年。
- 3) 黒須亜希子「Ⅲ-2 平安京右京四条三坊十二町跡・西院城(小泉城)跡」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局、2016年。

Ⅲ-5 平安京右京九条一坊十四町跡・ 史跡西寺跡・唐橋遺跡 (27N097)

1 調査経過と調査事例 (図47・48)

本件は電柱取り替え工事に伴う詳細分布調査である。調査地は西寺児童公園の北西側で、平安京右京九条一坊十四町跡(史跡西寺跡)及び唐橋遺跡にあたる。調査地周辺は西寺食堂院跡の北側にあたり、調査地南隣で、大炊殿に関連する礎石の根石と雨落ち溝を検出している¹⁾。北側調査地では2棟の礎石立建物、築地、井戸などを検出している²⁾。なお、西寺跡で行われた詳細分布調査事例については表3にまとめた。調査は、掘削工事にともない平成28年5月31日に実施した。調査の結果、遺物包含層(多量の瓦を含む)を確認した。

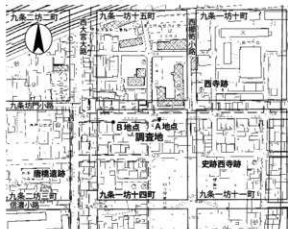


図47 調査位置図 (1 : 5,000)

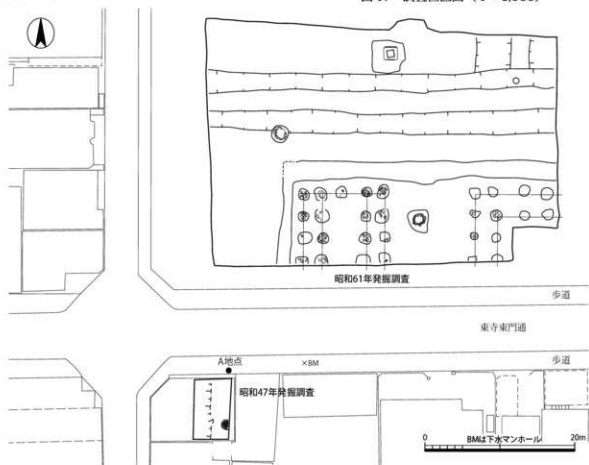
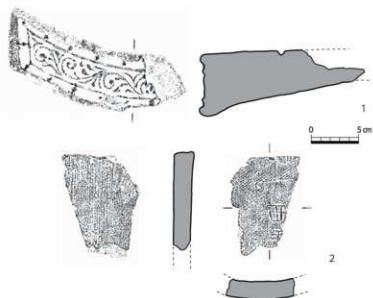
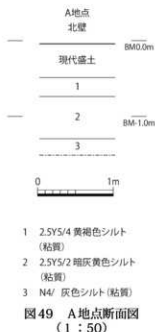


図48 遺構検出地点位置図 (1 : 1,000)



2 層序と遺構 (図49)

A地点の層序は、盛土直下のGL-0.45mにて黄褐色シルト（粘性強い）、-0.9mで暗灰黄色シルト（遺物包含層）、-1.26mで灰色シルト（湿地状堆積）となる。工事掘削範囲が約1m×1mの小規模であり安全面を考慮したことから十分な断面観察が実施できなかった。

3 遺物 (図50)

図49-2層からコンテナ1箱分の瓦が出土した。特徴的な軒平瓦・平瓦について報告する。軒平瓦（1）は均整唐草文で中心飾に対葉花文を配し、唐草が左右に3回反転する。瓦当部凹面横ナデ、頸部から平瓦部凸面にかけて不定方向のケズリ、平瓦凹面は布目を残す。胎土は多量の砂粒を含み、焼成は硬質で色調は灰色を呈す。平瓦（2）は凸面縄叩き、凹面は布目と「西」印が残る。胎土は多量の砂粒を含む、焼成は硬質で色調は灰白色を呈す。いずれも平安時代前期の瓦類である。

4 まとめ

工事掘削範囲が狭小であったことから、本調査で大炊殿に関連する遺構を確認することが出来なかった。しかし、コンテナ1箱分の瓦類が出土したことから、周辺に瓦葺の堂宇があった可能性が高い。ただし、北側の発掘調査では現地表面から非常に浅い位置で、礎石建物跡や井戸跡を検出しているが²³本調査では現地表面から-1.26m掘削しても地山を確認することが出来ておらず、堆積土も湿地に近い粘性の強いシルトである。このようなことから、調査地周辺には落ち込みのようなものが成立している可能性があり、遺物を含む堆積層は整地とも考えることが出来る。周辺調査でも西寺造営に伴う整地層を検出しており、これらに関わる可能性が考えられる。

今後の調査によって解明されることを期待したい。

(鈴木久史)

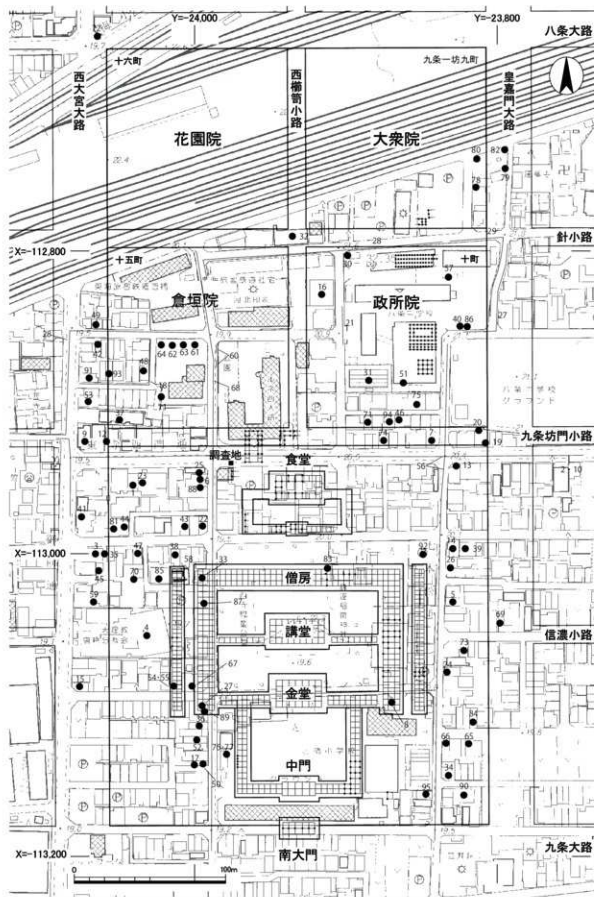


図51 詳細分布調査地点図 (1 : 2,500)

表3 西寺跡詳細分布調査一覧

No	推定地	住所	調査組織	成果	文献No
1	境内	唐橋西寺町 35-6	理文研	遺構・遺物なし。	1
2	境内	唐橋西寺町 32 地先～高田町地先	理文研	西部：GL 0.4 m で旧流路（古墳時代後期の遺物を含む）。中央部：GL 0.7 m 前後で平安時代の土坑。土師器・須恵器・緑釉陶器・軒瓦・緑釉平瓦などが出土。	2
3	西大宮大路	唐橋西寺町 33	理文研	調査未出ず。	2
4	境内	唐橋西寺町 30	理文研	南部：GL 0.45 ～ 0.9 m で平安時代中期の遺構面を検出。土坑 1 基を確認。中央部は GL 0.4 m で凝灰岩を据えた柱穴 1 基を確認。	2
5	境内	唐橋花園町 17	理文研	遺構・遺物なし。	3
6	境内	唐橋西寺町 38	理文研	盛土のみ。	3
7	境内	唐橋門脇町 77	理文研	盛土のみ。	3
8	東前坊	唐橋西寺町（唐橋小）	理文研	GL 0.5 m で西寺焼亡を示す礎石層を確認。	4
9	西大宮大路	唐橋門脇町 4	理文研	GL 1.2 m で平安時代中期の包含層。室町時代の井戸を 1 基確認。	4
10	境内・西大宮大路	東寺御前～御土居他	理文研	遺構・遺物なし。	4
11	十五町	唐橋門脇町 5-5	理文研	遺構・遺物なし。	4
12	境内	唐橋門脇町 4-8	理文研	GL 0.6 m 平安時代中期の遺物包含層と土坑 4 基検出。	4
13	皇宮門大路	唐橋花園町 18-19	理文研	GL 0.5 m で土師器・須恵器・動物遺体を確認。	4
14	境内	唐橋花園町 32	理文研	盛土のみ。	4
15	西大宮大路	唐橋西寺町 26	理文研	盛土のみ。	4
16	十町	唐橋門脇町 28	理文研	GL 0.17 m で室町時代、下層で古墳時代の土坑を確認。	4
17	境内	唐橋西寺町 5	理文研	耕作土のみ。	5
18	十五町	唐橋門脇町地先	理文研	遺構・遺物なし。	6
19	十町	唐橋井園町 3-2	理文研	GL 0.28 m 以下時期不明の包含層 3。	7
20	十町	唐橋門脇町 35（八条中）	理文研	盛土のみ。	7
21	十町	唐橋門脇町 35（八条中）	理文研	遺構・遺物なし。	8
22	境内	唐橋西寺町 34	理文研	遺構・遺物なし。	8
23	境内	唐橋西寺町 35-7	理文研	GL 0.32 m で平安時代の包含層。	9
24	境内	唐橋花園町 9-6	理文研	GL 0.17 m で平安時代前期の包含層。	9
25	境内	唐橋西寺町 38	理文研	GL 0.3 m で平安時代中期の土坑。	10
26	境内	唐橋花園町 18	理文研	GL 0.2 m 以下江戸時代。平安時代包含層。	10
27	境内	唐橋西寺町 9	理文研	遺構・遺物なし。	10
28	西大宮大路	唐橋平知町地先	理文研	GL 0.06 m 以下、古墳時代・平安時代の遺物包含層。平安時代前期の土坑。時期不明の大宮大路東側溝。	11
29	境内	唐橋門脇町 38	理文研	GL 0.47 m 以下、平安時代整地層。平安時代中期の包含層。	11
30	十町	唐橋門脇町 35	理文研	遺構・遺物なし。	12
31	十町	唐橋門脇町 35（八条中）	理文研	遺構・遺物なし。	12
32	針小路	唐橋門脇町 37	理文研	遺構・遺物なし。	12
33	西前坊	唐橋西寺町 38	理文研	遺構・遺物なし。	12
34	境内	唐橋花園町 4-4	理文研	巡回時工事終了。	13
35	西大宮大路	唐橋西寺町 33-2	理文研	廢土から布目瓦。	14
36	境内	唐橋西寺町 1	理文研	GL 0.2 m で包含層。	14
37	十五町	唐橋門脇町 4-1	理文研	GL 1.3 m 以下で古墳時代の遺物を含む流路。	14
38	境内	唐橋西寺町 33-5	理文研	GL 0.06 m で平安時代の遺物包含層。	15
39	境内	唐橋花園町 18-42	理文研	GL 0.4 m まで現代盛土。	15
40	十町	唐橋門脇町 35（八条中）	理文研	GL 0.7 m で包含層。0.95 m 以下灰色砂泥の無遺物層。	16
41	西大宮大路	唐橋西寺町 36	理文研	GL 0.52 m 以下で時期不明の西大宮大路路面。0.92 m で古墳時代の遺物を含む埋地層。以下善土時代の遺物を含む流れ堆積。	16
42	西大宮大路	唐橋門脇町 5-17	理文研	GL 1.26 m で室町時代以降の包含層。	16
43	境内	唐橋西寺町 34	理文研	GL 0.15 m で併作関連と思われる畦状遺構。	16
44	境内	唐橋西寺町 32	理文研	GL 0.05 m まで現代盛土。	16
45	西大宮大路	唐橋西寺町 32	理文研	GL 0.05 m まで現代盛土。	16
46	十町	唐橋門脇町 36-19	理文研	GL 0.2 m まで盛土。	16
47	境内	唐橋西寺町 33-8	理文研	GL 0.2 m まで盛土。	16
48	十五町	唐橋門脇町 5-7	理文研	GL 0.78 m で鎌倉の整地層。	17
49	西大宮大路	唐橋門脇町 10	理文研	GL 0.25 m で平安前期の包含層（土師器・軒瓦）。	17
50	境内	唐橋西寺町 5	理文研	GL 0.28 m まで現代盛土。	17
51	十町	唐橋門脇町 30	理文研	掘削工事なし。	17
52	十三町	唐橋西寺町 3	理文研	表探で平安時代の軒平瓦 2。	18
53	西大宮大路	唐橋門脇町 5	理文研	GL 0.15m 以下、近世以降の包含層。	18
54	境内	唐橋西寺町 20-1	理文研	遺構・遺物なし。	18
55	境内	唐橋西寺町 20-2	理文研	遺構・遺物なし。	18
56	十、十五町、境内	八条通～九条通、御前通～新千本通地内	理文研	No 1：GL 0.42m で時期不明包含層。0.52m で平安時代包含層。0.97m で古墳時代包含層。No 2：表探で「右為」刻印平瓦。No 18：0.6m 平安時代中期包含層。	19
57	十町	唐橋門脇町 35（八条中）	理文研	GL 0.5 ～ 0.6m で平安時代包含層。	19
58	西小寺房	唐橋門脇町 34	理文研	GL 0.3m で西寺期の瓦割塼。平安中期の溝。井戸。土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・金属製品・瓦等。	19

No	推定地	住所	調査組織	成果	文献No
59	西大宮大路	唐橋西寺町 31.32-1・2	理文研	遺構・遺物なし。	20
60	十五町	唐橋門脇地先	理文研	No 1: GL.0.44m で平安時代前期包含層, No 2: -0.43m で平安時代前期の落ち込み。	20
61	十五町	唐橋門脇町 6-5	理文研	GL.0.42m で時期不明包含層。	20
62	十五町	唐橋門脇町 6-3	理文研	遺構・遺物なし。	20
63	十五町	唐橋門脇町 6-4	理文研	遺構・遺物なし。	20
64	十五町	唐橋門脇町 6-2	理文研	GL.0.35m で平安時代包含層, 0.6m 以下, 黄灰色砂礫の地山。須恵器出土。	20
65	境内	唐橋花園町 4-14	理文研	GL.0.25m 以下, 流れ堆積。	20
66	境内	唐橋花園町 4-2	理文研	遺構・遺物なし。	20
67	境内	唐橋西寺町 18	理文研	遺構・遺物なし。	21
68	十五町・境内	唐橋西寺町地内	理文研	GL.0.14 ~ 0.23m で平安時代包含層。須恵器・平瓦出土。	21
69	皇極門大路	唐橋花園町 16の一部	理文研	遺構・遺物なし。	22
70	境内	唐橋西寺町 29-2	理文研	GL.0.3m で時期不明包含層。土師器・不明土製品が出土。	22
71	十町	唐橋門脇町 36-5	理文研	GL.0.33 m で平安時代末期包含層。土師器・須恵器・瓦が出土。	22
72	西大宮大路	下・梅小路西中町地内	理文研	No 2: GL.1.9 m 以下, オリブ褐色砂礫の地山。	22
73	境内	唐橋花園町 9-17	理文研	遺構・遺物なし。	23
74	境内	唐橋門脇町 40	理文研	GL.0.58 m 以下, 褐色砂礫の地山。	24
75	十町	唐橋門脇町 36-12	理文研	GL.0.15 m で平安時代包含層。土師器・須恵器・瓦。	25
76	境内	唐橋西寺町 69	理文研	遺構・遺物無し。	25
77	境内	唐橋西寺町 69	理文研	盛土のみ。	25
78	九町	唐橋井園町 29-5	理文研	巡回時工事終了。	26
79	九町	唐橋井園町 29-6	理文研	遺構・遺物無し。	26
80	九町	唐橋井園町 29-1	理文研	遺構・遺物無し。	26
81	境内	唐橋西寺町 35-13	理文研	GL.0.2 m で時期不明の包含層, -0.25m で平安時代包含層。	26
82	九町	唐橋井園町 29-4	理文研	盛土のみ。	26
83	境内	唐橋西寺町 57	理文研	北側坊礎石抜き取り穴・2基, 基礎南縁, 柱穴等。	27
84	境内	唐橋花園町 9-12	理文研	GL.0.32 m で西寺地層とされるに黄褐色砂礫。	26
85	境内	唐橋西寺町 29-1	理文研	巡回時工事終了。	28
86	十町	唐橋門脇町 35-前	理文研	盛土のみ。	28
87	境内	唐橋西寺町 29-6	理文研	遺構・遺物無し。	28
88	境内	唐橋西寺町 35-2	理文研	盛土のみ。	28
89	境内	唐橋西寺町 16	理文研	GL.0.37 m で平安後期～鎌倉包含層。	29
90	境内	唐橋花園町 4-1	理文研	GL.0.43m 以下, 黄褐色砂礫の地山。	30
91	西大宮大路	唐橋門脇町 5-20	理文研	近世包含層のみ。	30
92	境内	唐橋西寺町 58-1	保護課	盛土のみ。	31
93	境内	唐橋門脇町 5-30, -48	保護課	No 1: 盛土以下, GL.0.24m で灰黄褐色泥砂の時期不明整地層 No 2: 盛土, 旧耕土以下, GL.0.30 m 以下, 黄褐色砂礫の時期不明包含層。	32
94	十町	唐橋門脇町 36-17	保護課	盛土以下, GL.0.12 m で暗オリーブ褐色粗砂礫粘土シルトの古墳後期～飛鳥時代包含層。	32
95	境内	唐橋西寺町 67	保護課	盛土のみ。	32

凡例 理文研: (公財)京都市埋蔵文化財研究所 保護課; 京都市文化財保護課

文献

- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報昭和54年度』京都市文化観光局 1980年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター 1981年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和56年度』京都市文化観光局 1982年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和63年度』京都市文化観光局 1989年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内試掘立会調査概報平成元年』京都市文化観光局 1990年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成3年度』京都市文化観光局 1992年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成5年度』京都市文化観光局 1994年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成6年度』京都市文化観光局 1995年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成7年度』京都市文化市民局 1996年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成8年度』京都市文化市民局 1997年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成9年度』京都市文化市民局 1998年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成10年度』京都市文化市民局 1999年
- (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成11年度』京都市文化市民局 2000年

- 19 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成12年度』京都市文化市民局 2001年
- 20 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成13年度』京都市文化市民局 2002年
- 21 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報平成16年度』京都市文化市民局 2005年
- 22 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査報告平成17年度』京都市文化市民局 2006年
- 23 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査報告平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 24 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡立会調査報告平成20年度』京都市文化市民局 2009年
- 25 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成21年度』京都市文化市民局 2010年
- 26 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡試験調査報告平成22年度』京都市文化市民局 2011年
- 27 堀大輔「4 平安京右京九条一坊十一町跡・史跡西寺跡」『京都市内遺跡試験調査報告平成22年度』京都市文化市民局 2011年
- 28 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成23年度』京都市文化市民局 2012年
- 29 (財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 30 (公財)京都市埋蔵文化財研究所「一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成25年度』京都市文化市民局 2014年
- 31 京都市文化財保護課「一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成26年度』京都市文化市民局 2015年
- 32 京都市文化財保護課「一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成27年度』京都市文化市民局 2016年

註

- 1) 鳥羽離宮跡調査研究所『史跡西寺跡』鳥羽離宮調査研究所, 1979年。
- 2) 財団法人京都市埋蔵文化財研究所「平安京右京九条一坊1」『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所, 1989年。
- 3) 註2報告書には断面図等が掲載されておらず、遺構面までの正確な深度が明らかではない。しかし、遺構全景写真を見る限り、アスファルト舗装直下で礎石が確認されている。

IV-1 上京遺跡・寺ノ内旧域 (15S714)

1 調査の経緯 (図52・53)

本件は、興聖寺瑞雲院復興工事にともなう調査である。調査地は堀川通寺之内上ル二丁目上天神町に所在する興聖寺内に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である上京遺跡に該当する。

興聖寺は臨済宗興聖寺派の本山で、文禄年間(1592-1595)に虚応円耳が大昭庵を開き、慶長8年(1603)に吉田重然(織部)により虚応円耳を開山として寺名を改めたとされる。のちには後水尾天皇の勅願所ともなる。曾我蕭白の菩提寺としても知られ、重要文化財寒山拾得図などを所蔵している。

当該地は上京遺跡北端部に該当し、上京の構えの北に位置する。周辺では調査がほとんど行われておらず、詳細は不明な点も多い。

今回は寺域の北東部に復興される瑞雲院の基礎工事にともなう調査で、平成28年3月23日に実施した。断面および平面にて遺構検出を行った結果、現地表下-0.8mで室町時代の溝、土坑などの遺構を確認した。なお、今回工事による掘削は遺構面よりも高く、遺構は現地に保存されている。

2 層序と遺構 (図54・55)

層序はGL-0.4mまで現代盛土、-0.8mまで暗褐色砂泥、以下は褐色シルトからなる地山であった。地山上面で溝、土坑などを検出した。

溝1 東西方向にのびる溝で調査区の東端で折れをもつ。今回の調査では、北肩を検出した。遺構の深さは検出面から0.7m以上で埋土は黒褐色



図52 調査位置図 (1 : 5,000)

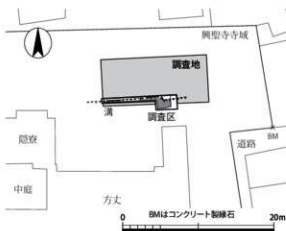


図53 調査区配置図 (1 : 500)



図54 溝1 検出状況 (東から)

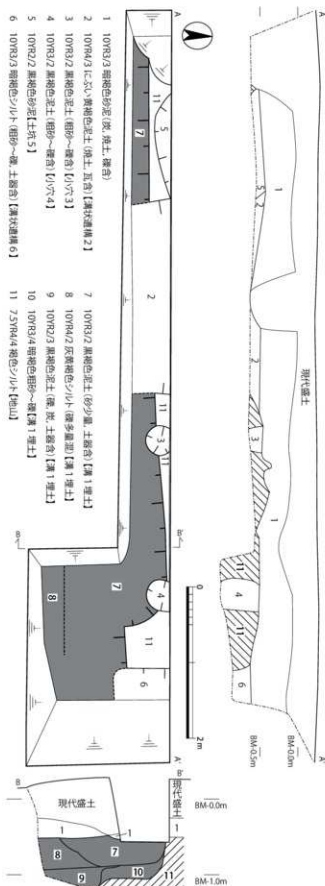


図55 遺構平面・断面図(1:50)

泥土、暗褐色粗砂～礫であった。この溝から土師器が多量に出土した。

溝状遺構2 溝1を切る遺構である。調査区の幅が狭いため遺構の性格は不明だが直線的な肩を呈するため溝と仮定する。検出した幅は2.5m、埋土はにぶい黄褐色泥土である。焼土、瓦を含む。

小穴3 溝1を切る遺構で直径0.4m、埋土は黒褐色泥土である。

小穴4 溝1を切る遺構で直径0.4m、埋土は黒褐色泥土である。小穴3と組み合わせる可能性もある。

土坑5 調査区の北西端で検出した土坑である。一部のみの検出のため規模は不明である。埋土は黒褐色砂泥である。

溝状遺構6 調査区の北東端で、南北方向に西肩を約0.6mにわたって検出した。溝1と接するが、切り合い関係は確認できなかった。埋土は暗褐色シルトである。

3 遺物(図56)

溝1から土師器皿、瓦器羽釜、青磁碗、ミニチュア土製品などの遺物が出土した。1～4は土師器皿Nで口径は6.8～9.0cmである。5～25は土師器皿Sで、8.6～10.0cm、10.8～11.6cm、12.8～14.0cm、14.8～15.0cmの4法量がある。26は土師器壺のミニチュア土製品である。27は焼締陶器播鉢で、信楽焼である。焼成が悪く、軟質である。28は瓦器羽釜、29は青磁碗である。15世紀末～16世紀前半のものと考えられる。

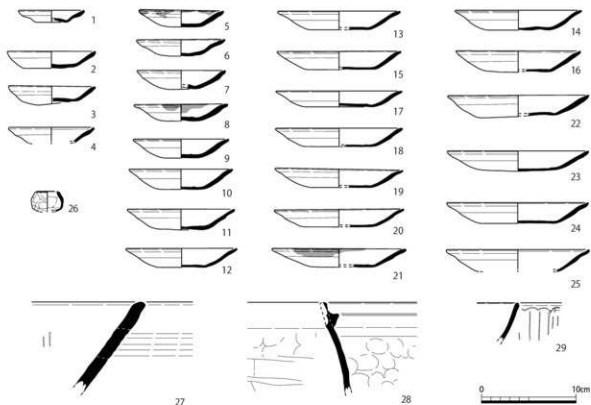


図56 溝1出土遺物実測図(1:4)

4 まとめ

今回の調査では、上京遺跡の北端に位置する興聖寺敷地内で室町時代の遺構を確認することができた。遺構の時期は、興聖寺およびその基礎となった小庵が開かれた16世紀末よりもほぼ100年ほど古い。上京遺跡一帯は室町時代に、将軍家や幕府重臣が屋敷を構えていた地域である。応仁の乱以降は守護の在国化が進んだが、今回検出した遺構はこの応仁の乱以後に比定できる。守護の在国化が進んでもなお、上京一帯は消費活動が継続されていることが、今回の成果からは明確となる。確実に興聖寺にかかわる遺構は検出できていないが、上述したような歴史的素地の上に興聖寺が開かれる。今後の調査で、興聖寺創建にかかわる遺構の検出が期待される。

(赤松佳奈・新田和央)

参考文献

竹貫元勝『京都の禪寺散歩』雄山閣、1984年。

IV-2 尊重寺跡 (16S062)

1 調査の経緯 (図57・58)

本件は、共同住宅建築にともなう調査である。所在地は上京区五辻通千本東入桐木町に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である尊重寺跡に該当する。

尊重寺は平安時代中期の官人である平親信が京都五辻に建立したといわれる氏寺である。廃絶後、本尊は平親範（平安時代末から鎌倉時代前期の公卿）によって大原に移された。最終的に親範は平家ゆかりの寺である平等寺・尊重寺・護法寺を合併して、上京区の出雲路に毘沙門堂を造営したといわれる。

本遺跡内では発掘調査などが行われておらず、尊重寺に関する遺構・遺物はこれまでのところ発見されていない。調査は平成28年7月14日に実施した。今回の工事では柱状改良を行うことから、施工前に遺構確認のための掘削を行い、GL-0.4mで、中世の遺物を含む土坑を2基検出した。遺物は細片であるが、本遺跡内で初めて調査により遺構を確認したため、これを報告する。

2 層序と遺構 (図60)

調査区は調査対象地の一部に設定した。確認できた土層の大部分が現代の造成によって攪乱されていたが、GL-0.5m～1.0mで、部分的に、土坑、遺物を含む包含層、地山を確認した。旧地形は西が低く東が高くなっており、西端ではGL-0.5mでふい黄褐色砂泥、GL-0.8mでふい黄褐色シルト～粗砂からなる土坑を確認し、東端ではGL-0.4mで暗灰黄色砂泥、GL-0.7mで明黄褐



図57 調査位置図 (1 : 5,000)

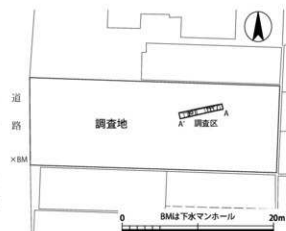
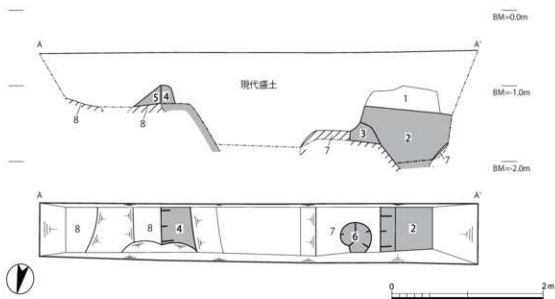


図58 調査区配置図 (1 : 500)



図59 南壁面西側断面 (北西から)



- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 10YR4/3 にふい黄褐色砂泥(礫混,炭化物含) | 5 2.5YR4/2 暗灰黄色泥砂(土器片含) |
| 2 10YR5/4 にふい黄褐色シルト～粗砂(礫混,土器片含)【土坑】 | 6 10Y5/4 にふい黄褐色シルト(礫大礫多量混)【土坑】 |
| 3 2.5Y5/4 黄褐色シルト～細砂 | 7 2.5Y7/6 明黄褐色シルト～粗砂(下層砂礫)【地山】 |
| 4 2.5YR4/2 暗灰黄色砂泥(礫多量混,土器片含)【土坑】 | 8 2.5Y6/6 明黄褐色細砂【地山】 |

図60 遺構平面・断面図(1:50)

色粗砂からなる地山を検出した。

遺構は土坑が2基、小穴が1基検出された。このうち2基の土坑(図60-2・4)から細片ではあるが鎌倉時代の土師器が出土した。トレンチが狭小のため遺構の大きさは不明である。土坑2(図60-2)は溝の可能性もある。

3 まとめ

今回の調査で検出された遺構は、尊重寺跡内ではじめて確認された遺構である。尊重寺は平安時代末から鎌倉時代には廃絶していた可能性が高いが、それらの前後の時期にはこの地にも人の活動があったことがわかる。本調査地は尊重寺跡の西端に位置するが、地山が東にむかって高くなることを確認できたことから、遺跡中心域から、将来的に尊重寺に関連する遺構が確認されるかもしれない。

(赤松佳奈)

参考文献

角田文衛監修『平安時代史事典』上・下、財団法人古代学協会・古代学研究所、1994年。



図61 調査区全景(南西から)

IV-3 大塚・小山石切丁場跡（16A003）

1 調査の概要

京都市内に所在する聚楽第、伏見・二条・淀城といった中世末～近世初期の石垣城郭が近年の発掘調査などでその詳細が判明しつつある。伏見城では、三の丸南辺から四の丸にかけての石垣材が宮内庁に調査され、現地に展示されている。その西側の御香宮神社にも石垣石材に供したであろう矢穴石や刻印石が集められ、伏見城の石材として認識することができる。伏見城の石垣石材には二条城や淀城に再利用されていたものもある。その中でも、平四つ目結、角立ち四つ目結、一に〇、十といった刻印や一定型式の矢穴を残し、しかも、石種は玄武岩質凝灰岩・花崗斑岩・石英斑岩であれば、京都市山科区大塚・小山の山中に所在する大塚・小山石切丁場跡から切り出された石材であった可能性が強くなる。伏見城は文禄3年（1594）の豊臣秀吉の築城から元和9年（1623）の廃城までの間に大きく4回に及ぶ改築城があったことから、切り出し年代はその期間に併行すると考えられる。その全期間を通して、山科区にある大塚・小山の石切丁場は稼働していたと目される。

今に残る京都市東部の伏見城関連の石切丁場跡は、京都市山科区の行者ヶ森周辺の大塚と、山科音羽川を挟んだ北側に所在している。すなわち、山科盆地の北東の行者ヶ森の山頂上付近から東及び北斜面の大塚と山科音羽川を北に隔てた小山の山裾に刻印と矢穴のある石が分布する一帯をその範囲とする（図62）。その中でも、行者ヶ森北方の東斜面に特に集中している。これは行者ヶ森一帯には御坊ノ内町付近から聴鳴の滝にかけて、剪断された頁岩中にチャートや玄武岩質凝灰岩、砂岩のレンズ状をなす岩体が含まれるが、その内、花崗斑岩は聴鳴の滝を越えた部分から音羽の



図62 刻印石の分布と地区（1：40,000）

の南方から北方にかけて分布し、尾根の西側では斑晶が顕著な石英斑岩となる露頭部分があり、主に石材はそこから採取されたと推測できるからである。すなわち、行者ヶ森から小山の御坊ノ内町にある白石神社付近北方にかけて、石英斑岩が岩脈として露頭分布する範囲が中心地となる¹⁾。

今回はその供給地であった大塚・小山での石切丁場の実態を把握、確認するために、大塚藪ヶ谷にあるクレター状に残る平場に1本のトレンチ

を設けて、平成28年8月に詳細分布調査を行った（図63）。

2 層序と遺構

クレーター状平場は、刻印石や矢穴石が集中する大塚東群葎ヶ谷A地区の中心から急斜面を北に下った中腹にある。クレーター状のくぼみの周りを囲むようにドーナツ状になった土の盛り上がりもみられる（図64）。現状のこのクレーター状の平場では、大ぶりの自然石が数石あるだけで、矢穴石は1石を確認するのみである。形状の異なった矢穴列（矢穴列A～C）が3列残り（図65）、同一の石を矢で少なくとも3回は切った石材の法量は、長辺が190cm、短辺が105cmの石英斑岩である²⁾。その矢穴石周辺が丘陵を切り崩して平場となっているということになる。

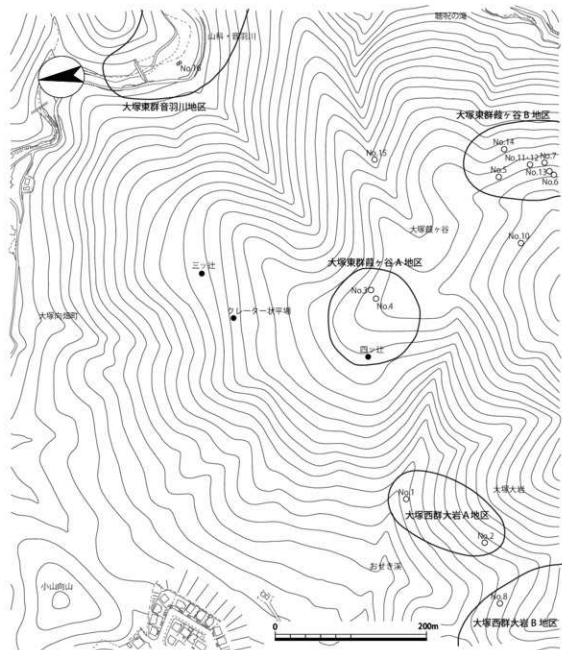


図63 クレーター状平場位置図（1：5,000）

今回の調査では、矢穴石の下部の構造とこの場で何らかの作業が行われていたか、単なる転石としてとどまったのかなどを確認するために、石の東側に沿って南北方向に長いトレンチを設けた。トレンチは、南北に5m、東西に1mの大きさに掘削を開始し、深さは0.95mに達した。当初、矢穴石は0.5～1.0m程の厚さが見込まれたが、石材の側面を検出した結果、厚さは1.17m以上となることが分かった。しかし、石材の下部を確認することはできなかったため、さらに50cmは厚くなると見込まれる。したがって、石材の全体の大きさは160cm程を考えることができる。また、この矢穴石より南へ0.7m程の場所、トレンチの南半部で1.05mの大きさに扁平状の石があることが分かった。さらに、矢穴石の東側へ0.9mの地点では、径約0.6mの土坑も確認することができた。

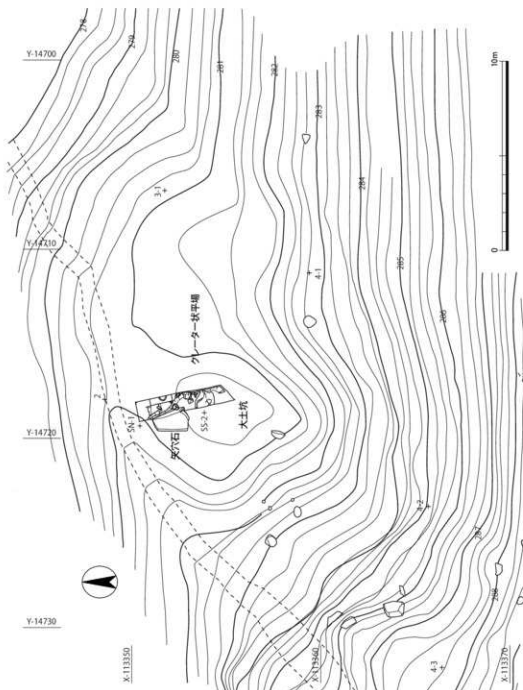


図64 クレーター状平地測量図 (1:200)

この土坑は、第3層の明黄灰色粘質シルト下の面となる埋土で、黒灰色粘質シルトの炭化物まじりのa層と暗茶褐色粘質シルトの黒粒を含むb層が堆積している。

基本層序は、第1層～第8層である。第1～3層は表土及び灰色系の粘質シルトである。調査区

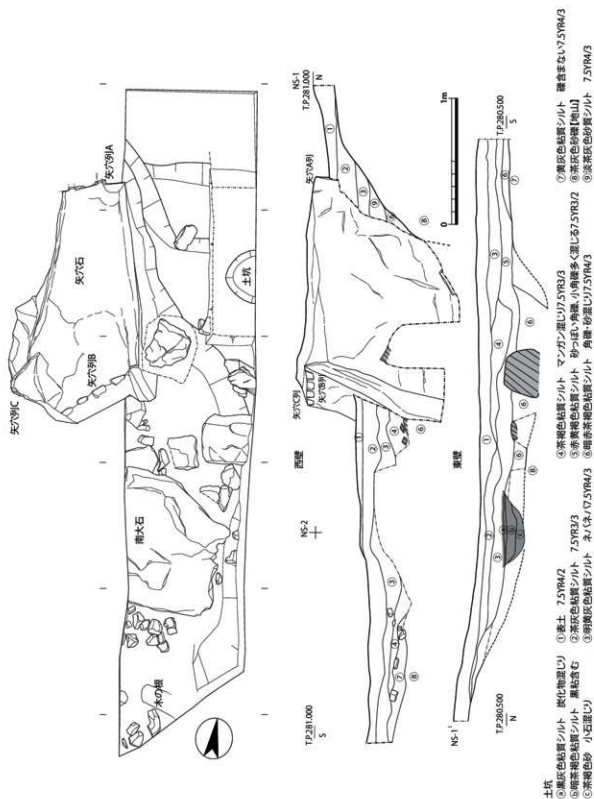


図65 クレーター状平場調査トレンチ平面・断面図 (1:30)

北端から1m地点までは緩やかに傾斜しているが、その後は南にかけて水平に堆積している。第4層はトレンチ両端での堆積ではなく、中央が厚く層幅16cmとなり、茶褐色粘質シルトのマンガン混じりである。第5層は赤黄褐色粘質シルトで砂質に、角礫、小角礫が多く混じる。最大で17cmの厚みをみせる。第6層は中央下のみ堆積する暗赤茶褐色粘質シルトで、そこに角礫の砂が混じる。第8層は地山で茶灰色砂礫である。地山は東壁では標高280.15～280.60mで検出でき、西壁に比べて急激に浅くなっており、最も深いところはトレンチの南側となる。

各層とも遺物の出土はなかった。ただし、土坑をベースとする面から下は矢穴石の周囲0.5mで5cm、10cm、15cm大の石片が集中して出る。また、20cm～40cm程の石も多数みられる。全体で石片は、それぞれ5cm大が175個、10cm大が48個、15cm大が13個出てきている。

また矢穴石から南へ0.7m程の場所にあるトレンチの南半の南大石の周囲には10～15cm大の大きめの石片がみられる。さらに、この南大石に矢穴とは判別できないが矢穴状の痕跡もみられる。南大石南側0.4mの範囲では、5cm大の石片が3個、10cm大が3個、15cm大のものが5個、石の南側に集中している。南大石の東側では5cm大のものが2個、10cm大が1個かたまりでみられる。北側には、5cm大のものが1個、10cm大が1個、15cm大が2個、0.3mの範囲で散らばる。南大石から北へ0.3mの場所で20cm大の石がみられる。南大石から0.9m南へ離れた地点でも、5～10cm大の石片や、石を割った際出た破片とみられる大きさ20cm大の石がある。

3 まとめ

このクレーター状平場の矢穴石周辺を調査したことによって以下のことが分かった。矢穴石はもともとは2m以上あった巨石であり、丘陵中腹に径8mほどのすり鉢状に掘った大土坑の北法面に沿って置かれていたことが分かった。また、単に異なった地点で石を割り、ここへ運ばれてきた訳ではなく、その矢穴石から南の大土坑の中央下部には小石片が集中することから、石割り作業場でもあったと言える。すなわち、この平場で石を割っていたことが分かる。さらに、これらの作業の際、丘陵を3m近くも掘り込んでいる可能性があるということも分かった。したがって、北東側を中心にクレーター状平場のくぼみを囲むように盛り上がっている幅2mほどの土と東側の7×7mほどの方形の高まりは、この時の排土によって形成された地形であるということが確認できた。このことから、石を採取した地点、その周囲にとどまらず、石切丁場に関連した作業場が離れて存在することになり、今後のこの遺跡の構成を考える手がかりを得たと考える。

(嵯峨根絵美(京都橘大学 研究生))

註

- 1) 奥田尚「行者ヶ森付近の石切場跡の石材と石種」『古代学研究』209号、2016年。
- 2) 京都橘大学文学部『京都橘大学歴史遺産調査報告2015』2016年。

IV-4 醍醐廃寺 (15S004)

1 調査経過と歴史的環境 (図66)

本件は、伏見区醍醐小栗栖線内配水管布設工事に伴う調査である。調査地は7世紀中～後半頃(白鳳時代)に建立された醍醐廃寺に該当する。同遺跡は昭和30年頃にそれまで良好に残されていた遺構が調査実施前に削平されてしまったとされている¹⁾。このため現行の遺跡範囲(推定寺域)は、かつて遺構があったとされた場所を中心に指定されている。これまでに醍醐東市営住宅内において発掘・試掘・立会調査が実施され、醍醐廃寺の一部が火災に遭ったことを明らかにしている²⁾。また、近年には寺域に関する再検討が行われ、現行の遺跡範囲とは異なる寺域の復原案(A・B案)が提示された(図66)³⁾。今回の調査では瓦片とともに、南北溝2条、ピット、整地層を確認した。寺域復原のための重要な成果が得られたことから、報告するものである。

調査は、掘削工事にともない平成27年11月12日から平成28年5月12日まで実施した。

2 層序と遺構 (図67・68)

No.1地点の層序は、盛土直下のGL-0.4mにて褐色粘質土の地山となる。以下、にぶい黄褐色粘質土、にぶい黄褐色砂礫混粘質土層の地山を確認した。南北溝2条を地山直上で検出した。溝1の規模は幅0.5m、深さ0.38m。溝2の規模は、幅0.85mで深さ0.45mとなる。両溝ともに拳大の礫が詰まっている。

No.2地点の層序は、盛土以下、GL-0.69mで灰オリブ色泥砂(遺物包含層)、-0.84mで暗灰黄色泥砂(整地層1)、-0.88mで黄褐色泥砂(整地層2)が確認でき、-1.33mにてぶい黄褐色細砂

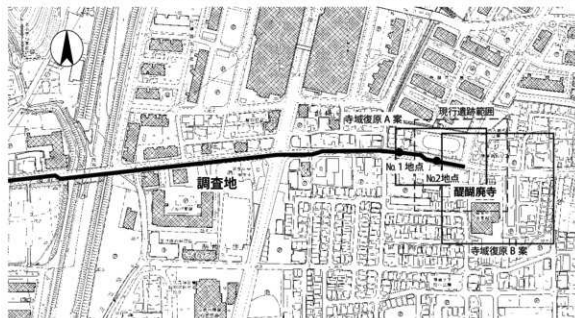


図66 調査位置図 (1:5,000)

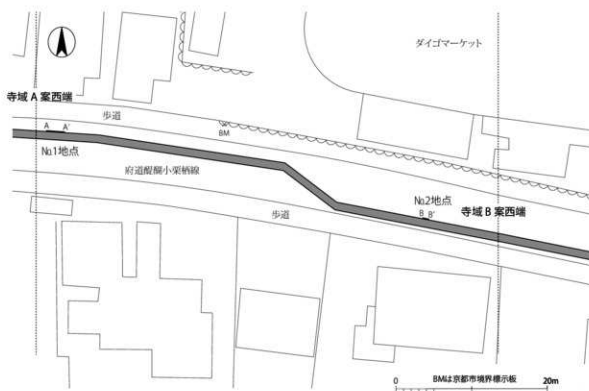


図67 遺構検出地点位置図 (1:500)

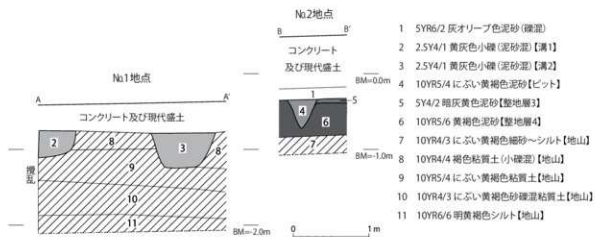


図68 No.1・2地点断面図 (1:50)

〜シルトの地山となる。整地層を掘り込んだピット1基を確認した。規模は幅0.4m、深さ0.38mで断面形が「V」字を呈す。整地層は2層(5・6)に分層することができ、6層は厚さが0.5mと厚く堆積する。

3 遺物(図69)

遺物はNo.2地点で出土した丸瓦と平瓦のみである。細片ではあるが調査に伴って出土した遺物であることから報告する。1は丸瓦で凸面ナデ、凹面には細かい布目を残す。2は平瓦で、凸面ナデ、凹面は細かい布目、側縁付近はナデを施す。

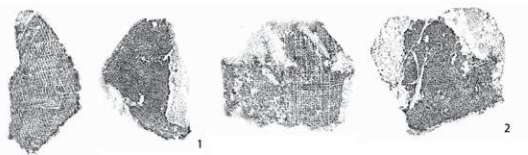


図69 №2地点出土丸・平瓦拓影（1：4）

4 まとめ

今回の調査では2条の溝とピット、整地層を確認した。当該地は断面図でも明らかであるように東から西へ向かう段丘状を呈しており、さらに№1地点付近は、大正時代の都市計画図によると地形の変化点にあたる。したがって、№1地点で検出した2条の溝は、地形の変化点に築かれていることが分かる。また、溝内には拳大の礫が詰まっていたことから、水切りや排水目的に築かれた可能性が高い。成立時期は、遺物が出土していないために明らかにすることができないが、積極的に考えれば寺城西端を限る溝の可能性を想定することができる（推定A案）。しかし、№1地点では№2地点で確認した整地層を確認できないこと、現代盛土直下であることから近世の耕作に伴う溝の可能性もあり、本調査成果をもって結論は出せない。

№2地点ではピットと整地層を確認した。ピットは整地層を切り込んで成立し、瓦を含む土層（図68-1層）で覆われている。出土瓦は破片であることから生産年代は不明であるが、近世に下ることはない。また、整地層は地山直上に厚く堆積し調査区外へと展開する。№1・2地点ともに地山はほぼ同じレベルで確認しており、整地によって一段高くなる場所を造成している可能性がある。また、№2地点の北側（ダイゴマーケット付近）で7世紀後半の瓦が多量に採集されていることを勘案すると、ピット及び整地層は醍醐廃寺が存続していた期間に成立したと推測できる。

以上、狭小ではあるが醍醐廃寺に関連する遺構を確認することができた。醍醐廃寺は未調査のままに開発が進められたが、周辺には遺構が残されている可能性が高い。遺跡範囲の再考を含め、周辺の開発行為には留意して行政指導を行う必要がある。（鈴木久史）

註

- 1) 星野敏二ほか『器瓦録想』伏見城研究会、2004年。
- 2) 津々池惣一ほか「醍醐廃寺」『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1998年。
内田好昭「醍醐廃寺」『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1999年。
吉本健吾「醍醐廃寺」『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化局、1999年。
- 3) 堀大輔『飛鳥白鳳の礎-京都市の古代寺院-』京都市文化市民局 2010年。

IV-5 極楽寺跡 (15S393)

1 調査経過 (図70・71)

本件は、伏見区深草野手町における共同住宅建設に伴う詳細分布調査である。調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「極楽寺跡」に該当する。調査は、平成28年2月15・17日、3月4・7～10日に、合わせて3ヶ所で行った。

極楽寺は、藤原北家の藤原基経によって発願され、基経の子である時平によって昌泰2年(899)に寺観が整った。貞観元年(976)に地震で倒壊した事が知られるほか、『源氏物語』の「藤裏葉」帖にも寺名が見られるが、その実態は不明であり、寺域や廃絶時期についても推定の域を出ない。鎌倉～南北朝時代に道元や日像が極楽寺に入寺していることから、それまでに当初の極楽寺としては一度廃絶していた可能性があるものの、一説には極楽寺の良桂が日像と法論を行った結果、延慶年間(1308～1311年)に日蓮宗へ改宗し、現在の宝塔寺の前身になったともされており、検討の余地が残されている¹⁾。

これまでの極楽寺跡内での調査件数は非常に少なく、試掘調査が1回と立会調査が複数回実施されているのみである²⁾。これらの調査では、寺院に關係する明確な遺構は確認されていないものの、現在の大門町を中心に10世紀中ごろの遺構・遺物が集中的に確認されており、寺域の北半部にあたる可能性が指摘されている³⁾。

2 層序と遺構 (図72)

厚さ0.69mほどの現代盛土があり、その下に遺物包含層が数層存在する。そして、GL-1.36mで地山の褐色シルト(上層は土壌化を受けて黒褐色を呈する)に至る。

No.1およびNo.2地点では、前述の層序を確認したのみであったが、No.3地点では-1.2mで中世遺物包含層を確認しており、その中に人頭大の礫が集中する箇所を確認した。以下、これを集石と呼

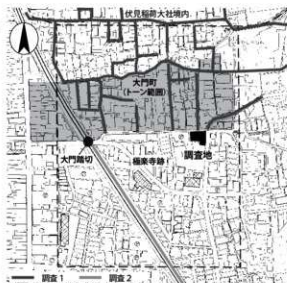


図70 調査位置図 (1 : 5,000)

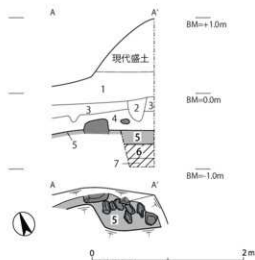


図71 調査地点位置図 (1 : 500)

称する。

この集石に関しては、北・東側は未掘削であり、南・西側は攪乱を受けていたため、全体の様相は不明である。ただし、断面で観察する限りは東西に広がる可能性は低く、続くならば南北に延びるものと推察される。礫の大きさは20cm～30cmほどで、一石のみ花崗岩が確認できた。面を上に向ける傾向が強いが、規則的な配置や掘方などは認められない。性格については現時点で断定できないものの、平坦面を造成する際の単位を示す可能性がある。この集石の直上からは軒丸瓦（図73・5）、直下からは鉄滓が出土した。

なお、5層については遺物は確認できていないものの、非常に固く締まり上面に土壌化が認められる7層の直上に存在する事から整地土の可能性がある。



- 1 7.5YR4/2 灰褐色泥砂（炭化物、土器細片含）
- 2 10YR4/2 灰黄褐色砂泥（炭化物、土器細片含）
- 3 10YR5/2 灰黄褐色泥砂（炭化物、土器片含）
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト（固く締まる、炭化物、土器片含）
- 【中世遺物包含層】
- 5 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土（固く締まる）【整地層か】
- 6 5YR2/1 黒褐色シルト【地山】
- 7 7.5YR4/3 褐色シルト【地山】

図72 集石遺構実測図（1：50）

3 遺物（図73）

ここで報告する遺物は、灰黄褐色泥砂（3層）と黒褐色シルト（4層）から出土した。にぶい黄褐色砂質土（5層）と地山以外からは土師器細片が確認できたが時期は不明である。出土遺物の種類としては、土師器・瓦器・陶磁器・瓦・鉄滓がある。

1は褐釉陶器の四耳壺である。越州窯産と考えられる。肩は丸みを帯びており、横方向に蛇行した沈線がはしる。詳細な時期は断じえないが、おおよそ鎌倉時代におさまる時期の所産と考えられ

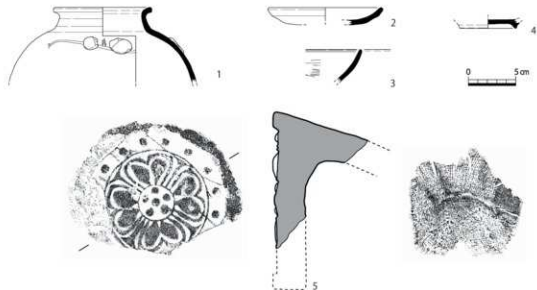


図73 出土遺物実測図（1：4）

る。2は土師器皿(N)である。外面に2段ナデが施されており、端部は丸みを帯びる。京都V期に位置付けられる。3と4はともに瓦器碗である。桶葉型と考えられ、13世紀に位置付けられる。5は複弁四葉蓮華文軒丸瓦である。中房は小さく1+5の蓮子、花弁は大きく、撥型の間弁を配す。瓦当成形は一本造で、瓦当裏面から丸瓦部凹面に連続した布目が残る。瓦当部凸面から丸瓦部凸面にかけて削り後ナデを施す。生産年代は9世紀後半頃である。

4 まとめ

今調査では、部分的に集石が認められる中世遺物包含層を確認した。一部でしか確認できていないため、現時点でその性格を断定はできないが造成の単位を示す可能性がある。類似した例としては、尊勝寺跡があげられる⁴⁾。岡崎付近は東から西に向かって下る地形であり、尊勝寺を含む六勝寺の造営に際しては幾つもの平坦面を雑壇上に造成することによって立地条件を克服している。平成26年度の立会調査では、段差のある地形を平坦にするために、段差の肩口と平行する形で低い方に土塁状盛土を設け、その間を充填していくことで平坦面を造成していたことが判明している⁵⁾。この土塁状盛土の一部で礫が多量に充填された土層を確認している。今調査で確認した集石は、それに相当するものと考えられる。

極楽寺跡付近の地形を見ると、JR奈良線の大門踏切と本調査地の東側に傾斜変換点が認められ、その間は東に向かって緩い傾斜をもって上る。また、本調査地の東接道路を境として、それ以东は傾斜が急になる。これは寺域を示す可能性がある。このような地形の中で、本調査地は寺域想定範囲内で最高所に近い。伽藍配置等は不明だが、この付近に極楽寺に関わる何らかの施設が存在した可能性も考えられる。今後の調査の進展を待ちたい。

(鈴木久史・熊井亮介)

註

- 1) 竹村俊則『昭京都名所図会6 洛南』1965年。
- 2) 図70.調査1:吉村正親「18 極楽寺跡」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和60年度、1988年。
同調査2:吉村正親「9 法性寺跡・貞観寺跡」『京都市埋蔵文化財調査概要』平成11年度、2002年。
- 3) 註2.調査1文献
- 4) 熊井亮介「尊勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡(14R117)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告』平成26年度、2015年。
- 5) 註4報告文中では造成の単位として報告しているが、周辺調査で近接して建物跡が確認されていることから、この建物に伴う基壇の可能性も想定できる。

調査一覧表

I 2016年 1～3月期(平成27年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・三条坂町 地先	3/8・9	巡回時掘削終了。	15K566	HQ500	1
大蔵省跡	上・一条通六軒町西入一丁目三条坂町386-2	3/17	GL-0.6mまで盛土。	13K693	HQ512	1
大蔵省跡	上・一条通六軒町西入一丁目三条坂町386-3	3/17	GL-0.5mまで盛土。	13K694	HQ513	1
大蔵省跡	上・中立売通千本東入丹波屋町366、366-4	2/24	GL-0.25mまで盛土。	15K578	HQ475	1
内教坊跡、 聚楽第跡	上・新白丸町447-1、446-4	1/5	GL-0.19～-0.32mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層を切って暗褐色砂泥(焼土少量含)の時期不明露出。	15K516	HQ399	1
右近衛府跡、 鳳瑞遺跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町257-3	2/26	GL-0.3mまで盛土。	15K580	HQ479	1
寛松原跡	上・六軒町通下長者町下七番町351-48、351-35、351-47	1/7	GL-0.35mまで盛土。	15K457	HQ406	1
寛松原跡、 鳳瑞遺跡	上・西東町 地先	3/25	巡回時掘削終了。	15K625	HQ531	1
縫殿寮跡、 北辺二坊五町、 一条二坊十一町、 三条三坊一・九町跡	上・聖富田町438-2他 地先	15/10/19・ 20、11/4、 16/12/21	GL-1.45mまで盛土。	15H372	HQ307	1・ 2・ 3
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・下長者町通大宮西入東辰巳町117-5	3/2	GL-0.26～-0.37mで灰褐色泥砂の時期不明包含層。	15K574	HQ490	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・日暮通出水上る軒口町162-5	3/18	GL-0.48mまで盛土。	15K716	HQ517	1
真言院跡	中・聚楽廻西町163-9	2/5	GL-0.15mまで盛土。	15K542	HQ453	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町80 地先	1/14	GL-0.77mで黒褐色粘質シルト、-1.10～-1.19mで暗灰黄色粘質シルト(砂礫多量含)。	15K299	HQ420	1
朝堂院跡、 聚楽第跡	中・聚楽廻東町～聚楽廻南町 地先	15/6/24～ 16/8/15	GL-0.5mで明黄褐色粘質土、-0.56mで明黄褐色粘質土(灰黄褐色粘質土混)、-0.7～-0.75mで明黄褐色粘質土の地山。	15K171	HQ137	1
判事跡	中・西ノ京内畑町12-6	3/11	GL-0.46～-0.55mで灰色粘質土の旧耕作上。	15K679	HQ505	1

平安京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺四坊一町跡	上・京都御苑3 京都御苑 苑路	3/1	GL-0.23mで褐色泥砂(固く締まる)、-0.34mで褐色泥砂の近世包含層。	15H675	HL488	3
北辺二坊二町跡	上・中立売通堀川西入役人町243他	3/18・25・ 29、4/7・ 8・13	No.2: GL-0.83mで灰黄褐色砂泥、-1.13～-1.33mで黒褐色砂泥(炭含)。No.3: GL-0.86mで灰褐色砂泥、-1.12～-1.53mで灰黄褐色粗砂～礫。	15H094	HL518	2
北辺四坊一・二・ 四町跡、公家町遺跡	上・京都御苑(京都御所内)	1/7・12・ 19・25・ 27・28	No.2: GL0.0mで築地由落溝石積みの裏込、-0.15mで灰黄褐色泥砂(炭化物)、焼土多量含の近世整地層、-0.35mでオリーブ褐色泥砂の近世整地層、-0.65mで暗灰黄色砂泥の近世整地層切って東西方向花崗岩敷道溝。No.6: 盛土以下、GL-0.1mで炭化物を多量に含む江戸後期の整地層、-0.12mでにぶい黄褐色泥砂の江戸後期整地層を切って土器溜(土師器多量)。	15H528	HL405	3
一条二坊三町跡	上・大宮通出水下る家永町792の一部、 下立売通大宮西入浮田町618-2の一部	1/8	GL-0.43mまで盛土。	15H512	HL410	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条二坊四町跡	上・下立売通猪熊西入横西二丁目623	2/22・24・26, 3/1	GL-0.28mで黒褐色粘質土の近世包含層。-0.83~-1.03mで灰褐色粘質土の室町包含層。この層を切って黒褐色粘質土の時期不明土坑。	15H164	HL 469	2
一条四坊九町跡、公家町遺跡	上・京都御苑2	15/7/23~16/1/28	江戸の女院御所南側築地を抽出。本報告4ページ。	14H067	HL 189	3
二条二坊十二町跡	中・油小路通夷川下る薬屋町604, 606-1	2/29, 3/1	GL-1.36mまで盛土。	15H532	HL 483	2
二条二坊十五町跡、高陽院跡	中・小川通丸太町下る中之町80, 82, 西洞院通丸太町下る田中町129-1, 129-5, 129-7, 130-2	2/8・12・15・17	GL-1.02mまで盛土。	15H514	HL 456	2
二条三坊九町跡、烏丸丸太町遺跡	上・室町通堀木町下る大門町272-1, 272の一部	2/9	GL-0.6mまで盛土。	15H579	HL 459	3
二条四坊十三町跡	中・布袋屋町503	1/6・13・25・27	GL-0.39mで明褐色泥砂の焼土層。-0.45mで褐色泥砂(固く締まる)。-0.51mで黒褐色泥砂(炭、礫混)。-0.6mで暗褐色泥砂(炭、焼土含)。-0.66mで灰黄褐色泥砂。-0.76mで暗褐色泥砂。-0.88mで黒褐色泥砂(礫、瓦多量含)。-1.14mで褐色泥砂。-1.23mで黒褐色泥砂(炭多量含)。-1.34mでいぶい黄褐色泥砂の江戸包含層。-1.44mで明黄褐色シルト。-1.49mで黒褐色泥砂。	15H265	HL 400	3
二条四坊十四町跡、烏丸丸太町遺跡	中・懸屋町通夷川上る笹屋町461	3/30・31, 4/5	GL-1.2mで褐色粘質土(砂礫混)を切って黒褐色砂礫混粘質土の室町土坑。-2.05mで黒褐色砂礫混粘質土。-2.5~2.57mで黒褐色砂礫。	15H599	HL 546	3
三条二坊四・五町跡	中・猪熊通小路下る姉屋町324, 322-2	1/20	GL-0.6mまで盛土。	15H500	HL 428	2
三条二坊七町跡	中・猪熊通御池上る最上町390-1, 390-2, 390-3, 389-3	3/3	GL-0.82~0.91mで灰褐色泥砂の江戸包含層。	15H576	HL 491	2
三条二坊十六町跡、妙顕寺城跡	中・小川通二条下る古城町367-3, 367-4, 367-5, 367-6, 367-7の各一部, 364, 367	1/8・14・27, 2/18	GL-0.95mで黒褐色泥砂(炭混)の江戸包含層。-1.17mでオリーブ褐色泥砂(やや固く締まる、礫混)の江戸包含層。	15H364	HL 409	2
三条三坊二町跡	中・御池通西洞院東入横之町738, 741-4	2/26, 3/4・10・11	GL-0.72mで黒褐色泥砂の平安包含層(土師器混)。-0.9mで灰色粗砂の地山。-1.05~1.87mで灰色砂礫の地山。	15H522	HL 480	3
三条四坊十五町跡、烏丸御池道跡	中・懸屋町通御池上る白山町248	1/7	GL-0.15mまで盛土。	15H405	HL 404	3
四条二坊九町跡	中・三条通堀川東入横東詰町10, 12, 14-2	15/11/10~13・16, 16/1/29, 2/1・18	№1: GL-1.3~2.0mで緑灰色粘質土の湿地状堆積。この層を切って黄褐色泥砂~灰色細砂混粘質土の平安~時期不明土坑(土師器混)。№2: GL-2.8~4.67mで明褐色~明黄褐色砂礫の地山。	15H129	HL 335	4
四条二坊十二町跡	中・櫻ヶ井通小路下る藤西町599	2/3・18	GL-0.39mで灰褐色泥砂(焼土多量)。-0.59mで黒褐色泥砂(焼土多量)の近世包含層。-1.07mで黄灰色細砂~シルト。-1.28~1.39mでいぶい黄褐色砂礫の地山。	15H443	HL 448	4
四条四坊二町跡、烏丸御池道跡	中・高倉通六角下る和久屋町343	2/8	GL-0.22mで時期不明焼土層。-0.3mで灰黄褐色泥砂の近世整地層。	15H507	HL 455	5
四条四坊十一町跡	中・富小路通猪熊下る高宮町584	2/3・16	GL-1.14mまで盛土。	15H617	HL 449	5
四条四坊十六町跡	下・四条通懸屋町西入立売東町23, 23-1	3/8~11・15	№1: GL-1.49~0.75mで黒褐色泥砂の室町包含層(土師器混、瓦器火跡)を切っていぶい黄褐色粗砂の時期不明落込。№2: GL-0.47mで褐色泥砂の時期不明包含層を切っていぶい黄褐色粘質土と褐色泥砂の近世土坑2。-0.83~-0.97mで灰黄色粗砂の平安包含層(土師器・椀、須恵器混)。を切って褐色泥砂の鎌倉土坑(土師器混)。№3: GL-1.2mで黒褐色微砂の時期不明包含層。-1.58~1.7mで灰黄色粗砂の平安包含層(輸入白磁桶)。	15H613	HL 501	5
四条四坊十六町跡、寺町旧城	中・新京極通三条下る桜之町420	3/24	GL-2.5mまで攪乱。	15H427	HL 528	5

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
五条一坊十六町、二坊四・六・七・八町跡、妙満寺の横え跡	下・四条堀川町他 地内	15/6/4・5、16/12/21	巡回時間終了。	14H314	HL 113	4
五条二坊十四町跡、烏丸綾小路道跡	下・東中筋通高辻上る水鏡寺町～仏光寺通西洞院西人木藏山町 地先	3/31・4/6・12・15	GL-0.96mまで盛上。	15H727	HL 549	4
五条三坊十町跡、烏丸綾小路道跡	下・室町通松原上る高辻町589	3/9～11・22、4/8	巡回時間終了。	15H546	HL 502	5
五条三坊十町跡、烏丸綾小路道跡	下・釘隠町252-4、二帖半轡町668	3/14～9/15	平安末の五条坊門小路北側溝及び内溝を検出。 本報告12ページ。	15H620	HL 506	5
五条四坊一町跡、烏丸綾小路道跡	下・東洞院通四条下る元恵王子町41	3/25・28	GL-2.18～-2.63mで黄色砂礫の地山。	15H524	HL 532	5
五条四坊十四町跡	下・寺町通仏光寺下る恵美須之町521	15/11/16～16/1/7	GL-0.89～-2.31mで明黄褐色砂礫の地山。	15H357	HL 344	5
六条三坊六町跡	下・新町通五条下る蛭子町107	1/8	GL-0.55mでふい黄色細砂の近世整地層。-0.75mで黒褐色泥砂の近世整地層。-0.8mで灰黄褐色泥砂の近世整地層。-1.0mで浅黄色砂礫。	15H550	HL 411	5
六条四坊二・三町跡	下・五条通東洞院東人万寿寺町121、東洞院通五条上る深草町590-4、590-5、592-2	2/22	GL-0.25mで褐灰色粘質土の江戸後期包含層。-0.8mで灰黄褐色粘質土(準大礫跡)の江戸後期包含層。-1.31～-1.4mで黒褐色粘質土(細砂多量含)の江戸後期包含層。	15H581	HL 470	5
六条四坊十町跡	下・魁屋町通五条上る下騎形町555-1	15/11/9、12/1・9・24、16/1/5・2/10	№2：GL-1.36mで黒色粘質土の近世包含層。-1.5～-1.7mまで黒褐色粘質土の時期不明包含層。 №3：GL-1.52mで暗灰黄色泥砂の時期不明包含層。-1.62～-2.48mで灰色砂礫の地山。この層を切つてふい黄色粗砂の時期不明の土坑。	15H287	HL 329	5
六条四坊十町跡	下・魁屋町通五条上る下騎形町551	3/18・29	GL-0.81mで炭化物を少量含む灰色泥砂の室町包含層(土師器)。-1.23mで灰色泥砂の鎌倉包含層(土師器、須恵器、輸入青磁、山茶碗)。-1.59mで灰色粗砂の時期不明包含層(土師器)。-1.77mでオリブ灰色砂礫の地山。	15H607	HL 514	5
七条一坊十二町跡	下・西倉町3-12、6-3	2/26	GL-0.25mでふい黄褐色シルト。-1.11～-1.21mでふい黄褐色砂礫の地山。	15H542	HL 482	6
七条四坊十町跡	下・上手町通正面上る瀬池町359-1、359-2	2/1～10	GL-0.34mで灰色シルト(粗砂多量。直径30～50cm大の石礫)の近世以降石垣と裏込。-0.93mで灰色砂礫。-1.11mで明黄褐色砂礫(固く締まる)。-1.17～-1.38mでオリブ褐色粗砂の時期不明肥蓋堆積。石垣は面が西側で南北方向。	15H267	HL 444	7
七条四坊十四町跡	下・木屋町通正面上る十禅師町196-3、200	1/15・19	GL-1.32～-1.72mでふい黄色細砂(礫跡)の時期不明河川堆積。	15H317	HL 421	7
八条二坊六町跡	下・梅小路通猪熊東入南夷町180地	3/25・28、4/1	№1：GL-0.98mで黒褐色シルトの時期不明包含層。-1.24～-1.61mで灰黄色シルトの地山。№2：GL-1.14mで黒褐色粘土質シルト(礫少量含)の中世包含層。-1.30mで灰黄褐色粘土質シルト(礫少量含)を切つて黒褐色粘土質シルト(炭含)の時期不明の土坑。-1.48mで黒褐色砂礫。-1.55mでふい黄褐色砂礫の地山。	15H592	HL 533	6
八条三坊二町跡	下・堀小路通西洞院東入東堀小路町841-3地	3/16	GL-1.9mまで盛上。	15H584	HL 510	7
九条一坊四町跡	南・四ツ塚町32	15/5/15、16/1/13・14・18	№2：GL-0.7～-0.86mで明黄褐色砂礫の地山。 №3：GL-0.54mで黒褐色泥砂の中世包含層(土師器皿、瓦器)。-0.84～-1.35mで灰色泥砂の弥生包含層(弥生土器)を切つて明黄褐色シルトと黄褐色泥砂の時期不明土坑とにふい黄褐色泥砂と灰色粘質土の時期不明土坑。	14H637	HL 086	6
九条一坊七・九・十町跡、教王護国寺社境内(東寺社境内)	南・八条寺内町～東寺町 地先	15/12/17、16/12/28	巡回時間終了。	15H430	HL 383	6

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
九条二坊一・八・九・十・十一・十二町跡、烏丸町遺跡、御土屋跡	南・八条通、大宮通～油小路通地内	15/11/16・24～26、16/12/21	GL-1.09mで黒褐色粗砂シルトの地山。	15H033	HL 343	6
九条二坊二・五・六町跡	南・西九条川原城町地内	2/4・5	GL-0.45mまで盛上。	15H451	HL 451	6
九条三坊十一町跡、烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町1-1, 2	3/23・30	GL-1.23～-2.37mで明黄褐色粗砂(礫混)の地山。	15H398	HL 525	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺四坊三・四・五・六・七・八町、一条四坊一・七・八・九・十・十五・十六町跡、史跡妙心寺地内、史跡・名勝玉鳳院庭園	右・花園妙心寺町1他	15/6/29・30、7/3～21、8/10～28、9/2～30、10/15～27、11/4～27、16/2/1・25、3/2～31、4/1～28、5/6～5/13、6/8、7/1・7、8/1～9、12/28	№11；GL-0.15～-0.2mでふい黄褐色粘質土を切って黄褐色シルト(褐色シルトブロック状混)の時期不明基込。№12；GL-0.35～-0.5mでふい黄褐色泥砂の時期不明包含層。№13；GL-0.25～-0.35mで明黄褐色シルトの地山。№27；GL-0.55mでふい黄褐色シルトの時期不明造成土(輪軸陶器、-0.85mで暗褐色シルトの平安後期包含層(土師器混)、-0.95mで黄褐色砂礫の地山。№28；GL-0.3～-0.95mでふい黄褐色砂礫の地山を切ってふい黄褐色粗砂粘土質シルトの時期不明土坑。№29；GL-0.4～-1.0mでふい黄褐色砂礫の地山を切って黒褐色シルトの時期不明土坑とふい黄褐色粘土質シルトの東西溝。	26N089	HR 145	12
一条三坊四町跡	中・西ノ京南大炊御門7, 8	3/22・25	GL-0.71～-0.88mで褐色シルトの地山。	15H241	HR 520	8
一条四坊十町跡、史跡・名勝妙心寺庭園、史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町1	15/11/5・16・27、16/2/25、3/2、8/23	GL-0.28～-0.4mでふい黄褐色粘質土の地山。	25N060	HR 325	8
三条三坊十五町跡	右・西ノ京月輪町32-1地先(山ノ内御池バス停 西行)	3/24	GL-0.45mで黒色泥土の時期不明包含層、-0.75～-1.21mで浅黄色シルトの地山。	15H669	HR 529	8
三条四坊七町跡	右・山ノ内御堂町22.3地先(山ノ内御池バス停 東行)	3/23	巡回時掘削終了。	15H668	HR 526	8
三条四坊十五町跡	右・太秦安井一町町跡14地内	2/4、3/22	GL-3.5mまで旧建物による覆土。	14H659	HR 452	8
四条二坊三町跡、壬生遺跡	中・壬生東潤田町6-2	3/25、4/5	GL-0.75mで浅黄色シルトの地山。この層を切って黒褐色粘質土の時期不明土坑と黒褐色粘質土～褐色細砂の時期不明南北溝、-1.86～-3.0mで灰色砂礫の地山。	15H621	HR 534	11
四条二坊五町跡、壬生遺跡	中・壬生潤田町18の一部	10/15・16、12/25、2/1	GL-1.74mまで削平、-1.74～-3.06mまで灰オリーブ層砂と黄灰色砂礫の地山。	15H076	HR 305	11
四条二坊十一町跡、壬生遺跡	右・西院東淳和院町8-21	2/3	GL-1.4mまで覆土。	15H452	HR 450	11
四条三坊五町跡、西院城跡(小泉城)	右・西院乾町61	2/5・8・17	GL-1.73mでオリーブ褐色泥砂(礫多混)の地山、-1.89～-2.27mで明黄褐色シルトの地山。	15H389	HR 454	10
四条四坊一町跡	右・山ノ内中畑町52-1	1/18・19	GL-0.33mまで盛上。	15H458	HR 423	10
四条四坊十五町跡	右・山ノ内苗町39の一部	2/16・17	GL-0.23mでオリーブ褐色泥砂(微砂混)の地山、-0.37～-0.57mで暗オリーブ褐色粗砂(礫混)の地山。	15H496	HR 466	10
五条二坊一町跡、壬生遺跡	中・壬生仙念町9の一部、9-2の一部	2/23	GL-0.75mまで盛上。	15H588	HR 473	11
五条三坊五町跡	右・西院太田町62	1/6・7・13	GL-0.4mで黄灰色シルトの旧耕作土、-0.66mで暗黄褐色シルトの耕作土又は平安包含層(土師器、須恵器鉢、丸瓦)、-0.77～-1.34mで灰黄褐色極細砂～粗砂の地山。	15H459	HR 401	10
六条三坊二町跡、西院遺跡	右・西院南寿町13-6、14-2	1/27	GL-0.5mまで盛上。	15H483	HR 439	10
六条三坊七・八・十町跡、西院遺跡	右・西院道分町25-1、25-2、25-5	15/12/24～16/8/13	GL-0.62mまで盛上。	15H368	HR 394	10

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
七条二坊十二町跡、西市跡、衣田町遺跡	下・西七条北衣田町40-3	1/25・26	CL-1.02mで緑灰色微砂～シルトの時期不明湿地状堆積、-1.25mで暗褐色粘土の時期不明湿地状堆積、-2.37m～-2.59mで灰色粗砂の時期不明湿地状堆積。	15H366	HR 433	13
七条四坊五町跡、川勝寺城跡	右・西京極中町6の一部、17-1	2/29	CL-0.43mで旧耕作土、0.61～-0.66mでぶい黄褐色砂泥(礫混)。	15H554	HR 487	12
八条一坊二町跡	下・朱雀内堀町41-9、53-2	1/21	CL-1.0mで黒褐色粘質土の近世包含層、-1.17～-1.18mで褐色粘質シルトの地山。	15H575	HR 429	13
八条二坊一町跡、衣田町遺跡	下・御前通、西七条南中野町地先	3/22・29、4/5・13	CL-0.45mで黒褐色泥土、-0.73mで褐色シルト、-0.88mで黒褐色細層砂～粗砂(礫混)、-1.0m以下明黄褐色粗砂～砂礫の地山。	15H499	HR 521	13
九条三坊一町跡、吉祥院城跡	南・吉祥院西ノ庄東屋敷町68-1、68-3、65-2、66-7	1/8	巡回時掘削終了。	15H370	HR 412	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
円乗寺跡	右・御室大内33	3/28	巡回時掘削終了。	15S655	UZ 544	18
仁和寺院家跡、常盤御池古墳	右・常盤御池町25	3/7	CL-0.26mでぶい黄褐色シルトの地山。	15S603	UZ 495	18
草木町遺跡	右・鳴滝春木町5-20	1/19・21	CL-0.38mで明黄褐色砂礫粘質土の地山を切つて黒褐色粘質土の平安の柱穴(土器器面)2。	15S434	UZ 424	18
和泉式部町遺跡、森ヶ東瓦窯跡	右・太秦森ヶ東町4-51	15/12/25・28、16/1/4	CL-0.12mで黄褐色砂泥の時期不明包含層、-0.18～-0.35mで暗黄褐色泥の時期不明包含層。	15S449	UZ 396	18
和泉式部町遺跡、森ヶ東瓦窯跡	右・太秦森ヶ東町4-52	15/12/25・28、16/1/4	CL-0.3mでぶい黄褐色砂泥(マンガン含)の時期不明包含層。	15S448	UZ 395	18
嵯峨院跡	右・北嵯峨北ノ段町76-1	1/12	CL-0.16mで時期不明包含層、-0.34～-0.48mで黄褐色シルト(礫混)～浅黄色シルトの地山。	15S275	UZ 416	28-1
南野古墳群	右・太秦堀池町5-1、嵯峨広沢北下馬野町11-1	3/30	CL-0.3mまで盛土。	15S698	UZ 548	28-6
史跡・特別名勝天龍寺庭園、史跡・名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町68	1/8	№2：CL-0.2mで暗褐色泥砂(小礫、炭化粒、土器含)の時期不明整地層。№3(中門東無階部分)：CL-0.1mで暗褐色泥砂(小礫、炭化粒、土器含)の時期不明整地層。	27N044	UZ 415	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨二尊院門前住生院町3-1	2/1	CL-1.13mで灰黄褐色泥砂の近世包含層、-1.38～-1.55mでぶい黄褐色泥土の地山。	15S501	UZ 445	24-1

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鞍馬山経塚群	左・鞍馬本町1074	3/31～7/15	巡回時掘削終了。	15S652	RH 550	28-7
史跡賀茂別当神社境内	北・上賀茂本山339	3/31	巡回時掘削終了。	27C106	RH 551	17-2
植物園北遺跡	北・上賀茂荒草町他地内	15/12/11・17・24、16/1/5・8・13・20、2/5・10・18・25、3/1・4・7・11・16・29	№1：CL-1.0mで灰色シルトの旧耕作土、-1.16mでオリーブ褐色泥砂(マンガン含)の土壌化層、-1.33mで黄褐色砂礫の地山、-1.61mで灰褐色砂礫の地山。№3：CL-0.48mでぶい黄褐色シルトの時期不明包含層、-0.65～-0.95mで黒褐色シルトの時期不明包含層(土器器面)。№4：CL-0.77mで褐色粘質シルト、-0.95mで褐色泥砂(礫混)、-1.45～-1.8mでぶい黄褐色砂礫(直径10～20cm大)。	15S305	RH 374	25-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎今海道町1-2、6-5	2/22	CL-0.4mで黒褐色粘質土(炭化物含)、-0.51mでぶい黄褐色粘質土(黒褐色粘質土ブロック混)、-0.72mで明黄褐色粘質土の地山、-1.06～-1.32mでぶい黄褐色砂礫粘質土の地山。	15S359	RH 471	25-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨南野々神町1-2地先(野々神町バス停南行)	3/16	GL-0.38～-0.98mで黒褐色砂礫の地山。	15S666	附511	25-1
植物園北遺跡	左・下鴨南野々神町6地先(野々神町バス停北行)	3/15	GL-0.29mでふい黄褐色泥砂の時期不明包含層。 -0.55～-0.98mで黒褐色細砂の地山。	15S665	附507	25-1
植物園北遺跡	左・下鴨夜光町1-1地先(神殿町バス停南行)	3/17	GL-1.1mまで盛上。	15S667	附515	25-1
御土居跡	北・小山北以北R39-1	3/29	GL-0.29～-2.01mでふい黄褐色砂礫～シルト(人頭大門礎多量)。	15S732	附543	25-1
御土居跡	北・衣笠北荒見町6他	15/11/2～ 16/12/1	GL-3.36mでふい黄褐色砂礫上。-3.94mで灰黄褐色シルト。-4.06～-4.21mで黄褐色砂礫砂質土。	15S256	附318	16-1
御土居跡	北・衣笠北荒見町6他	1/2・22, 3/25, 4/13	TP83.25mで明黄褐色泥砂(拳大以上礫混)、 82.51～81.95mで黄褐色泥砂位2～0.3m大礫混。	15S490	附432	16-1
西北町遺跡	北・紫竹西北町他地内	2/10, 4/6	GL-0.83mで褐灰色シルト。-1.05mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。-1.35～-1.5mでふい黄褐色シルトの地山。	15S463	附460	16-3
北山蓮台寺境内	北・千木通西側。北大路通～鞍馬口通地内	15/8/24～ 16/1/8	GL-0.2～-0.6mまでふい黄褐色粘質土にふい黄褐色砂礫の地山。	15S166	附234	16-1
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町53外	15/12/7・ 9・10・24, 16/1/8・ 13・18, 2/5・19, 3/23	№2: GL-0.19mでふい黄褐色泥砂(黄褐色シルトブロック状)の時期不明整地層を切って黒褐色泥砂の近世ビット(丸瓦)。-0.53mで黒褐色泥砂(黄褐色シルトブロック状)の時期不明整地層(施軸胸部、道具瓦)。№3: GL-0.08mで褐灰色泥砂(非常に固く締まる)の近世路面(丸瓦)。-0.12mで暗褐色泥砂(固く締まる)の時期不明路面(丸瓦)。-0.21mでふい黄褐色細砂の時期不明路面。-0.25mでふい黄褐色泥砂。-0.35～-0.61mで黄褐色泥砂(礫多量混)。当地点は、勅使門から山門へと通じる路面に当たる。№5: GL-0.2mで黄灰色粘質土の時期不明包含層。-0.35～-0.55mで明黄褐色砂礫粘粘質土の地山。	15S386	附365	16-1
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町地先	2/22・23, 3/10・23	GL-0.45mで黒褐色粘質土。-1.1～-1.7mで明黄褐色砂礫の地山。	15S646	附472	16-1
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・堀川通寺之内上る二丁目上天神町630-2の一部。630-4, 630-5, 638-3, 641-1, 641-5, 641-6, 641-9, 647	3/23	室町時代の東西溝を検出。本報告35ページ。	15S714	附527	17-1
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・禰呂院町他地内	15/8/4～ 16/2/5	GL-0.5mで黒褐色泥混シルトの時期不明包含層。 -1.1～-1.5mまで灰褐色砂礫の地山。	15S132	附216	17-1
北野遺跡	上・一条通御前西入三丁目西町25-1, 25-2, 25-4, 25-9, 26-1, 26-2, 27, 28, 29-1	3/3・10	GL-1.6mで黄褐色泥砂(礫混)の地山。-1.93mで黄褐色シルトの地山。-2.02mでふい黄褐色粗砂の地山。-2.16～-2.68mでふい黄褐色粗砂の地山。	15S530	附493	16-1
北野天満宮、北野天満宮境内経塚	上・馬喰町931	3/22・28・ 30, 4/18, 5/13	GL-0.19mで灰褐色泥砂の時期不明整地層。-0.27mで灰褐色泥砂と浅黄色泥砂の互層の室町以降整地層(土師器混)。-0.41mでふい黄褐色細砂と灰黄褐色泥砂の互層の時期不明整地層。-0.46mでふい黄褐色泥砂の時期不明整地層。-0.55mで黒褐色泥砂の地山。-1.06mで明黄褐色シルトの地山。-1.34mで黄褐色泥砂の地山。	15S605	附522	16-1
下鴨城跡	左・下鴨宮河町～下鴨泉川町地先	1/8・14・ 18～20・ 22	№2: GL-0.7～-0.75mまで黄褐色粘質土の時期不明包含層。№3: GL-0.8mでふい黄色粘質土の地山。-1.1～-1.15mまで明黄褐色砂礫の地山。	15S544	附413	17-3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大泉延暦寺別院境内	左・大原来迎院町540	3/31	巡回時撮影終了。	15S656	KS 552	29-1
如意ヶ嶽城跡	左・鹿ヶ谷葛藪谷町1-7	2/15	GL-0.4～-0.8mで黄褐色粘質土。	15S601	KS 464	29-4
浄土寺七廻り町遺跡	左・浄土寺大山町 銀園山山固有林	3/7	巡回時撮影終了。	15S090	KS 499	29-3
聖護院川原町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡	左・春日北通川端東人東丸太町～聖護院川原町地先	4/17・21・23・28	巡回時撮影終了。	15R015	KS 031	19
白河北殿跡	左・聖護院川原町地内	1/8・12	GL-2.9mまで掘削、掘削範囲狭く断面観察不可。	15R438	KS 414	19
法勝寺跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町123-4の一部	2/29	GL-0.26mで深い黄褐色粘質土の近世包合層。	15R571	KS 484	19
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町	2/8・15	GL-1.02mまで盛上。	15R428	KS 457	19
白河街区跡	左・新堺町通仁王門下る和岡町地先	2/15～3/10	GL-1.32mまで盛上。	15S564	KS 463	19
岡崎遺跡、東光寺跡	左・岡崎東天王町1	1/28	GL-0.48mで深い黄色細砂の盛上。-0.65mで灰オリープ色極細砂の近世耕作土。	15S057	KS 440	19
史跡南禅寺境内	左・南禅寺福地町86	3/30	巡回時撮影終了。	27C103	RT 547	19

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
寺町旧城、獅子土居跡	中・河原町通三条下る二丁目山崎町240-4、242、244	3/7・8・14・17	GL-2.2～-2.41mで黒褐色砂礫の地山。	15S323	RT 496	20
六波羅政庁跡	東・松原通大和大路東入弓矢町47	1/28、3/22	GL-2.43mで暗灰黄色シルトの時期不明包合層。2.51～3.01mで深い黄色砂の地山。この層を切って灰色シルト～粗砂の時期不明土坑。	15S450	RT 441	20
六波羅政庁跡	東・大和通路通松原下る二丁目薬師町地先	2/1～4/8	GL-0.8mまで盛上。	15S583	RT 447	20
芝町遺跡	山・音羽山等地～小川沖無森町地内	2/26～12/27	GL-0.4～-0.8mで明黄褐色砂礫の地山。	15S336	RT 481	30-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町33-40	2/29	GL-0.25mまで盛上。	15S628	RT 485	30-1
中區遺跡	山・西野山中區町77-3	3/18	GL-0.3mまで盛上。	15N641	RT 516	26-1
中區遺跡	山・西野山中區町185他2筆	3/3	GL-0.14mまで盛上。	15N645	RT 492	26-1
中區遺跡	山・西野山中區町185他2筆	1/21	GL-0.2mまで盛上。	15N557	RT 430	26-1

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
極楽寺跡	伏・深草野手町17-3	2/15・17、3/4・7～10	極楽寺に関連すると考えられる中世の集石遺構を検出。本報告48ページ。	15S393	FD 465	26-4
伏見城跡	伏・桃山隣井伊賀町47他6筆地先	15/12/14～16/12/21	GL-0.8mまで盛上。	15F445	FD 376	14
伏見城跡	伏・御屋町181、183、196-4、196-7	3/22・28	GL-1.46mで明黄褐色極細砂～礫の地山。-1.51～-3.14mで浅黄褐色砂礫の地山。	14F624	FD 523	14
伏見城跡	伏・羽柴長吉町80-2	3/4	GL-0.78～-1.08mで深い褐色粘土と黄褐色粗砂の互層の時期不明造成土。	15F600	FD 494	14
伏見城跡	伏・京町大黒町118-1、118-3、桃山町金森出雲8-22、8-35	15/12/17、16/1/20	GL-0.39mで褐色粘土(礫混)の近世以降整地層。0.48mで明黄褐色粗砂(礫混)の近世以降整地層。0.6mで灰黄褐色粘土(礫混)の近世以降整地層。0.73mで黄褐色粘土の時期不明整地層。0.84mで暗褐色粘土(礫混)の時期不明整地層。-0.92～-1.23mで黄褐色粗砂(3～5cm大礫多量混)。	15F509	FD 386	14
伏見城跡	伏・桃山町立売44-1	1/28、2/2・18、7/14	GL-1.84mで褐色粗砂の時期不明造成土を切っけに深い黄色粗砂～シルトの土坑。-2.0～-2.65mで黄褐色砂礫の地山。	15F212	FD 443	14

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町泰長老170-1, 常盤町33-1	15/5/22・25・27・29, 6/3・5, 8/14, 16/4/20	№1: GL-0.88mで暗褐色泥砂の時期不明包含層。-1.18mで褐色泥砂(礫多量混)を切って黒褐色泥砂の時期不明土坑2, -1.78~2.24mで黄褐色細砂(礫多量混)。№2: GL-0.9mで褐色泥砂を切って褐色泥砂の近世土坑(土器露出, 平瓦), -1.27mで暗褐色砂泥, -1.35mで暗褐色砂泥, -1.77~2.07mで明褐色シルト。№3: GL-0.83mでふい黄褐色泥砂, -1.22mで明黄褐色砂泥の時期不明整地層を切って黒褐色シルトの時期不明土坑, -1.6~-2.02mで黄褐色砂礫の地山。	14F193	FD 095	14
伏見城跡	伏・豊後橋町~向島西堤町地先	15/12/18, 16/1/12, 4/6	GL-0.67mで暗褐色泥砂の近世包含層, -1.07mで明黄褐色粗砂を切って南西~北西方向の時期不明石組遺構の斜を持つ褐色泥砂の露出, -1.25~-1.87mで明黄褐色細砂, 石組遺構は護岸の可能性。	15F429	FD 390	14
伏見城跡	伏・桃山町正宗52-6 藤城小学校グラウンド内	3/18	GL-0.47mまで盛上。	15F422	FD 519	15
伏見城跡	伏・桃山町大蔵45他	15/12/22, 16/1/7	GL-1.35mで黄色粗砂の時期不明整地層, -1.45mで灰黄褐色砂泥の時期不明整地層, -1.55~-1.6mで灰白色シルトの地山。	15F406	FD 393	15
伏見城跡	伏・桃山町島津71	1/4・5	GL-0.4mで黒褐色泥砂(耕作土), -0.55mで褐色泥砂の時期不明整地層を切って灰黄褐色泥砂の時期不明土坑(木組遺構), -0.65mで黄褐色砂礫(灰白色シルトブロック混)の時期不明整地層, -0.73~-0.85mで明黄褐色砂礫の時期不明整地層。	15F518	FD 398	15
伏見城跡	伏・桃山町大津町	3/24	G L-0.25mまで盛上。	15F681	FD 530	15
史跡龍巖寺境内	伏・龍巖寺前町	3/30	GL-0.5mまで盛上。	27C104	FD 545	26-3
龍巖寺	伏・龍巖小栗新橋, 小栗新橋ヶ淵町~龍巖西大路町地内	15/11/12~16/5/19	時期不明の整地層, 溝を検出。本報告45ページ。	15S004	FD 340	30-6

烏羽地区(TB)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋道跡	南・吉祥院九条町, 唐橋川久保町, 唐橋堂ノ前町地内	15/11/17~16/2/25	巡回時期終了。	15S195	TB 349	30-8
唐橋道跡	南・唐橋川久保町29, 24-3, 24-4	3/1~4	№1: GL-0.46mで黄褐色砂泥(マンガン含)の弥生~古墳包含層(弥生土器高柄)を切ってふい黄色砂泥(マンガン含)の時期不明土坑, -0.62mで暗灰黄色シルト(マンガン含)の弥生~古墳包含層(弥生土器)を切って黄褐色シルト(マンガン含)の時期不明土坑, -1.12mでふい黄色砂泥の地山, -1.12mで黄灰色砂礫の地山。№2: GL-0.43mで黄褐色砂泥(マンガン含), -0.48mで暗灰黄色シルト(マンガン含)の時期不明包含層(土器露出), -0.69~-0.88mで黄灰色砂礫の地山。	15S476	TB 489	30-8
御上屋跡	南・四ツ塚町56	3/28	巡回時期終了。	15S590	TB 536	31-1
羽束師志水町道跡	伏・羽束師志水町100, 78	15/12/3・25, 16/4/6	GL-0.52mでふい黄褐色細砂, -0.74mで灰黄褐色粘質シルト, -0.91~-1.03mで褐色粘質土の時期不明湿地状堆積。	15S332	TB 363	22
烏羽籠宮跡	伏・竹田西内畑町39-2	1/26, 2/1	巡回時期終了。	15T352	TB 438	25-2
烏羽籠宮跡	伏・竹田東小屋ノ内町87, 88	1/28・29	GL-1.0mまで盛上。	15T552	TB 442	25-2
烏羽籠宮跡	伏・竹田東小屋ノ内町87, 97	1/18	GL-0.5mまで盛上。	15T392	TB 425	25-2
烏羽籠宮跡	伏・中島中道町82, 83	2/25・26	GL-0.4mまで盛上。	15T626	TB 478	25-2
深草道跡	伏・深草編森町32-6	2/17・18	GL-0.24mで旧耕作土, -0.39mでオリープ褐色泥砂。	15S361	TB 467	26-4
西飯食町道跡	伏・深草飯食町810-1, 810-3	1/20	GL-0.3mまで盛上。	15S513	TB 427	31-3

長岡京地区(NG)左京

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
一条四坊十四町跡	伏・久我石原町8-10の一部	2/1	GL-0.1mまで盛上。	15NG553	NG 446	21-3
二条三坊九町跡、 鶴冠井道跡	南・久世東上川町200-57、200-58、 200-59	1/19	GL-0.5mまで盛上。	15NG424	NG 426	22
二条三坊十三町跡、 鶴冠井道跡	南・久世東上川町200-53	3/10・22・ 24	GL-0.85mで旧耕作上。-1.02mでオリブ灰色シルト、-1.37~-1.47mで灰色粗砂礫礫。	15NG615	NG 504	22
二条四坊十四町跡、 三条四坊九・ 十五・十六町跡	伏・久我西出町他 地内	15/12/15・ 17、 16/1/13・21	GL-2.22mまで攪乱。	15NG354	NG 381	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-23	1/7	GL-0.18mまで盛上。	15NG505	NG 408	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-65	1/7	GL-0.25mまで盛上。	15NG504	NG 407	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-56	1/12	GL-0.25mまで盛上。	15NG506	NG 417	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-64	1/25	GL-0.4mまで盛上。	15NG531	NG 435	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-63	1/25	GL-0.4mまで盛上。	15NG433	NG 434	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-58	2/24	GL-0.5mまで盛上。	15NG634	NG 476	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-24	3/7・8	GL-0.4mまで盛上。	15NG664	NG 497	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-61	3/16	GL-0.5mまで盛上。	15NG690	NG 509	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-55	3/22	GL-0.5mまで盛上。	15NG695	NG 524	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町537-32	2/23・24	GL-0.5mまで盛上。	15NG633	NG 474	22
五条三坊一・八町跡、 川原寺跡	伏・羽東師薨川町212-3	15/9/24~ 16/1/19	GL-1.13mでオリブ灰色微砂の旧耕作上。-1.29~-1.3mでふい黄褐色シルトの地山。	15NG138	NG 268	22
五条三坊十四町跡	伏・羽東師薨川町351、古川町273	3/7	GL-2.22mで旧耕作上。	15NG596	NG 498	22
五条三坊十五町跡	伏・羽東師薨川町351、古川町273	2/17	GL-1.0mまで盛上。	15NG503	NG 468	22
六条四坊五町跡	伏・樋籠爪町122他 地内	1/22・27	GL-2.80mで褐色シルト(粘土)ブロック説、-3.25mでふい黄褐色シルト、-3.53mで暗褐色粘質土(微砂混、礫混含)、-4.42mでオリブ褐色砂礫、-4.65mで暗灰色粘質土、-4.84mで黄灰色砂礫、-4.93mで灰色粘質土(褐色粘質土ブロック状含)、-5.07~-5.22mで灰色粘上の湿地状堆積。	15NG345	NG 431	22
九条二坊十二町跡、 淀城跡	伏・淀木津町地先	15/10/2・ 5・6・7、 16/2/29	GL0.0mで暗褐色粗砂~黄灰色粘質土~灰白色粗砂の互層に50~80cm大の礫と人頭大の石を多量に混入した近代治水遺構、-2.2mで暗灰色シルト。	15NG220	NG 291	23
九条三坊十二町跡、 淀城跡	伏・淀本町167	3/9	GL-0.14~-0.24mで黄褐色粗砂(礫混)の興軒神社旧整地面。	15NG676	NG 503	23
九条四坊四町跡、 淀城跡	伏・淀池上町90の一部	3/14、4/11	GL-0.4mでふい黄褐色砂礫の近世造成上。0.6mで灰褐色泥砂(黄褐色粗砂混)の近世造成上。-0.92mで淡黄色微砂~粗砂の近世造成上。-1.11~-1.17mで暗灰色泥砂(炭質)の近世造成上。	15NG627	NG 508	23

長岡京地区(NG)右京

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺三坊三町、 二坊十三町跡、 妙見山古墳、 大原野東野古墳	西・大原野東野町地区	1/6・8・ 12・13・ 18	GL-1.0mまで盛上。	15NG510	NG 402	24-2
北辺三坊十二・十三町、 四坊四・五・六・十一・十二・十四町跡	西・府道輪軸向日線、大原野上里北ノ町~新上里橋 地先	15/9/2~ 16/4/14	№4: GL-0.2mで暗褐色シルト(礫混)、-0.82~-1.15mで褐色泥砂(礫混、礫混混)。№8: GL-0.8~-1.05mで褐色シルト。№12: GL-0.88~-1.27mで灰褐色砂礫の地山。	15NG168	NG 242	24-2
北辺三坊十二町、 四坊四町、一条三坊三・六・九・十・十一・十四・十五・十六町、 四坊一・二町跡、 上里道跡	西・大原野上里勇鹿町~大原野上里鳥見町 地内	15/6/23~ 16/4/26	№2: GL-1.5~-1.57mでふい黄褐色礫混砂礫の地山。№5: GL-1.3mで灰色粘土質シルトの湿地状堆積。-1.57~-1.67mまで暗オリブ灰色粘土質シルトの地山の可能性。№14: GL-1.2~-1.7mで灰色粘上。	15NG001	NG 140	24-2

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山	西・嵐山中尾下町19-2, 37	1/13	GL-0.21mで明黄褐色シルト、-0.28~-0.5mでオリーブ褐色粗砂(礫混)	27C071	MK418	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山樋ノ上町12-8	2/29	GL-0.32mまで盛上。	27C085	MK486	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山谷ヶ辻子町36-5	2/10	GL-0.53mまで盛上。	27C081	MK461	27-1
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町14-4	1/25	GL-0.1mまで盛上。	27C074	MK436	27-1
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町14-3	1/25	GL-0.2mまで盛上。	27C075	MK437	27-1
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・松室追上ヶ町18-45, 18-46, 18-73	2/24	GL-0.35mまで盛上。	15S609	MK477	31-5
榎原遺跡、榎原康寺瓦葺遺跡	西・榎原里ノ垣外町18他	2/12・22・24, 3/1・3	GL-0.56~-1.59mで明黄褐色シルトの地山。	14S350	MK462	21-2
福西古墳群	西・大枝中山町7-127	2/8	GL-0.3mまで盛上。	15S610	MK458	27-2
福西古墳群	西・大枝北福西町1-1	15/8/4~16/6/22	G L-0.6mで浅黄色細砂の地山、-1.2~-2.2mまで灰黄色微砂の地山。	15S020	MK219	27-2
上久世遺跡	南・久世上久世町360	1/15・18・21・26	№1: GL-0.81mで暗灰色粘質土の旧耕作土、-0.89mで灰色粘質土の旧耕作土、-1.03mで暗灰色粘質土の旧耕作土、-1.22mで灰色粘質シルトの時期不明包含層(土師器)、-1.33mで黄灰色粘質シルトの時期不明包含層(土師器、須恵器)、-1.64mで灰色微砂混粘質シルトの古墳か赤生の耕作土か、-1.77mで黒褐色粘土の赤生包含層(赤生土器)、-1.98mで灰色粘土、-2.16mで黄灰色微砂、-2.32mで灰色微砂混粘質土(植物遺体含)、-2.57mで灰色細砂、-2.65mで黒褐色粘質土(植物遺体含)、-2.72mで褐灰色粗砂、-2.81mで黒褐色粘土、-2.95mで黒色砂礫、№3: GL-1.21mで灰色粘質シルト、-1.42mで灰オリーブ粘質シルト、-1.76mで灰オリーブ色微砂、-1.81mで灰色粘土、-1.9mで灰色微砂混粘土の時期不明包含層(土師器)、-2.0mで灰色粘土(灰混)、-2.27mで灰オリーブ色微砂、-2.32~-2.35mで有オリーブ黒色微砂混粘土。	15S169	MK422	21-3
大蔵遺跡、中久世遺跡	南・久世大蔵町182の一部	3/28・30, 4/6~14	GL-0.53mまで盛上。	15S662	MK541	21-3
大蔵遺跡、中久世遺跡	南・久世大蔵町182の一部	3/28・30, 4/6~14	GL-0.29mまで盛上。	15S663	MK542	21-3
大蔵遺跡、中久世遺跡	南・久世大蔵町182の一部	3/28・30, 4/6~12	GL-0.24mまで盛上。	15S661	MK540	21-3
大蔵遺跡、中久世遺跡	南・久世大蔵町179-1, 180-1, 181, 182, 183, 184	1/13・15	GL-0.11mで褐灰色シルトの旧耕作土、-0.28~-0.42mで明黄褐色シルトの地山。	15S288	MK419	21-3
大蔵遺跡、中久世遺跡、下久世遺跡	南・久世大蔵町519-11	3/25	GL-0.32mまで盛上。	15S700	MK535	21-3
大蔵遺跡	南・久世大蔵町179-1, 180-1, 181, 182, 183, 184	1/13・15	GL-0.11mで褐灰色シルトの旧耕作土、-0.28~-0.42mで明黄褐色シルトの地山。	15S288	MK419	21-3
大蔵遺跡	南・久世大蔵町182の一部	3/28~4/11	GL-0.28mまで盛上。	15S660	MK539	21-3
大蔵遺跡	南・久世大蔵町182の一部	3/28~4/11	GL-0.1mまで盛上。	15S659	MK538	21-3
大蔵遺跡	南・久世大蔵町182の一部	3/28~4/8	GL-0.58mまで盛上。	15S658	MK537	21-3
大蔵遺跡、大蔵城跡	南・久世大蔵町234-9	1/6	GL-1.22~-1.37mで灰オリーブ色シルトの旧耕作土。	15S340	MK403	21-3
小塩宮跡群、方古墳群	西・大原野灰方町~大原野小塩町地内	15/9/28~16/4/18	GL-0.8mまで盛上。	15S311	MK280	27-4

Ⅱ 2016年 4～12月期(平成28年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
漆室跡	上・東野町132-1	7/8	GL-1.22～-1.51mで明黄褐色シルトの地山。	16K210	HQ163	1
大蔵省跡	上・七本松通中立売下る三軒町	12/27	GL-0.35mまで盛土。	16K522	HQ472	1
大蔵省跡	上・西富仲町 地先	7/7・19	GL-0.8mまで盛土。	16K131	HQ162	1
大蔵省跡	上・上長者町通千本西入五番町168-1, 169-1	6/13・14・15	GL-0.71mで黒褐色シルトの地山、-0.89～-1.09mで明黄褐色シルトの地山。	16K022	HQ101	1
大蔵省跡、 聚楽第跡	上・淨福寺通中立売下る菱丸町地内	9/23～29、 10/3～24	GL-0.5mで暗褐色砂礫。-0.65～-1.1mで褐色砂礫の地山。	16K049	HQ308	1
大蔵省跡、 聚楽第跡	上・淨福寺通一条下る東西偵町161	4/4	巡回時観測終了。	15K643	HQ001	1
内教坊跡、 聚楽第跡	上・松屋町通中立売下る神明町447-17	8/5	GL-0.44mで黒褐色礫混砂質シルトの江戸中期以降包含層(土師器皿、施軸陶器皿)。	16K212	HQ215	1
内教坊跡、 聚楽第跡	上・松屋町通中立売下る神明町447-6	12/2	GL-0.44mでいり黄褐色粗砂(礫混)、-0.58mで灰黄褐色砂礫(径5cm大礫多量混)、-0.69mで黒褐色砂礫、-0.8～-1.0mで灰黄褐色砂礫。	16K446	HQ423	1
大蔵庁跡	上・七本松仁通和守街道上る一番町107の一部	9/21、 10/5・12、 11/16・18	GL-0.37mで黒褐色シルト、-0.62mで黒褐色粘土質シルト(礫混)の中近世包含層(土師器、瓦質土器)、-0.9mで褐色粘土質シルト、-1.06～-1.34mで褐色泥砂の地山。	15K409	HQ304	1
正親司跡	上・仁和寺街道下ノ森西入鳳鳴町地先	11/1・4	GL-0.27mで黒色泥砂の平安前期包含層(土師器皿・高珣、-0.78～-1.55mでいり黄褐色泥砂礫混)。	16K456	HQ370	1
圖書寮跡	上・下長者町通七本松西入鳳鳴町地先	11/11	GL-0.72mまで盛土。	16K480	HQ391	1
寛松原跡	上・御前通下立売上る三丁目東入3助町281-36	9/23	GL-0.85mで灰黄褐色シルト(固く締まる)の時期不明包含層。	16K258	HQ309	1
寛松原跡	上・六軒堀町通下長者町下る七番町332-1の一部	11/29	GL-0.95mで黒褐色泥砂、-1.14～-1.3mで明黄褐色シルトの地山。	16K511	HQ417	1
寛松原跡、 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町 地先	11/10	GL-0.53mまで盛土。	16K401	HQ388	1
寛松原跡、 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町71-5	7/15・21	GL-0.41mでいり黄褐色泥砂。	16K175	HQ179	1
縫殿寮跡、 聚楽第跡	上・下長者町通裏之門西入神高町71	4/27・28、 5/2	巡回時観測終了。	15K479	HQ041	1
縫殿寮跡、 聚楽第跡	上・下長者町通淨福寺西入新御幸町49	6/28	GL-0.2mまで盛土。	16K171	HQ134	1
内裏跡	上・出水通西入西神明町322-2	4/21	GL-0.2mまで盛土。	15K747	HQ032	1
内裏跡	上・二本松町11-1～付天町305-24 地先	11/29～12/1	GL-0.8mまで盛土。	16K501	HQ416	1
内裏跡、聚楽道跡	上・下立売通千本東入田中町449、452	9/12・14	GL-0.58mまで盛土。試掘調査後の検出遺構の保存確認のための調査。	16K019	HQ281	1
内裏跡、聚楽道跡	上・下立売通千本東入田中町477-24	11/24	GL-0.17mまで盛土。	16K406	HQ406	1
内裏跡、聚楽道跡	上・東神保町295-1～296 地先	11/22～28	巡回時観測終了。	16K473	HQ405	1
中和院跡、 聚楽道跡	上・下立売通千本東入田中町418-3	7/19	GL-0.3mで黒褐色泥砂の平安包含層(土師器器巻)切っていり黄褐色シルトの平安土坑(平瓦)。	16K144	HQ188	1
造酒司跡、 鳳瑞遺跡	上・下立売通七本松西入西東町地先	4/1・4・ 6・13	GL-0.42～-0.7mで明黄褐色シルトの地山。	15K711	HQ002	1
内匠寮跡	中・西ノ京左馬寮町27-3の一部	6/3	GL-0.25mまで盛土。	16K003	HQ081	1
内匠寮跡	中・西ノ京左馬寮町27-3の一部	6/3	GL-0.3mまで盛土。	16K004	HQ082	1
内匠寮跡	中・西ノ京左馬寮町27-3の一部、46の一部	6/3	GL-0.1mまで盛土。	16K001	HQ087	1
内匠寮跡	中・西ノ京左馬寮町27-3の一部、46の一部	6/3	GL-0.49mで明黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.73mで黄褐色砂礫の地山。	16K002	HQ088	1
内匠寮跡	中・西ノ京左馬寮町25-6、45	8/23	GL-0.75mまで盛土。	16K097	HQ241	1
右馬寮跡	中・西ノ京冷泉町15、16、17、18、19、20、21	10/12	GL-0.67～-0.9mで淡黄色砂礫(細砂多量)の地山。	15K689	HQ336	1
左馬寮跡	中・西ノ京南町34-1、34-3、34-6	10/11・13	GL-0.45mまで盛土。	16K153	HQ333	1
豊楽院跡	中・聚楽廻南町8-4	8/19	GL-0.4mまで盛土。	16K215	HQ235	1
豊楽院跡、 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻松町～聚楽廻西町地先	5/6～6/8	GL-0.8～-1.75mで黒褐色砂礫混泥砂。	16K026	HQ045	1

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
豊楽院跡、 鳳鳴道跡	中・聚楽廻西町182-8	10/21・24	GL-1.32mまで盛上。	16K268	HQ353	1
豊楽院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻中町51-10	10/18	GL-0.25mまで盛上。	16K366	HQ343	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻東町6-1	7/22・25～ 27	№1：GL-1.16mで黄褐色泥砂の平安中期包含層(土師器皿、瓦)、-1.41～-1.65mで明黄褐色シルトの地山。№3：GL-1.18m～-1.53mで明黄褐色粗砂(粘性有)の地山。	16K035	HQ191	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻中町43-9	7/4	GL-0.45mまで盛上。	16K180	HQ146	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻東町3-1、3-10、3-12、 3-18、2-6、2-7	8/8・9・ 10・12・22	GL-1.09～-2.14mで明黄褐色シルトの地山。	16K163	HQ220	1
内舎人跡、 聚楽道跡	上・下立売通千本東入下中務町 486-159	9/21	GL-0.2mまで盛上。	16K282	HQ298	1
御井跡	中・西ノ京車坂町14-19	8/10	№1：GL-0.36～-0.49mで明黄褐色シルトの地山。№2：GL-0.36～-0.49mまで暗褐色シルトの平安遺構(平瓦)、推定宮内道路側溝の可能性。	16K166	HQ225	1
判事跡	中・西ノ京内畑町15-1	5/9	GL-0.34mで黄褐色シルトの旧耕作土、-0.44～-0.63mで明黄褐色シルトの地山か。	15K696	HQ048	1

平安京左京(HL)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊二町跡	上・大宮通中立売下る常陸町415	7/1	GL-0.65mまで盛上。	16H148	HL 136	2
北辺二坊八町跡	上・小川通中立売下る小川町204	5/9・13	GL-2.2mまで盛上。	15H309	HL 047	2
北辺二坊八町跡	上・油小路通一袋下の油橋町88-3	12/5	GL-0.55mで灰黄褐色泥砂の近世包含層、-0.78mで、黄褐色泥砂、-0.99mで明黄褐色砂礫の地山、-1.28～-1.71mで黄褐色粗砂の地山。	16H464	HL 430	2
北辺三坊四町跡、 内膳町道跡	上・中立売通室町西入三丁目468	4/18・19・ 22・25・ 26	№1：GL-1.28mで黒褐色泥砂の近世包含層、-2.09mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層。№2：GL-1.46mで黒褐色砂質土(焼土)、炭化物詰の時期不明包含層、-1.8mで明黄褐色粘質土(上面赤褐色に変色し炭化物を確認)の江戸中期以降の土間、-1.86～-1.88mで灰黄褐色粘質土の江戸中期包含層。	15H699	HL 028	3
一条二坊一町跡、 聚楽道跡	上・東堀町618、618-1	6/29・30、 7/5	GL-0.9mまで盛上。	16H025	HL 135	2
一条二坊十町跡	上・東堀川通下長者町下る三丁目 14、14-2	11/17・ 18・24・ 30	GL-0.67mで、黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.82mで褐色シルト(黄褐色シルトブロック詰)、-0.95～-1.11mで黄褐色シルト(確認)の地山。	16H413	HL 397	2
一条二坊 十五・十六町跡	上・下長者町通油小路東入鷹司町56	6/7	GL-1.6mまで盛上。	15H170	HL 092	2
一条三坊九町跡	上・室町通上長者町下る清和院町 575、572-1、575-2	7/6・11	№1：GL-0.34mで、赤褐色砂泥の江戸末期焼土層(始御門の変?)、-0.5mで灰黄褐色泥砂を切って近世井戸(土師器皿、埋土=暗灰黄色泥砂、掘方=オリープ褐色泥砂)、-0.75mで、黄褐色泥砂の室町包含層(土師器皿、平瓦)、-0.95～-1.05mまで黒褐色泥砂。№2：GL-1.35mで黒褐色粘土質シルト、-1.59mで黒褐色礫混粘土質シルト、-1.81～-1.92mで黒色粘土質シルト。	16H067	HL 158	3
一条三坊十一町跡、 旧二条城跡	上・下立売通西丸五町目町177-1	12/2・8	GL-1.58mまで盛上。	16H431	HL 424	3
二条二坊八町跡、 二条城北道跡	上・猪熊通丸太町上る木屋之町 491-1、491-2	7/12・14・ 20	GL-1.5mまで攪乱。	16H152	HL 174	2
二条二坊十四町跡	中・西洞院通竹屋町下る泥沙町 387、389-1	7/25	巡回時撮影終了。	16H046	HL 193	2
二条三坊十一町跡、 烏丸丸太町道跡	中・夷川通室町東入巴町84、両替 町通夷川上る松竹町115-1	7/27	GL-0.6mまで盛上。	16H143	HL 199	3

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
二条四坊三町跡、 烏丸九太町道跡	中・楠町595	5/11	GL-0.3～-0.5mで深い黄褐色シルトの近世包 含層。	15H742	HL 055	3
二条四坊五町跡	中・二条通榎馬場西入観自町94、94-7	5/20～30	GL-2.1mまで盛上。	15H533	HL 060	3
二条四坊六町跡、 烏丸九太町道跡	中・榎馬場通夷川上る五町目237	9/20・21・ 23	GL-0.5mまで盛上。	16H284	HL 299	3
三条一坊十町跡	中・西ノ京職司町67-4の一部	11/17	№1；GL-1.25mまで盛上。	16H459	HL 396	2
三条一坊十一町跡	中・神泉苑通御池下る神泉苑町21	7/15	GL-0.83～-1.39mで黄褐色砂礫の地山。	16H073	HL 180	2
三条二坊十三町跡	中・小川通姉小路下る西堂町501	10/12	GL-3.0mまで旧建築物礎盛上。	16H330	HL 337	2
三条二坊十三町跡	中・小川通姉小路下る西堂町490-1	11/28	GL-0.09～-0.46mで深い黄褐色シルト(鉄分多 量)の地山。	16H476	HL 412	2
三条三坊六町跡、 烏丸御池道跡	中・衣櫛通御池下る長浜町148、 143-1	12/19・21・ 22・28	GL-1.5～-1.85mで黒褐色砂質上。	16H457	HL 457	3
三条三坊七町跡、 妙覺寺城跡、 烏丸御池道跡	中・新町通押小路下る中之町42	10/14・20	GL-0.76mで黒褐色粘質土の江戸包含層、-1.15m で灰褐色粘質土、-1.28mで深い黄褐色粘質土 の中世包含層、-1.41mで深い黄褐色粘質土、 -1.47～-1.61mでオリブ灰粘質シルトの地山。	16H202	HL 340	3
三条四坊七町跡、 等持寺跡、 烏丸御池道跡	中・堺町通押小路下る扇屋町660	5/25・30・ 6/1・8	№1；GL-0.86mで褐色泥砂、-1.2mで暗褐色 泥砂、-1.91mで深い黄色シルトの地山を切っ てに深い黄褐色泥砂と黄灰色泥砂の室町土坑(土 師器皿)、-2.29～-2.35mで暗灰黄色砂礫の地山。	15H594	HL 069	3
三条四坊十二町跡	中・三条通榎馬場東入中之町8	6/16	GL-0.75mまで盛上。	16H007	HL 113	3
三条四坊十五町跡	中・寺町通御池上る上本能寺前町 479	4/8	-0.5mで明赤褐色泥砂(炭、焼土多量含)の江戸未 開包含層、-0.80～-0.92mで黄灰色砂礫。	15H688	HL 017	3
三条四坊十五町 跡、烏丸御池道跡	中・懸屋町通御池上る上白川町241	9/7・13	GL-1.11mで暗オリブ褐色砂礫を切ったオリブ 褐色泥砂シルトの中世土坑遺構(土師器皿、 -1.42mで黄褐色砂礫、-1.82～-2.06mで暗灰黄 色粘土質シルト(炭質)。	16H016	HL 267	4
四条一坊四町跡	中・壬生御所ノ内町26-1	9/16・21・ 29、10/3	-0.5mで深い黄褐色粗砂～礫(シル ト混)、-0.9mで明黄褐色シルトの地山、-1.24～ -1.57mで灰白色砂礫の地山。	16H298	HL 295	4
四条一坊九町跡	中・三条通神泉苑西入今新在東西町 15-2	6/6・7・8	№1；GL-1.0mで灰色泥砂(2～3cm大礫混)の室 町後期包含層を切った暗灰色泥砂とオリブ灰 褐色泥砂の室町東西溝(土師器皿、瓦質土器羽釜、平 瓦)、-1.24mで黄褐色粗砂～礫の地山、№2； -2.1mで明黄褐色粗砂～礫の地山、№2； GL-0.63mで黄褐色粗砂～礫の地山を切った暗灰 色泥砂(礫混)の鎌倉土坑(土師器皿)、-0.87～-3.0m で褐色砂礫の地山。	15H538	HL 089	4
四条一坊十二町跡	中・壬生坊城町14-2、13-7、13-14	7/4・6・ 12・19	№1；GL-0.95mでオリブ褐色粘質土、-1.34m で灰白色粘質土、-1.57～-2.17mで明黄褐色砂礫 の地山。№2；GL-1.35mで灰粘質土の中世以 降包含層(丸・平瓦)、-1.52～-1.74mで深い黄 色砂礫の地山。	15H591	HL 147	4
四条二坊二町跡	中・六角通徳西入観治屋町340-1、 342、343地	6/13～28、 7/1～12	GL-0.92～-1.85mまで深い黄色砂礫の地山。	15H706	HL 105	4
四条二坊十町跡	中・船薬師通堀川東入龜屋町276-1、 278	11/9	GL-1.13～-1.46mで浅黄色砂礫の地山。	16H331	HL 386	4
四条二坊十三町跡	中・油小路通四条上る藤木町537、 538、錦小路通油小路東入空出町 488	4/21・25・ 27、5/6・9	№1；GL-0.55mで黒褐色粘質土(炭化物含)の近 世包含層、-1.01～-1.14mで黒褐色粘質土(炭化 物含)の近世包含層。№2；GL-1.78～-1.96mで 灰オリブ色粗砂の地山。	15H708	HL 033	4
四条三坊八町跡、 烏丸御池道跡	中・六角通室町西入玉蔵町129-1	4/15	GL-1.3mまで盛上。	15H312	HL 027	5
四条三坊十町跡	中・室町通六角下る髭山町532	9/15・21	GL-1.41mまで盛上。	16H326	HL 294	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条四坊四町跡	下・四条通高倉西入立売西町79	9/7	№1: GL-0.55mでぶ黄褐色粘土質シルトの鎌倉包含層(土師器皿)。-0.7mでオリブ褐色粘土質シルトの鎌倉包含層(土師器皿)。-0.88mで暗オリブ褐色粘土質シルトの鎌倉包含層(土師器皿)。-1.08~-1.65mでオリブ褐色礫混粘土質シルトの地山を切って暗灰黄色粘土質シルトの鎌倉後期柱穴(土師器皿)と暗オリブ色微砂~細砂の時期不明土坑。№2: GL-1.05~-1.65mでオリブ褐色礫混粘土質シルトの地山を切ってオリブ褐色粘土質シルトの鎌倉土坑(土師器皿、須恵器甕、輸入白磁碗)。	16H237	HL 275	5
四条四坊九町跡	中・富小路通三条下る朝倉町534	4/27~5/12	GL-2.28mまで盛上。	15H423	HL 042	5
四条四坊九町跡	中・富小路通三条下る朝倉町546	8/1・2、 8/25	GL-1.48~-1.6mまで黒褐色礫混シルトの室町包含層(土師器皿、瓦質土器)。	16H234	HL 207	5
四条四坊十五町跡	中・麩屋町通六向下る坂井町473	4/8・12	GL-0.62mで黄灰色粘質土の近世包含層。-0.87~-1.44mで黄灰色粘土上~粗砂の近世湿地状堆積。	15H356	HL 015	5
五条二坊二町跡	下・大宮通綾小路下る綾大宮町61	5/23・25・ 27・30・ 31、6/1・ 2・7・10	№1: GL-1.04mで黒褐色泥砂。-1.25mにぶい黄褐色シルトを切って時期不明ビット。-1.43mで褐色細砂。№2: GL-1.51mで黄灰色泥砂(礫混、固く締まる)の時期不明路面。-1.71mで灰黄色砂礫の地山。№3: 灰黄色砂礫の地山を切って黒褐色泥砂の室町土坑(土師器)。	15H604	HL 062	4
五条二坊三・六町跡、 烏丸綾小路道跡	下・大宮通高辻下る高辻大宮町~高辻通堀川西入富永町地先	8/24、9/8、 10/23	GL-1.3mまで配管盛上。	16H296	HL 247	4
五条二坊七町跡	下・仏光寺通堀川西入麩屋町653-1の一部	10/6・13・ 17	GL-0.7mまで盛上。	16H208	HL 325	4
五条二坊八町跡、 妙満寺の講堂跡	下・四条堀川町278-2他	6/22・23・ 28、7/1	№1: GL-1.77mで黄灰色砂礫の地山。-2.01mで黄灰色細砂の地山。-2.2~-2.94mにぶい黄褐色砂礫の地山。№2: GL-1.67mで褐色砂礫の地山。-1.81mで褐色灰砂礫の地山。-2.16~-2.79mで褐色砂礫の地山。	15H181	HL 120	4
五条二坊十町跡	下・綾屋川町291、西綾小路西平町70、72、72-1	7/19	GL-0.6mで灰黄褐色粘質土の近世包含層。-0.9mで褐色シルト~粗砂の地山。-1.05mで灰白色粗砂の地山。	16H216	HL 184	4
五条二坊十町跡	下・靨ヶ井通綾小路下る要法寺町425	7/22~29、 8/1~24	室町の南北溝を検出。 本報告10ページ 。	16H245	HL 192	4
五条二坊十一町跡、 烏丸綾小路道跡	下・高辻通堀川東入西高辻町602(元格致小学校)	6/22、 10/14・18	GL-1.86mで灰黄褐色粘質土の江戸末期包含層。-2.03~-1.21mで黒褐色粘質土の近世包含層。	15H052	HL 119	4
五条四坊四町跡、 烏丸綾小路道跡	下・高倉通高辻下る葛籠屋町517-2他	10/7~13、 11/9・11	鎌倉~室町の柱穴、溝、土坑を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告平成28年度』に報告。	15H737	HL 327	5
六条一坊十一町跡	下・中堂寺前田町26	6/24・27・ 29、7/1・ 5・7	№2: GL-0.82mで灰黄褐色粘質土。-1.01mで灰褐色粘質土の鎌倉~室町湿地状堆積(土師器皿、輸入白磁碗、須恵器甕)。-1.58~-1.88mで黄褐色細砂の地山。№4: GL-0.7mで黄褐色泥砂。-0.9mで褐色泥砂の室町包含層(土師器皿)。-1.2mで暗灰黄色砂礫の鎌倉~室町包含層(土師器皿、輸入青磁碗、瓦質土器)。-1.4mで灰色シルトの鎌倉~室町湿地状堆積(土師器皿、瓦質土器、施輪陶器面)を切って黄灰色泥砂の鎌倉~室町ビット(土師器皿、施輪陶器甕)。-2.0~-2.1mで灰色シルトの時期不明湿地状堆積を切って黒色シルトの落込。	16H040	HL 126	4
六条一坊十五町跡	下・下松堀町通松原下る二丁目下長福寺町264-3の一部	9/12・14	GL-0.82mで黒褐色泥砂の江戸以降包含層(土師器皿、施輪陶器甕)。-0.94mで灰黄褐色砂礫の近世包含層を切って灰黄褐色泥砂の近世土坑。-1.16~-1.4mで黄褐色粗砂の地山。	16H235	HL 282	4
六条二坊九町跡、 烏丸綾小路道跡	下・油小路通松原下る樋口町314	9/7	GL-0.25mまで盛上。	16H149	HL 274	4

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六条二坊十四町跡、 烏丸綾小路道跡	下・東中筋道五条下る天徳堂三丁目 452	6/27～29、 7/1・6	№1：GL-0.69mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。 -0.84～-2.37mで黄色シルト～砂礫の地山。この層を切って褐色泥砂の鎌倉初頭の土坑(土師器皿)。№2：GL-0.4mで灰黄色褐色泥砂の時期不明包含層。-0.68mで褐色泥砂の時期不明包含層。 -1.04mで明黄褐色シルトの地山。-1.11mで暗灰黄色砂礫の地山。	16H172	HL 127	4
六条三坊五町跡 六条三坊五町跡	下・室町道五条下る大黒町217、218 下・楊梅通新町東人蛭子町120-1	6/20・23 7/21・22、 8/4・5・ 10・12・ 19	GL-0.7mまで盛上。 GL-0.94mで暗オリーブ褐色粗砂混土質シルトの中世包含層(土師器皿)。-1.2～-1.4mで黒褐色粗砂混シルトの室町後期包含層(土師器皿、瓦器鉢、輸入青磁碗、鉄鉢天目碗、焼酎陶器類)。	16H048 16H051	HL 115 HL 190	5 5
六条三坊九町跡、 烏丸綾小路道跡	下・諏訪町通松原下る弁財天町 329-1、329-2	6/17	GL-0.35mまで盛上。	15H734	HL 114	5
六条三坊十二町跡	下・六条通室町東人東屋敷町233、 235-2	10/18・ 19・26	GL-1.28mで黒褐色泥礫土質シルトの時期不明包含層。-1.36～-1.57mでオリーブ褐色泥砂の地山。	16H267	HL 347	5
六 条 四 坊 二 ・ 三 町 跡	下・五条通東洞院東人万寿寺町133	7/5・6・ 12	№1：GL-1.26mで暗灰黄色泥砂。-1.43mでオリーブ褐色砂泥。-1.55mで黒褐色泥砂の中世包含層。-1.75～-3.0mで灰黄色砂礫の地山。№2：GL-0.49mで明赤褐色砂質土の焼土層。-0.57mで暗灰黄色泥砂。-0.7mでにぶい黄色粗砂の氾濫堆積。-0.92mでオリーブ褐色砂泥。-1.05mで暗灰黄色砂泥(礫混)。-1.44～-1.5mで黄灰色泥砂の平安以降包含層(焼締陶器皿、平瓦、埴)。	16H120	HL 157	5
六条四坊十町跡	下・富小路道五条上る本神明町411	8/26、 9/15・16	GL-0.78mで黒褐色泥砂(焼土、焼瓦多量含)。 -0.92～-1.44mで黒褐色泥砂の近世包含層。	15H717	HL 253	5
六条四坊十町跡	下・富小路通万寿寺下る本神明町地 地内(有隣公園)	9/23・26	№1：GL-1.31mで褐色泥砂の近世包含層。-1.63mでにぶい黄褐色砂泥の室町包含層(土師器皿)。 -1.78～-1.92mで灰黄褐色粗砂の平安末期～鎌倉包含層(土師器皿、緑釉陶器碗)。№2：GL-1.1mで褐色泥砂の近世包含層。-1.61mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。-1.73mで灰黄色泥砂の鎌倉包含層(土師器皿、須恵器鉢)。-1.79～-1.86mで明黄褐色砂礫の地山。№3：GL-1.2mでにぶい黄褐色砂礫の氾濫堆積。-1.41～-1.96mで灰黄褐色泥砂の室町包含層(瓦質陶器鉢)。	16H348	HL 310	5
七条一坊二町跡、 堂ノ口町道跡	下・揚屋町38-2地	12/19・20	№1：GL-0.65mで黒褐色泥礫シルトの近世包含層(近世陶磁器)。-1.35mでオリーブ褐色泥砂シルト(炭筋)。-1.4mでオリーブ褐色泥砂～微砂混シルトを切って暗オリーブ色粘土質シルトの鎌倉ピット2(東播系須恵器鉢)。-1.6～-1.75mまで黄褐色粘土質シルトの地山。№2：GL-1.62～-2.06mで浅黄色シルトの地山を切ってオリーブ褐色泥砂の時期不明ピット。	16H197	HL 456	6
七条一坊十三 町跡、東市跡	下・大宮通七条上る御器屋町37	7/26～29	GL-0.82mでにぶい黄褐色砂質土の時期不明包含層。-0.94mで褐色粗砂の地山。-1.16～-1.39mで明黄褐色粗砂の地山。	16H221	HL 198	6
七条一坊十五町跡	下・柳筋通丹波口下る裏片町196-1	7/19・21・ 22・26	GL-0.25～-0.5mでにぶい黄褐色砂質土の時期不明包含層。	16H136	HL 187	6
七条二坊一町跡、 本願寺城跡	下・大宮通花園町上る柿本町609-1	8/22～26、 9/7・14・ 29、10/4・ 13・19、 11/11	№2：GL-0.31mで暗オリーブ褐色泥混シルトの江戸以降包含層(焼締陶器皿)。-0.5mで暗灰黄色泥混シルトの室町以降包含層(土師器皿、瓦器鉢、平瓦)。-0.74～-0.84mで黒褐色粘土質シルトの鎌倉～室町包含層(土師器皿、瓦器皿)。№3：GL-0.26mでにぶい黄褐色粘土質シルトの室町以降包含層(土師器皿・鉢、礎石)。-0.46mで暗褐色粘土質シルトの室町以降包含層(土師器皿、須恵器鉢)。-0.8～-0.95mまで暗褐色粘土質シルトの時期不明包含層。	16H084	HL 239	6

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
七条二坊五町跡、東市跡	下・七条通猪熊東入西八百屋町135-1, 2	12/14・20	GL-1.77mで灰黄褐色泥砂、-1.95mで暗灰黄色泥砂、-2.1～-2.35mで黄褐色砂礫の地山。	15H638	HL 444	6
七条二坊十三町跡	下・西洞院通七条上る福本町409	11/18, 12/8	GL-2.12～-2.18mで明黄褐色砂礫の地山。	16H383	HL 398	6
七条二坊十五・十六町跡	下・旧花屋町通西洞院入山川町312	6/24・28, 7/4・7	No.1: GL-0.85mで時期不明埴土層、-1.56～-1.64mで黄灰色砂質土の地山。No.2: GL-1.05mで灰オリーブ色細砂の時期不明整地層。この層を切って褐色泥砂の平安～室町ビツ(土師器Ⅱ)。黒色土層、平瓦。褐色泥砂(灰オリーブ色細砂ブロック状)の鎌倉ビツ(土師器Ⅱ)、黒褐色泥砂(確認)の鎌倉土坑(土師器Ⅱ)、灰オリーブ色細砂～シルトの鎌倉土坑(土師器Ⅱ、瓦器Ⅱ、輸入白磁陶)、-1.3～-2.05mで黄灰色砂礫の地山。	15H313	HL 123	6
七条三坊五・六町跡、東本願寺前古墓群	下・烏丸通七条上る常葉町754地	6/13・27, 7/11・26・27	No.1: GL-0.46～-0.79mで東西方向3段積の近世以降石垣。-0.79～-1.5mで褐色砂質土の近世包含層。No.3: GL-1.79mでオリーブ褐色砂礫、-2.2mで黒褐色粗砂混シルトの中世包含層(土師器Ⅱ)、-2.41mで黒褐色礫混シルト、-2.63mで黒褐色粘土質シルトの中世包含層(土師器Ⅱ)、-2.82mで黒褐色礫混粘土質シルトの中世包含層(土師器Ⅱ)、-3.03mで黒褐色粘土質シルトの室町包含層(土師器Ⅱ)を切って黒褐色礫混シルトの室町土坑(土師器Ⅱ)、-3.25mで黒褐色砂礫の河川堆積、-3.42～-3.72mで暗灰色粗砂の河川堆積。	15H062	HL 102	7
七条三坊十四町跡、東本願寺前古墓群	下・下珠数屋町通東洞院西入橋町69	9/26	GL-0.42mで黄褐色泥砂の近世整地層、-0.75mで褐色泥砂の中世包含層、-0.85mで灰黄褐色泥砂の中世包含層(土師器Ⅱ)。	16H345	HL 311	7
七条三坊十四町跡、東本願寺前古墓群	下・東洞院通正面下る荳屋町264-2, 278-1, 278-2, 不明門通下珠数屋町上る卓屋町280, 東洞院通正面東入人掛人講町44の一部	10/25・26	GL-0.9mで黒褐色粗砂混シルト、-1.6mで暗灰黄色シルトの時期不明包含層、-1.65～-1.82mまで暗灰黄色細砂。	16H043	HL 356	7
七条四坊四町跡、七条四坊八町跡、七条四坊十五町跡	下・間之町通七条上る堀詰町441 下・榎屋町65-2 下・正面通木屋町東入北側鍵屋町337, 三ノ宮町通正面上る富松町259	4/22 12/2・7 12/7・15	GL-0.65mまで盛土。 巡回時掘り終了。 GL-0.99mで黄褐色泥砂の近世包含層、-1.15～-3.0mで黄褐色砂礫と粗砂の互層の鴨川泥礫堆積。	15H705 16H502 16H380	HL 035 HL 425 HL 434	7 7 7
七条四坊二町跡	下・間之町通上敷珠屋町下る打越町320-8, 320-10, 320-14	11/28, 12/1	GL-0.54mで黒褐色泥砂の時期不明包含層、-0.68mで灰白色粗砂の時期不明泥礫状堆積、-0.77mで褐色泥砂の時期不明包含層、-0.89mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-1.02mでオリーブ褐色泥砂の時期不明包含層、-1.25mで黒褐色泥砂砂質土の時期不明包含層、-1.41～-1.65mで暗灰黄色砂礫の地山。	16H471	HL 415	7
八条一坊四町跡、御土屋跡	南・八条御町1-2地	7/8	GL-1.1mまで盛土。	15H598	HL 164	6
八条三坊一町跡、東本願寺前古墓群	下・木津屋横通新町西入東塩小路町597-2	10/3・18・19・21	GL-1.07mで暗褐色泥砂の時期不明包含層、-1.24mで褐色粗砂、-1.28mで灰黄色泥砂の地山を切って黄褐色泥砂の鎌倉土坑(土師器Ⅱ)、-1.43mで灰白色砂礫の地山。	16H081	HL 320	7
八条四坊一・八町跡、御土屋跡	下・高倉通七条下る木村町～高倉通塩小路上る小幡町地先	6/13・14・15, 7/21・22, 11/24	GL-0.79mで黒褐色泥砂の中世包含層、-0.9mで黄褐色砂泥、-1.04mで灰黄色砂礫、-1.12～-1.35mで黄褐色細砂。	16H104	HL 103	7
八条四坊二町跡、塩小路若山城跡	下・東塩小路町547-2	7/1・25～28	No.3: GL-1.03mで灰色泥砂、-1.25mで黄褐色砂質土(上面礫敷)の時期不明路面(東洞院大路)。No.4: GL-1.35mで灰色泥砂、-1.5mで灰オリーブ色細砂(平安整地)を切って灰色泥砂の室町土坑(土師器Ⅱ)。No.5: GL-1.12mで灰色泥砂(灰オリーブ色泥砂ブロック状)、-1.37～-1.48mで灰オリーブ色泥砂を切って灰色泥砂の平安以降土坑(土師器Ⅱ、横締陶器常滑)。No.6: GL-1.49～-1.89mで灰黄色砂礫の地山を切って灰黄色砂礫の中世土坑(土師器Ⅱ)。	15H488	HL 143	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
九条一坊四町跡、 御土居跡	南・八条内田町28-2	9/15	-0.65mまで盛土。	16H308	HL 290	6
九条一坊十二町跡、 史跡教王護国寺境内	南・九条町1	6/9	室町の灌田院北築地断面を測量。本報告14ページ。	27N076	HL 096	6
九条一坊十五町跡、 教王護国寺旧境内(東寺旧境内)	南・八条通大宮西入九条町399	7/5、8/1・ 2・3・5・ 10・12・ 17・31、 9/1・6・ 7・12・ 14、11/7・ 29、12/1・ 6・7	№4：GL.0.3～-0.6mで黒褐色粘土質シルト(鎌倉)の室町包含層(土師器皿、瓦質土器片等)。№13：GL.0.1mで灰黄褐色シルト、-0.2mで黒褐色シルトの鎌倉以降包含層(土師器皿・釜、瓦器)を切ってオリーブ褐色砂質シルトの近世土坑(土師器皿、施輪陶器皿、平皿、-0.4～-0.55mでオリーブ褐色粘土質シルトの地山。№14：GL.0.43mで地灰黄色微砂～シルトを切って地灰黄色泥砂、灰黄褐色砂泥の鎌倉以降土坑2(土師器皿・甕、平皿、-0.6mで灰黄色微砂～粗砂を切ってにぶい黄色泥砂の鎌倉以降土坑(土師器皿、-0.94～-1.0mで浅黄色シルト。№18：GL.0.3mで明黄褐色シルトの地山を切って褐色シルトと褐色シルトの時期不明土坑2、-0.52mで灰褐色シルト～明黄褐色シルトの地山、-0.8mで灰白色シルトの地山、-1.2～-1.42mでにぶい黄色粗砂の地山。№19：GL.-0.3mで黄灰色シルト(炭倉)の時期不明包含層、-0.68mで明黄褐色シルトの地山を切って灰褐色シルトと黄色泥土と黄灰色泥土の平土土坑(土師器)、-1.0mで灰白色シルトの地山、-1.18mで黄灰色粗砂～砂礫の地山。	16H140	HL 152	6
九条一坊十五町跡、 教王護国寺旧境内(東寺旧境内)	南・八条通大宮西入九条町399	12/9	GL.-0.07mでにぶい褐色砂泥の近世包含層、-0.51～-0.61mで黄灰色シルト。	16H556	HL 436	6
九条三坊五町跡、 烏丸町遺跡	南・東九条下殿田町24	9/28・29・ 30	GL.-0.82mで旧耕作土、-0.96mで灰黄色シルト、-1.39mで灰色シルトの湿地堆積、-1.51mでオリーブ灰色砂礫の時期不明洪水堆積。	16H246	HL 312	7
九条三坊十四町跡、 烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町20	8/29、9/7	№1：GL.-1.32mで旧耕作土、-1.32mで灰オリーブ色シルトの地山、-1.7～-1.85mで緑灰色細砂の地山。№2：GL.0.72mで旧耕作土、-0.89mで暗灰黄色礫混粘土質シルト、-1.06～-1.26mで黒褐色粘土質シルトの時期不明包含層(土師器)。	16H028	HL 256	7
九条三坊十五町跡、 烏丸町遺跡	南・東九条西山王町11の一部	4/14、 5/10・16	GL.-0.58mで灰褐色シルトの旧耕作土、-0.73mで灰白色細砂の時期不明氾濫状堆積、-0.85mで黄灰色シルトの時期不明湿地状堆積(土師器皿、碁石)、-1.0～-2.12mで灰色砂礫の氾濫状堆積。	15H630	HL 024	7
九条四坊十二町跡、 九条河原城跡	南・東九条河西町16	9/30、 10/3	№1：GL.0.69～-2.3mまで明黄褐色砂礫。№2：GL.-0.87mで黄褐色砂礫の室町河川堆積(土師器皿)、-1.92～-2.4mまで黄褐色砂礫の地山か。	16H339	HL 317	7
九条四坊十三町跡	南・東九条河西町38	7/11・13・ 20	GL.-1.7～-2.7mでにぶい黄褐色砂礫の近世以降包含層(施輪陶器)。	15H729	HL 169	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊四町跡、 御土居跡	北・大将軍東藤原町地先	8/31～9/14	GL.-0.65～-0.85mで明黄褐色粗砂の氾濫堆積。	16H314	HR 261	9
北辺四坊四町跡、 史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町1他	8/23	妙心寺北堀の近世石垣を検出。本報告18ページ。	26N005	HR 246	8
一条二坊四町跡	上・御前通下立売下下之町403の一部	8/29・30	GL.0.56mで黒色泥砂(小礫多量混)の近世包含層、-0.84～-0.99mで浅黄色極細砂～細砂。	16H122	HR 257	9
一条二坊四町跡	北・大将軍東藤原町149	10/17・ 18・26	GL.-1.02mで黒褐色シルトの地山、-1.4mで褐色砂礫の地山、-1.61mでにぶい褐色シルトの地山、-1.75～-2.39mで褐色シルトの地山。	16H316	HR 344	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条三坊四町跡	中・西ノ京南大炊御門町16-4	10/31	GL-0.23mで黒褐色粘質土、-0.25～-0.69mで浅黄褐色粘質土の地山を切って黒褐色粘質土の時期不明穴。	16H344	HR 367	8
一条三坊五町跡	中・西ノ京伯楽町22-1	12/5～8	GL-0.3mまで盛上。	16H530	HR 429	8
一条三坊六町跡	中・西ノ京伯楽町2-6、2-10	10/7	GL-0.4mまで盛上。	16H322	HR 328	8
二条二坊三町跡	中・西ノ京冷泉町119	11/24～29	鎌倉の井戸を検出。本報告22ページ。	16H424	HR 410	9
二条二坊九町跡	中・西ノ京内町30	8/18、9/2	GL-0.73～-1.09mで灰色砂礫の氾濫堆積。	16H085	HR 234	9
二条二坊十町跡 西ノ京遺跡	中・西ノ京上合町16、17	9/15・20・ 21・23	GL-0.58mで、ふい黄褐色泥砂の時期不明包含層。 -0.74mまで黒褐色泥砂の時期不明包含層、-0.9mまで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-1.07～-1.28mで黒褐色泥砂(粘質、灰含)の平安後期包含層(土師器皿、緑釉陶器皿・椀、平瓦)。	16H259	HR 292	9
二条二坊十一町跡、御上居跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京笠殿町38	10/19	GL-0.6mまで盛上。	15H608	HR 350	9
二条三坊十五町跡	右・花園春日町14-5	9/30	GL-0.6mまで盛上。	16H294	HR 318	8
二条四坊五町跡	右・花園車道町1	7/29～12/7	GL-0.8～-1.1mで明黄褐色砂礫の地山。	15H713	HR 206	8
二条四坊十三町跡	右・太秦安井柳通町22	11/10	GL-0.29～-0.5mまで暗灰黄色泥砂の時期不明包含層。	16H374	HR 390	8
三条二坊二町跡	中・西ノ京御影町47-1	11/22、 12/13・14	平安中期の西朝負小路東築地内溝を検出。本報告25ページ。	16H462	HR 402	9
三条三坊十二町跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京桑原町1	8/16・19	№1：GL-1.2mで灰色細砂～シルトの氾濫状堆積、-1.8mで灰色細砂の氾濫状堆積、-2.08～-3.2mで灰色砂礫の氾濫状堆積。№2：GL-0.7～-0.85mで氾濫状堆積。	16H279	HR 229	8
三条三坊十五町跡	中・西ノ京月輪町28-7	5/10・12・ 13・16	№1：GL-0.32mで黒褐色砂礫、-0.53mで浅黄色砂泥の地山、-0.77～-0.98mで灰黄色粗砂の地山。№2：GL-0.2mで黄灰色砂礫、-0.5mでふい黄褐色粘質シルトの地山を切って黒褐色泥砂(浅黄褐色粘質シルトのブロック記)の時期不明土坑、-0.65～-0.94mで浅黄褐色粘質シルトの地山。	15H697	HR 049	8
三条四坊一町跡	右・太秦安井水戸田町12-5の一部	11/21	GL-0.6mまで盛上。	16H408	HR 401	8
三条四坊十三町跡隣地	右・山ノ内荒木町1-18、1-19、 1-20、1-21	8/19	GL-1.37～-1.6mで黄褐色砂礫の氾濫堆積。	16H181	HR 236	8
三条四坊十五町跡	右・太秦安井西浜町8083 地先(京都学園大学前バス停東行)	11/29	GL-1.25mまで盛上。	16H312	HR 419	8
四条一坊十五町跡、 壬生遺跡	中・壬生中川町 地内	5/10・11・ 16・17・25	№1：GL-0.96～-1.91mで灰色泥土の時期不明湿地球堆積。№2：GL-3.0mで黄灰色シルト。	15H464	HR 053	11
四条二坊八町跡	中・壬生上大竹町13	12/2・5・ 6・7・8	№1：GL-1.06mで灰褐色シルト、-1.21mで褐色シルトの平安包含層、-1.52mで灰黄褐色シルト、-1.64mで灰黄色粗砂(礫混)の地山、-1.86mで黄色細砂の地山、-2.06mで明緑灰色シルトの地山、-2.17～-2.4mで灰白色砂泥の地山。№2：GL-0.86mで灰褐色シルト、-1.1～-2.14mで灰黄色粗砂(礫混)の地山を切って黄褐色泥砂の平安土坑。	16H426	HR 426	11
四条三坊三町跡	右・西院春日町3-1	8/4・5・ 10・12・24	№1：GL-0.32mで黄褐色粗砂混シルト、-0.6mで黒褐色粘土質シルト、-0.84～-2.04mで褐色砂礫の地山を切って黒褐色粘土質シルトの平安以降土坑(土師器皿)。№2：GL-0.35mで黄褐色粗砂混シルト、-0.5mで黒褐色粘土質シルトの中世包含層(土師器皿)、-0.85～-1.6mで褐色砂礫の地山。№3：GL-0.58mで暗灰黄色泥砂、-0.64mで浅黄色シルトの地山を切って暗灰黄色泥砂の時期不明落込(土師器皿)、オリブ褐色泥砂の時期不明土坑、黄灰色泥砂の時期不明土坑、-1.10～-1.30mで灰白色砂(礫多量混)の地山。	16H053	HR 214	10
四条三坊十二町跡、 西院城跡(小泉城)	右・西院乾町81	9/16	GL-1.42mで黄褐色シルト～微砂、-1.67mで黄褐色シルト～微砂、-2.82mで暗灰黄色シルトの時期不明湿地球堆積。	16H263	HR 297	10

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
四条三坊十三町跡、山ノ内遺跡、西院城跡(小泉城)	右・西院小米町7-3	8/1・2・4・8	中世のピット、柱穴を検出。本報告27ページ。	16H160	HR 208	10
四条四坊西町跡、山ノ内遺跡	右・西院四条畑町10-2、22-1、55、西院日照町54-6、58-1	6/13・16、7/26	GL-0.64mで褐色粘質土の時期不明包含層、-0.76mで明黄褐色シルトの地山、この層を切った褐色粘質土の時期不明土坑、-1.35mでぶい黄褐色砂礫の地山。	15H572	HR 104	10
五条二坊二町跡、御土屋跡	中・壬生東上居ノ内町10-39、10-40、10-41、10-42	10/20・21・24・25	GL-0.4～0.45mで旧耕作上。	16H397	HR 351	11
五条二坊九町跡、壬生遺跡、御土屋跡	右・西院高山寺町1-1	6/10・14	GL-1.06mまで盛上。	16H012	HR 097	11
五条二坊十六町跡	右・西院我町4	6/30・7/5	GL-0.8mで灰色粘質土の時期不明包含層(土師器、須恵器)、-1.2mで黒褐色粘質土の地山、-1.37～-1.69mで明黄褐色粘質土の地山。	16H061	HR 142	11
五条二坊十六町跡	右・西院西三蔵町15-2、西院高山町15-7	9/15	濠跡が掘削終了。	16H069	HR 291	11
五条三坊二町跡	右・西院北矢掛町23	7/20・22	GL-1.33～-1.44mで浅黄色シルトの地山。	16H033	HR 189	10
五条三坊五町跡	右・西院太田町75-2、76-1、75-6、75-7、75-1	8/12・17・24	GL-0.68mで旧耕作上。-0.96mで灰黄褐色細砂～微砂の地山を切った黒褐色シルトの時期不明ピット。-1.3～-1.68mで黄褐色砂礫の地山。	16H236	HR 228	10
五条三坊十二町跡	右・西院太田町1	7/6・19	GL-0.58mで灰色粘質土。-0.76mでオリブ灰色粘質土。-0.93～-1.08mで黄色粘質土の地山。	16H146	HR 161	10
五条四坊十三町跡、西京極遺跡	右・西院西田町94	8/25、9/8	GL-1.19mでオリブ褐色粘質土シルト、-1.3mで黄褐色粘質土シルト、-1.43mでオリブ褐色粘質土シルト、-1.53mで黄褐色粘質土シルト、-1.61mでぶい黄褐色粘質土シルト、-1.81～-1.92mで褐色粘質土シルト。すべての層に掘削痕跡があるため耕作上か。	16H157	HR 250	10
六条一坊十五町跡	下・中堂寺庄ノ内町52-2の一部、52-5、52-15の一部、74-1の一部	9/5	GL-0.5mで旧耕作上。0.98mで褐色粘土の溜地状堆積。-1.2～-1.5mで暗黄褐色砂礫の泥蓋状堆積。	16H162	HR 268	11
六条一坊十五町跡	下・中堂寺庄ノ内町52-4	10/3～21	※1：GL-0.69～-0.74mで暗黄褐色粘質土シルト。 ※2：GL-1.1～-1.42mで灰黄褐色砂礫の地山。	16H193	HR 323	11
六条二坊七町跡	中・壬生東高田町1-21	10/13	GL-1.2mまで盛上。	16H262	HR 339	11
六条二坊十一町跡	右・西院南高田町22-1	12/16・20	GL-0.47mでぶい黄色泥上。-0.63mで黄灰色泥上。-0.8mで灰黄色細砂の地山、-0.95～-1.23mで灰色粗砂の地山。	16H250	HR 451	11
六条三坊九町跡	右・西院追分町5-1、5-2、5-3、5-4、6-1、6-3、8	9/12・20・27	GL-0.59mで旧耕作上。-1.04mでぶい黄褐色シルトの地山、-1.13mで明黄褐色砂礫の地山。	16H288	HR 284	10
六条四坊六町跡	右・西京極東大丸町30-1、30-3の一部	4/25・26	GL-0.57mで灰黄色泥砂の地山、0.66mで灰黄褐色泥砂の地山。-0.73～-1.46mで褐色砂礫の地山。	16H013	HR 037	10
六条四坊六町跡	右・西京極東大丸町30-2、30-3の一部	4/25・26	GL-0.73mで灰黄色シルト(礫混)の旧耕作上。-0.8mで黄灰色砂質土(礫混)、-1.11mで灰黄褐色砂礫の地山、-1.42～-1.8mで黄灰色砂礫の地山。	16H014	HR 038	10
六条四坊十四町跡	右・西京極西大丸町40、42	7/12	GL-0.1mで明黄褐色砂礫、-0.5～-1.03mで暗黄褐色砂礫。	16H095	HR 175	10
七条二坊五町跡、衣町遺跡、西市跡	下・西七条北西野町37-1	11/9	GL-0.3mまで盛上。	16H182	HR 387	13
七条二坊十六町跡	下・西七条八幡町17-1	5/10	GL-0.98mで灰褐色シルトの旧耕作上。-1.23～-1.48mで灰褐色シルトに明黄褐色シルトが混じる旧耕作上か。	15H721	HR 054	13
七条三坊八町跡	右・西京極北庄町57-1、57-2	4/6・8・22	GL-0.6～-0.7mで灰黄褐色シルト～粗砂。	15H587	HR 013	12
七条四坊十一町跡	右・西京極北裏町6-1地先(葛野大路花屋町バス停南行)	5/30	GL-1.16mまで盛上。	16H011	HR 074	12
七条四坊十三町跡	右・西京極西三町17-5、17-7	8/2・8	GL-0.66mでぶい黄褐色微砂混シルト、-0.82mでぶい黄褐色微砂混シルトと細砂ブロックの混合層。-0.97mで灰オリブ色細砂の地山、-1.10mで暗黄褐色細砂混シルトの地山、-1.63mでオリブ褐色粗砂の地山、-1.86～-2.0mで黄褐色微砂混粘土の地山。	16H189	HR 209	12

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八条二坊三町跡	下・梅小路石橋町93-1の一部	6/29・30	GL-0.46mで褐灰色粘質土・灰黄褐色シルト・褐灰色粘質土の旧耕作土。-0.9mで深い黄褐色砂礫の地山。	16H134	HR137	13
八条二坊十一町跡、 衣田町遺跡	下・七条御所ノ内中町52-1	7/15	GL-0.6mで灰色泥土と浅黄色シルト・極細砂の旧耕作土。-0.89～-0.97mで深い黄色細砂・礫の水成堆積。	16H209	HR181	13
八条四坊十三町跡	右・西京極橋詰町39地先(越野大路八条バス停北行)	5/27	GL-1.12mで褐灰色粘質シルトの旧耕作土。-1.17mで深い黄褐色シルト。-1.29～-1.35mで明黄褐色シルトの地山。	15H730	HR072	12
八条四坊十六町跡	右・西京極南方町63-3地先(西京極小学校前バス停北行)	5/30	巡回時間終了。	15H731	HR073	12
九条一坊八町跡	南・唐橋井園町25-1、25-3	10/31、 11/1	GL-0.38mで旧耕作土。-0.53mで深い黄褐色粘質土の平安包含層。-0.73～-0.84mで深い黄褐色粘質土の地山。	16H411	HR369	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(7号地)	5/14・18・ 24、6/27、 7/1・11・ 12、9/12	№6：GL-0.55～-0.67mで褐色シルトの地山を切って暗褐色シルトの平安落込(土師器皿・甕、須恵器壺、緑釉陶器素地、黒色土器片)。№7：GL-0.43mで暗褐色シルトの平安包含層。-0.59mで黒褐色シルトの平安包含層。-0.73mで褐灰色粘質シルトの地山か。	16H111	HR057	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(8号地)	5/14・18・ 24、6/27、 7/1・11・ 12、8/25・ 26	№4・5：GL-0.27mで褐灰色シルト。-0.37mで灰黄褐色シルトの平安包含層(土師器皿、須恵器甕、平瓦)。-0.54～-0.64mで褐色シルトの時期不明包含層(土師器皿)を切って暗褐色シルトの平安中期以降南北溝(土師器、須恵器甕、緑釉陶器片)。	16H112	HR058	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(1号地)	7/11・13・ 14、12/26	GL-0.15mでオリーブ黒色シルト(炭含)の時期不明包含層。-0.25～-0.3mでオリーブ黒色礫状粘土質シルト(炭含)。	16H105	HR170	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(12号地)	8/25	GL-0.27～-0.34mまで灰黄褐色シルトの時期不明包含層。	16H116	HR249	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(3号地)	9/12	GL-0.3mまで盛上。	16H107	HR283	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(4号地)	10/14	GL-0.39mで灰色粘質土の時期不明包含層。-0.49～-0.5mで明褐色粘質土。	16H108	HR341	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(9号地)	10/14	GL-0.43～-0.45mで灰色粘質土の時期不明包含層。	16H113	HR342	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(6号地)	12/14	GL-0.4mまで盛上。	16H110	HR445	13
九条一坊九町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町23(2号地)	12/26	GL-0.3mまで盛上。	16H106	HR469	13
九条一坊十町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町29-5	8/17	GL-0.4mまで盛上。	16H264	HR237	13
九条一坊十町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町32-21、29-3、 29-4の一部	6/27	GL-0.6mまで盛上。	16H100	HR128	13
九条一坊十一町跡、 史跡西寺跡、 唐橋遺跡	南・唐橋西寺町59	10/3・4・ 11・12・ 18	GL-0.33mでオリーブ褐色泥砂。-0.39mで暗灰色粘土質シルトの中世以降包含層(土師器皿、-0.53～-0.59mで黄灰色粘土質シルト)。	28N007	HR321	13
九条一坊十一町跡、 史跡西寺跡、 唐橋遺跡	南・唐橋花園町36	10/18、 11/14	GL-0.7mで灰色泥砂(炭、小礫含)。-0.96～-1.42mで灰色砂礫の地山。	28C049	HR348	13
九条一坊十二町跡	南・唐橋花園町9-10	9/5	GL-0.17～-0.3mで褐色灰色泥砂(固く締まる)。	16H333	HR269	13
九条一坊十四町跡、 史跡西寺跡、 唐橋遺跡	南・唐橋西寺町35-4、40	5/31	平安前期の軒平瓦が出土。 本報告29ページ 。	27N097	HR076	13
九条二坊九町跡	下・七条御所ノ内南町81	11/1・2・ 10	GL-0.72mでオリーブ黒色粘質土(拳大礫混)。-0.89～-1.26mで灰色黄褐色粘土の湿地堆積。	16H403	HR371	13
九条三坊十四町跡	南・吉祥院中河原西屋敷町41-2の 一部	7/6・12	GL-0.71mで深い黄色泥砂。-0.83mで深い黄褐色泥砂。-0.94mで灰黄色シルト(小礫混)。-1.02mで灰オリーブ色シルト。-1.09mで灰黄色シルト。-1.2～-1.37mで灰オリーブ色粘土の地山。	16H142	HR159	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨島岡本小坂町28-1	7/4	GL-1.05mまで盛上。	27N058	UZ 148	24-1
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町40-53	5/23	GL-0.4mまで盛上。	27N096	UZ 064	24-1
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町	11/10・ 15・24、 12/13・20	GL-0.98mで褐色砂質シルト、-1.46mで褐色粘土質シルトの時期不明包含層(土師器)。-1.7~-1.94mまでふい黄褐色シルト。	27N090	UZ 389	24-1
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-33	10/17	GL-1.5mまで盛上。	28C011	UZ 345	24-1
広沢西裏遺跡、大覚寺古墳群、嵯峨遺跡、清涼寺境内	右・嵯峨大沢落久保町他 地内	5/23・25	GL-0.6mで黒褐色シルト、-0.71mで黄褐色シルト、-0.85mで灰黄褐色粘質土、-1.09~-1.3mで黄褐色シルト(やや粘質)。	15S720	UZ 063	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂門前瀬戸川町14	10/7	GL-0.5mで暗褐色粘土質シルト、-0.95~-1.32mで黄褐色粘土質シルトの地山を切って黒褐色粘土質シルトの時期不明土坑。	16S332	UZ 329	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺若宮町8-2、9-1、10-7	9/8	GL-0.45mまで盛上。	16S274	UZ 279	24-1
嵯峨遺跡、嵯峨北堀町遺跡	右・嵯峨中山町18の一部	8/31、9/9	GL-0.3mで明黄褐色砂質土、-0.38mで褐色砂礫の氈蓋状堆積。	16S323	UZ 262	24-1
嵯峨新戸町遺跡	右・嵯峨中又町25番8	10/24・25	GL-0.53mで旧耕作土、-0.71~-0.81mでオリブ黒色粘土質シルト(炭澱)の時期不明包含層。	16S386	UZ 354	28-2
山越古墳群	右・山越西町 地内	10/11	巡回時掘削終了。	16S313	UZ 334	28-3
嵯峨野高田町遺跡	右・嵯峨野高田町8の一部、11-3、11-7、11-8	11/8・11	GL-0.32~-0.42mでふい黄褐色粘砂の時期不明包含層。	16S379	UZ 384	28-5
音戸山古墳群 仁和寺院家跡	右・鳴滝音戸山町 右・花園一条町14他	4/6 10/31、 11/2、 12/12・ 13・14	巡回時掘削終了。 GL-0.59mでふい黄褐色砂粘質土(泥)の江戸河川氈蓋堆積、-0.71mで黒褐色粘質土、-0.75mで明黄褐色粘質土、-0.76~-1.83mで明黄褐色粘質土の地山。	15S547 15S674	UZ 014 UZ 368	18 18
草木町遺跡	右・太秦京ノ道町27-1、27-2	9/12・21、 10/18・20	№1：GL-0.5mで黒色泥上(黄褐色泥土ブロック状)の時期不明包含層(土師器類)、-0.58~-0.68mで暗褐色泥上の籾倉包含層(土師器皿・甕、平皿)。 №2：GL-0.34mで暗褐色泥上、-0.46~-0.55mで明黄褐色泥上の地山。	15S208	UZ 285	18
太秦馬塚町遺跡	右・太秦京ノ前町28、30-1	6/30、 7/1・4・ 8・15	№1：GL-0.2mで暗褐色粘砂の近世包含層、0.4~-0.9mで黄褐色粘砂の地山を切って黒褐色粘砂とふい黄褐色粘砂の時期不明土坑2。 №2：GL-0.45mで黒褐色粘砂の時期不明包含層(土師器類)、-0.87mで明黄褐色シルトの地山、-1.47~-1.84mで暗褐色粘砂(礫多量混入)の地山。	16S178	UZ 141	18
村ノ内町遺跡	右・常盤北裏町7-20	10/25	GL-0.8mまで盛上。	16S359	UZ 357	18
法金剛院境内	右・花園寺ノ内町5地先(花園駅前バス停西行)	5/25	GL-1.06mで黒色粘質シルトの平安前期包含層(土師器皿・甕)、-1.3~-1.35mで褐色粘土質シルト。	15S673	UZ 070	18
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-22の一部	5/23	GL-0.46mまで盛上。	16S036	UZ 067	18
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-98	6/20	GL-0.2~-0.4mで暗褐色粘質土。	16S128	UZ 116	18
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-109	7/11	GL-0.3mまで盛上。	16S133	UZ 172	18
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-99	7/25	GL-0.45mまで盛上。	16S167	UZ 194	18
一ノ井遺跡	右・嵯峨野芝野町10-38	9/23	GL-0.4mまで盛上。	16S254	UZ 300	18
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-106、22の一部	12/7	GL-0.24mまで盛上。	15E	UZ 432	18
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-101	12/21	GL-0.40mまで盛上。	16S551	UZ 463	18
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-101	12/21	GL-0.4mまで盛上。	16S552	UZ 464	18
名勝龍安寺庭園	右・龍安寺御殿ノ下町13	4/1	巡回時掘削終了。	27C105	UZ 003	28-4

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
龍興ノ森瓦窯跡	北・賀茂中川上町70-1	9/1・8・ 9・14	GL-1.45~-1.56mで黒褐色粘砂(褐色シルトブロック状)。	16S241	RH 264	16-2
龍興ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町66、67	9/2	GL-0.2mまで盛上。	16S295	RH 266	16-2
八幡古墳群	左・岩倉橋枝町565-13	8/18、9/30	巡回時掘削終了。	16S309	RH 232	28-8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八幡古墳群	左・岩倉橋町565-16	9/30	GL-0.3mまで盛上。	16S373	附319	28-8
妙満寺遺跡	左・岩倉橋町743-42	7/8・11	GL-0.35mまで盛上。	16S186	附165	28-8
本山古墳群	左・岩倉橋町350の一部、351の一部、352-2の一部	8/23	GL-0.28～-0.43mで黄褐色シルトの地山。試掘調査後の検出遺構の保存確認のための調査。	16S226	附242	28-8
栗栖野瓦窯跡	左・倉橋町2787-10	4/12	GL-0.4mまで盛上。	16S006	附020	28-8
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉橋町2787-10 地内	9/28	GL-1.0mまで盛上。	16S367	附313	28-8
史跡賀茂別雷神社境内	北・上賀茂本山339-1の一部、340の一部、上賀茂御園口町69	11/30、 12/1	GL-0.39～-0.82mで浅黄色砂礫の地山。	28N037	附420	17-2
植物園北遺跡	北・上賀茂菟田町21-2	12/19・26	GL-0.7～-0.81mでオリブ黒色砂礫の地山。	16S437	附459	25-1
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町40 地先	8/22	GL-0.9mまで盛上。	16S086	附240	25-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町3	10/18・21	GL-1.20mでオリブ褐色砂礫の地山。	16S232	附349	25-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎今海道町2-4、2-11	7/19・21・ 22・26	GL-1.0mで暗褐色泥砂(粘性有)、-1.34mでふい黄色シルトの地山、-1.68mで黒褐色泥砂(礫混)の地山、-1.94～-2.08mで灰黄色泥砂(礫混)の地山。	16S187	附183	25-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎今海道町6-2	8/30	GL-0.19mで目研作上、-0.32mでオリブ褐色泥砂の平安以降包合層(須恵器層)。	16S270	附260	25-1
植物園北遺跡	左・下鴨袈ヶ内町4-2	9/16	GL-0.32mで灰黄褐色シルト～黄砂、-0.45～-0.49mで明黄褐色シルトの地山。	16S205	附296	25-1
御土居跡	北・小山西玄以町30	9/15	GL-0.4mまで盛上。	16S321	附293	25-1
大徳寺旧境内	北・栗野大徳寺町66、66-1	9/5・6	GL-0.16mで褐色シルトの近世包合層、-0.31～-0.40mで黄褐色シルト(礫混)。	16S271	附270	16-1
特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金剛寺)庭園	北・金剛寺町1	12/20	GL-0.19mまで盛上。	28C095	附450	16-1
北野遺跡	北・北野紅梅町14	7/4・5・6	GL-0.21～-0.38mで黄褐色泥砂の地山。	16S137	附149	16-1
北野遺跡	上・今小路通御前西入砥屋川町852	7/12・20	GL-0.73～-0.91mで褐色シルトの地山。	16S147	附176	16-1
北野廃寺、北野遺跡	北・北野紅梅町61-2	6/2	№1：GL-0.3mで黄褐色シルトの時期不明土壌化層を切って暗灰黄色泥砂～黄灰色泥砂～黒褐色泥砂の時期不明ピット、-0.4mで明黄褐色シルトの地山。南へ2.1m地点のGL-0.3mで黄褐色シルトの土壌化層を切って明黄褐色泥砂～灰黄褐色泥砂の時期不明ピット。№2：GL-0.22mで黄褐色シルトの時期不明土壌化層を切って灰色泥砂の中世ピット(土師器層)。	16S087	附080	16-1
北野廃寺、北野遺跡	北・北野紅梅町60	8/23	GL-0.18mで黒色シルトの近世包合層(土師器層、平瓦)、-0.38mで黒色シルトの奈良～平安包合層(土師器、須恵器杯身、平瓦)、-0.48～-0.64mで褐色シルト。	16S310	附243	16-1
北野廃寺、北野遺跡	北・北野下白梅町 地先	7/5・6・ 11	GL-0.85mまで盛上。	16S194	附153	16-1
北野廃寺、北野遺跡	北・北野下白梅町43	6/23	GL-0.6mまで覆瓦。	16S075	附122	16-1
尊重寺跡	上・五辻通千木東入榎木町861	7/14	鎌倉の土坑を検出。本報告38ページ。	16S062	附178	16-1
世尊寺跡	上・五辻通大宮西入五辻町72、72-4、72-8、72-9	8/25	GL-0.53mでふい黄褐色シルト、-0.71～-0.87mで黒褐色シルト(礫混)の江戸中期以降包合層(土師器層、施物陶器類、染付類)。	16S255	附251	16-1
聚楽第跡	上・一条通淨福寺東入北新在家町320	11/2	GL-1.0mまで盛上。	16S277	附374	16-1
聚楽第跡、上京遺跡	上・一条通大宮西入石橋南平町49	12/14	GL-0.45mまで盛上。	16S536	附447	16-1
上京遺跡、寺ノ内旧域、悲田院跡	北・上・堀川通、北大路通～寺之内通 地内	4/4～ 12/16	GL-1.8mまで盛上。	15S611	附010	17-1
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・新町通御堂前上る下清蔵町133-8	9/7	GL-0.18mで暗褐色硬粘土質シルト、-0.37～-2.05mで暗オリブ褐色砂礫の地山。	16S192	附277	17-1
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・小川通上御堂前下る神昌院町～小川通寺之内上る宝蔵院東町 地先	5/10～30、 6/3	GL-1.0mまで盛上。	16S047	附051	17-1
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・小川通、上御堂前通～寺之内通 地内	4/4・12・ 13・22	GL-0.45～-0.85mで黒褐色泥砂。	15S436	附009	17-1
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・寺之内通新町西入妙顕寺前町513-1	12/19	GL-0.19mで黒褐色粘土質シルト(径5cm未満の礫、炭化物含)の時期不明包合層。	16S392	附458	17-1
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・新町通寺之内下る安楽小路町417	11/29	GL-0.3mまで盛上。	16S407	附418	17-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上京遺跡	上・烏丸通鞍馬口下る東入上御堂中町290地	4/13、 6/2、 11/10	GL-0.27mで黒褐色泥土。-0.36～-1.23mで深い黄褐色泥土の地山を切って灰黄褐色泥砂の時期不明ピット。	155073	RH 022	17-1
上京遺跡	上・烏丸通鞍馬口下る東入上御堂中町456-1	7/25	GL-0.35mまで盛上。	165252	RH 196	17-1
上京遺跡	上・室町通新町通の問寺之内上る下木下町146-2	7/27、8/1	GL-0.45～-0.78mで黒色泥砂の時期不明包含層。	165185	RH 200	17-1
上京遺跡	上・大宮通寺之内一丁下る西入伊佐町212-2他	5/10・12・ 16・17	№2；GL-1.31～-1.52mで深い黄褐色シルトの時期不明包含層。№3；GL-0.98mで深い黄褐色粘質土。-1.56mで暗褐色粘質土。-1.88～-1.93mで深い黄褐色粘質シルトの地山。	155324	RH 052	16-1
上京遺跡	上・大宮通今出川下る栗原町226-2	4/14～28、 5/9	GL-0.83～-0.97mで黄褐色細砂の中世包含層(横溝陶器)。	155529	RH 026	16-1・ 17-1
上京遺跡	上・今出川通室町東入今出川町314、314-1	7/28・29、 8/1	GL-0.54mで黒褐色泥砂の近世包含層。-0.72mで暗灰黄色泥砂の近世包含層。-0.98～-1.09mで灰黄色泥砂の時期不明包含層。	155710	RH 203	17-1
上京遺跡	上・烏丸通今出川下る梅原町475	6/6	GL-4.0mまで掘戻。	165037	RH 090	17-1
上京遺跡、室町殿跡(花の御所)	上・上立先通室町西入上立先町22	4/7・26・ 28	№2；GL-1.13mで暗灰黄色砂質土(炭、拳大礫)の時期不明包含層。-1.43～-1.52mで暗灰黄色泥砂の平安後期包含層(土師器皿)。№3；GL-0.89mで褐色泥砂の近世包含層。-1.16～-1.54mで灰黄褐色泥砂の室町包含層(輸入青磁碗)。	155644	RH 016	17-1
上京遺跡、室町殿跡(花の御所)	上・裏栗地町地先	06/13	掘削時終了。	155545	RH 106	17-1
上京遺跡、本講寺の構え跡	上・新町通今出川上る西入元本講寺町307-10	8/8～10・ 12	№1；GL-0.83mで灰黄色泥砂の江戸中期以降包含層(土師器皿)。-1.02mで黒色炭層。-1.05mで黒褐色泥砂。-1.11mでオリブ褐色泥砂。-1.23～-1.33mで黄褐色砂礫の地山を切って暗灰黄色泥砂の時期不明土坑。№3；GL-0.96mで暗灰黄色泥砂の平安後期～鎌倉包含層(土師器皿)。-1.13～-1.54mで深い黄色砂礫の地山。	165204	RH 219	17-1
上京遺跡、一条室町殿跡	上・武者小路通室町西入武者小路町416	6/27、7/1	GL-0.24mに深い黄褐色粘質土(炭含)。-0.68～-0.99mで褐色粘質土(炭含)の時期不明包含層。	165155	RH 129	17-1
相国寺旧境内、上御堂遺跡	上・烏丸通上立先上る相国寺門前町647-23(烏丸中学校)	11/16・ 17・24	GL-0.64mまで盛上。	165196	RH 394	17-1
相国寺旧境内、上御堂遺跡	上・相国寺門前町701	4/21・22・ 25、6/20・ 23、7/6・ 11	№5；GL-0.46mで深い黄褐色粘質土の近世包含層。-0.6～-0.65mで深い黄褐色粘質土の時期不明包含層。№6；GL-0.3～-0.75mで黄褐色シルト。№7；GL-0.2mで黒褐色粗粒シルトの中世～近世包含層(土師器)。-0.32～-0.4mまで黄褐色礫混シルト。	155707	RH 034	17-1
相国寺旧境内、上御堂遺跡	上・相国寺門前町地先	7/19～29、 8/1～4	GL-0.25mで褐色砂質土の近世包含層。0.6～1.2mで灰黄褐色泥砂(礫混)。	165229	RH 186	17-1
相国寺旧境内、上御堂遺跡	上・今出川通烏丸東入相国寺門前町701	12/9	GL-0.16mで深い褐色泥砂(焼土混)の近世包含層。-0.37mで灰黄色砂礫。-0.61mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。-0.90mで暗灰黄色泥砂の時期不明層。-1.02mで褐色泥砂の焼土の硬化石。№2；GL-0.31mで灰黄色砂礫。-0.53mで黄褐色砂礫。-0.71～-1.05mで深い黄色シルトの地山。	165417	RH 437	17-1
寺町旧城跡 賀茂御祖神社境内	上・今出川通町東入一真町79-1	8/8・12	GL-1.01～-2.10mまで灰オリブ色泥砂(粘質)。	165119	RH 223	17-1
史跡 賀茂御祖神社境内	左・下鴨泉川町59	11/9・17	GL-0.21～-0.25mで黄褐色泥砂。	28N032	RH 385	17-3
史跡 賀茂御祖神社境内	左・下鴨泉川町地先	9/6・7・12、 10/26、27	GL-0.95mまで盛上。	28C036	RH 272	17-3

北白川地区(KS)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
神 殿 町 道 跡 北白川追分町縄文 道跡、吉田上大 路町道跡、北白 川追分町道跡、 追分町古墳群 吉田上大路町道跡、 吉田二本松町道跡	左・修学院神楽町他 地内 左・北白川西町82-9、85-2	8/23 10/3・4	GL-0.64～-0.84mで褐灰色微砂の氾濫堆積。 GL-0.4mまで盛上。	16S050 16S214	KS 245 KS 322	29-2 19
白 河 街 区 跡	左・聖護院川原町29	8/17、9/8	GL-0.64mで暗褐色細砂、-0.79mでふい黄色 細砂～粗砂の地山、-1.16～-1.66mでふい黄褐色 砂礫の地山。	16S278	KS 231	19
白 河 街 区 跡	左・聖護院山王町43-6	12/19・20	GL-0.21mでオリープ褐色シルト(黄褐色微砂プ ロック面)、-0.39mで暗灰色粗砂シルト(締 り悪い)、-0.65mで暗オリープ褐色粗砂混シルト (締り悪い)の時期不明包含層(土師器)、-0.85～ -1.0mで黒褐色シルト。	16S533	KS 460	19
白 河 街 区 跡	左・岡崎天王町13	6/10～20	GL-0.29mで明黄褐色粗砂の地山。	15R642	KS 098	19
白 河 街 区 跡	左・仁王門通新高倉東入北門前町 502-4	9/21	GL-0.36mで灰黄色泥砂、-0.7mでふい黄色泥砂、 -0.77mで灰黄色シルト(細砂混、粘性有)の中世包 含層(土師器面)、-0.86～-1.07mまで灰白色細砂。	16S191	KS 305	19
白 河 街 区 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎入江町89	12/5	GL-0.35mまで盛上。	16S488	KS 428	19
白 河 街 区 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎地成町16-1の一部、16.3、 16-14の一部、18-8の一部	6/20・21	GL-0.5mまで盛上。	16R165	KS 117	19
白 河 街 区 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎地成町17-10	8/4	GL-0.15～-0.22mで黒褐色粗砂～シルトの近世・ 近代包含層。	16R173	KS 212	19
白 河 街 区 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎円勝寺町70-5地先(岡崎公 園美術館・平安神宮前バス停 北行)	6/13	GL-0.53mで黒褐色砂質土の時期不明包含層、 -0.6mで灰黄褐色砂質土の時期不明包含層、-0.7m で黒褐色砂質土の時期不明包含層、-0.83～-1.2m で灰白色粗砂の地山。	15R670	KS 107	19
白 河 街 区 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎円勝寺町124地先(岡崎公 園美術館・平安神宮前バス停 南行)	6/14	GL-0.78mで灰黄褐色砂質土の中世包含層(土師器 面)、-0.83～-1.2mで灰白色粗砂～細砂の地山、 この層を切って浅黄色粗砂とふい黄褐色砂質土 の時期不明土坑。	15R671	KS 111	19
岡 崎 道 跡	左・岡崎東天王町14	10/6、11/25	巡回時掘削終了。	16S305	KS 326	19
名 勝 平 安 神 宮 神苑、白河街区 跡、岡崎道跡	左・岡崎西天王町97	4/1	巡回時掘削終了。	27C102	KS 004	19
成 勝 寺 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎最勝寺町・岡崎成勝寺町	12/21・26	GL-1.5mまで盛上。	16R577	KS 465	19
円 勝 寺 跡、成勝 寺跡、岡崎道跡	左・岡崎円勝寺町124(岡崎公園内)	9/21・23	GL-0.72mまで盛上。	13R450	KS 301	19
法 勝 寺 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎法勝寺町90-12、90-13	12/14・15	GL-0.24～-0.47mで明黄褐色粗砂(花崗岩片含)。	16R454	KS 449	19
法 勝 寺 跡、 岡 崎 道 跡	左・岡崎法勝寺町 地先	12/13	GL-0.3～-2.68mまでオリープ黄色砂泥。	16R472	KS 443	19
白 河 北 殿 跡	左・聖護院川原町 地先	4/18	巡回時掘削終了。	16R015	KS 030	19
白 河 北 殿 跡	左・聖護院道草塚町2-5の一部	7/5・11・ 12	GL-0.87mでふい黄褐色粗砂、-0.94mで黄灰 色砂礫(固く締まる)の時期不明路面、-0.98mで 黄褐色シルト～粗砂、-1.04mで灰白色シルト～ 粗砂、-1.06mで黒褐色シルト～粗砂、-1.08mで 明黄褐色砂礫(固く締まる)の時期不明路面、-1.12m でふい黄色粗砂(礫混)、-1.19～-1.22mで明黄 褐色砂礫(固く締まる)の時期不明路面。	15R562	KS 154	19

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中尾城跡隣接地	左・浄土寺大町	5/31	平成25年の台風18号で崩落した斜面の調査。遺構、遺物は検出できず。	16A005	KS 079	29-3
史跡南禅寺境内	左・南禅寺福地町86-14	8/29	GL-0.65mまで盛土。	28C037	KS 259	19
法成寺跡	上・東坂町25 地先(荒神口バス停南行)	5/24	GL-0.5～-0.88mで暗褐色砂礫の近代包含層。	15S672	KS 068	29-5

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
粟田口窯跡	東・三条通白川橋東入三丁目夷町166-6	12/6	GL-0.95mまで盛土。	16S405	RT 431	19
寺町旧域	中・新根本町二条上る角倉町226、228-4、228-5	7/12・13・19	GL-0.97～-1.18mで灰白色砂礫の氾濫堆積。	16S132	RT 177	29-6
建仁寺境内	東・大和路通四条下る四丁目小松町616他3車	6/10・14・16	№1：GL-1.18～-1.29mで明黄褐色シルトの地山。№2：GL-0.6mでにぶい黄褐色泥砂の近代包含層(土師器皿、平瓦、埴)。-1.18～-2.16mでにぶい黄褐色シルト～砂礫の地山。	15S657	RT 099	20
珍皇寺旧境内	東・松原通大和路東入二丁目轆轤町112	7/4・7	GL-0.69～-1.49mで灰白色砂泥と黄色砂泥の混じる地山。	16S179	RT 150	20
六波羅政庁跡	東・大黒町通五条上る音羽町309の一部、310の一部	10/17・18	GL-0.55mまで盛土。	16S342	RT 346	20
六波羅政庁跡	東・建仁寺町五条下る一丁目東入芳野町105、467	8/10・18、9/1・2・6	GL-0.46～-2.42mで陶器積み近代以降遺構。	15S691	RT 226	20
六波羅政庁跡	東・東大路通洪谷下る妙法院前御町420	8/5・9・12・17	GL-0.5mでオリブ黒色粗砂混シルトの江戸中期以降包含層(陶輪陶器、平瓦)、-0.63mで灰オリブ色礫混シルト、-0.97mで黄褐色粘土質シルト、-1.1mで灰オリブ色粗砂混シルトの時期不明包含層、-1.24～-1.64mでオリブ黒色泥砂。	16S174	RT 216	20
六波羅政庁跡	東・朝町通正面下る上堀詰町266、267	4/28	GL-1.1mまで盛土。	15S563	RT 043	20
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り町642、657	4/4・5・25、7/21	GL-0.19mで黄褐色シルト、-0.3mでにぶい黄色砂泥、-0.41mで瓦層、-0.52mで暗灰黄色泥砂、-0.64mで黄褐色砂泥(粘性有)の鎌倉整地層、-0.74mでにぶい黄色砂泥(粘性有)の鎌倉整地層、-0.88mで浅黄色泥砂の鎌倉整地層。	15S636	RT 011	20
法住寺殿跡	東・本町十丁目176-7	7/8	GL-0.6mまで盛土。	16S130	RT 166	20
法性寺跡	東・福島御所ノ内町2-27、28	10/5	GL-0.4mまで盛土。	16S260	RT 324	26-2
法性寺跡	東・福稲上高松町11	11/8・10・21・22・30	GL-0.8mでオリブ褐色泥砂の近代包含層、-1.1mで淡黄色粘質土の地山を切ってにぶい黄褐色泥砂の時期不明土坑。	16S077	RT 381	26-2
法性寺跡	伏・深草下高松町～東山区福稲下高松町地内	4/8～28、6/1	GL-2.02mまで盛土。	15S526	RT 018	26-2
法性寺跡	東・本町十五丁目811	7/5	GL-0.24～-0.38mで黄褐色シルトの地山。	16S161	RT 155	26-2
法性寺跡、塚本古墳	東・本町十六丁目305	12/22・26	№1：GL-0.17～-0.53mで明黄褐色シルトの地山。№3：GL-0.51mで黄褐色泥砂を切ったオリブ褐色粘土質シルトと暗褐色シルト(黄褐色泥砂含)の中世ビット3(土師器)。	16S435	RT 468	26-2
日ノ岡堤谷須惠器窯跡	山・御陵封じ山町1-43、日ノ岡堤谷町75-4	12/16	GL-0.1～-0.24mで褐色シルトの地山。	16S427	RT 452	29-7
日ノ岡堤谷須惠器窯跡	山・御陵原西町17-19、日ノ岡堤谷町75-15、75-7	5/6	GL-0.3mまで盛土。	15S743	RT 046	29-7
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野阿芸沢町地内	4/1	GL-1.9mまで盛土。	15S353	RT 005	29-8
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野大手先町地内	10/26・27、11/4・9・30	GL-1.90mまで盛土。	16S080	RT 360	29-8
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野広見町37	6/10・15	GL-0.4mまで盛土。	16S083	RT 100	29-8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)、 左長兵衛遺跡	山・西野離宮町40他13筆、山階町 2他15筆	8/22・17・ 18・24、 9/6	№14：GL-0.7mで灰黄色シルトの旧耕作土。 -0.79mで暗灰色砂泥(マンガン含有、土壌化)。 -0.8～-1.6mで暗オリーブ色シルトを切って灰オ リーブ色シルトの時期不明ビット。№16： GL-1.05mで黄褐色シルト(小石、炭少量含)を切っ て灰黄褐色粘質土(礫、焼土、炭化物多量含)の室 町土坑(土師器皿)、この土坑を切って灰黄褐色粘 質土(礫、焼土、炭化物少量含)の時期不明土坑。 -1.8～-1.93mで黄褐色砂礫の地山。	15S293	RT 230	29-8
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢宿町32-105	12/12	GL-0.39mまで盛上。	16S526	RT 438	30-1
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢宿町32-22	6/28・29	GL-0.19mで褐色粘質土(礫多量混)、-0.26mで 黒褐色シルトの遺物混入土(土師器皿・羽釜、瓦 器羽釜)。	16S169	RT 138	30-1
元屋敷庭寺	山・大塚元屋敷町46-11	12/19	GL-0.32mで灰オリーブ色砂礫、-0.45～-0.58m でオリーブ黒色砂礫の河川堆積。	16S482	RT 461	30-4
大塚・小山 石切丁場跡	山・大塚大岩、大塚高岩他	8/7～8/17	桃山のクレーター状平場を測量調査。本報告 40ページ。	16A003	RT 422	30-3
中臣遺跡	山・東野舞台町67-5、62-4、 110-9、72-6	11/4・7	GL-0.62mまで盛上。	16N384	RT 375	26-1
中臣遺跡	山・西野山中臣町20-1	8/8	GL-0.4mまで盛上。	16N265	RT 218	26-1
中臣遺跡	山・西野山中臣町185-2	9/21	GL-0.5mまで盛上。	16N353	RT 307	26-1
中臣遺跡	山・西野山中臣町185-3	10/25	GL-0.2mまで盛上。	16N415	RT 358	26-1
中臣遺跡	山・西野山中臣町185-1	6/14	GL-0.2mまで盛上。	16N127	RT 112	26-1
中臣遺跡、坂上 田村麻呂墓伝承地	山・勧修寺東栗納野町46他	10/7	GL-0.13～-0.23mで黒褐色シルト(植物茎根入)。	16N418	RT 332	26-1
大宅庵寺、 大宅遺跡	山・大宅島井脚町12-1	7/15	GL-0.2mでにぶい黄褐色泥土、-0.3～-0.67mで 黒褐色泥土の時期不明包含層。	16S141	RT 182	30-5
史跡随心院境内	山・小野御堂町44-16	6/24、7/4	GL-0.4mまで盛上。	27N074	RT 124	26-3
史跡随心院境内	山・小野御堂町49-5	10/7	GL-0.18mで暗褐色シルトの時期不明包含層。 -0.43～-0.56mで褐色礫混シルト(炭屑)。	28N035	RT 331	26-3

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
極楽寺跡	伏・深草大門町16-4の一部(A棟)	12/12	GL-0.4mまで盛上。	16S493	FD 440	26-4
貞観寺跡、 深草坊町遺跡	伏・深草瓦町52-4	9/12～14・ 21	GL-0.5mまで盛上。	16S291	FD 286	26-4
貞観寺跡、 深草坊町遺跡	伏・深草瓦町47	6/3	GL-0.35mまで盛上。	16S034	FD 085	26-4
伏見城跡	伏・深草中ノ島町49、41-3、深草 墨染町51、51-2	4/13	GL-0.45mで灰褐色砂泥、0.55～-0.69mで明 褐色砂泥(炭屑)の時期不明造成土。	16F020	FD 023	14
伏見城跡	伏・南替町十五丁目124-1、124-2、 京町十丁目1125-10、1125-17	10/12	GL-0.5mまで盛上。	16F393	FD 338	14
伏見城跡	伏・京町十丁目23-1の一部	8/24、10/24	GL-0.45～-0.5mで黒褐色泥砂。	16F227	FD 248	14
伏見城跡	伏・南替町十四丁目170、171	4/1	GL-0.33mまで盛上。	15F538	FD 006	14
伏見城跡	伏・桃山御柴長吉東町80-4	11/28・29	GL-0.32mで褐色砂礫の伏見城築造成土、-0.89～ -0.98mで赤褐色シルトの伏見城築造成土。	16F460	FD 413	14
伏見城跡	伏・片原町289-3、289-4	8/29	GL-0.45mまで盛上。	16F150	FD 258	14
伏見城跡	伏・新町五丁目491の一部	11/30	GL-0.7mまで盛上。	16F468	FD 421	14
伏見城跡	伏・道阿弥町139、142	12/16	GL-0.5mまで盛上。	16F452	FD 453	14
伏見城跡	伏・桃山奉長寺179-1、常盤町33-1	4/20～26	GL-0.8mまで盛上。	15F618	FD 031	14
伏見城跡、桃陵遺 跡、奉行前町古墳	伏・奉行前町3	7/8	GL-0.94～-1.32mでにぶい黄褐色泥砂の近世包 含層。	15F692	FD 168	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷八島町～桃山最上町 地内	4/25、 5/16・19	№1：GL-0.75mで黒褐色シルト、-1.05～-1.35m で褐色シルト。№2：GL-0.75mで褐色粘砂土の 地山、-0.94mでにぶい黄褐色粘質シルトの地山、 -1.1mでにぶい黄褐色粘質土の地山、-1.35mで 明黄褐色砂礫粘質土の地山。	15F435	FD 039	15

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・深草大亀谷六軒町45-5	6/9	GL-0.8mまで盛上。	15F724	FD 095	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷内膳町13	5/26・27	GL-0.2mで暗褐色シルト(炭屑)を切って黄褐色粘質シルト(礫混)の時期不明土坑。-0.3mで明褐色シルトの地山を切ってに黄褐色シルトの空町土坑(瓦質土器深鉢)。	15F589	FD 071	15
伏見城跡	伏・桃山町正宗53-1	8/2・3	GL-0.23mで褐色粗砂混シルトの時期不明整地層。-0.29～-0.37mでに黄褐色礫混シルトの時期不明整地層。	16F184	FD 210	15
伏見城跡	伏・桃山町前町地内	10/31、11/2	GL-0.35～-0.6mで黄色粘質土の地山。	16F272	FD 366	15
伏見城跡	伏・桃山町三河地内	8/10	GL-0.66～-0.95mでに黄褐色粗砂の時期不明包含層。	16E	FD 227	15
伏見城跡、 桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町正宗37-7	6/13	GL-0.3mまで盛上。	16S138	FD 108	15
伏見城跡、 桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町永井久太郎59-9、59-2の一部	9/20・26	GL-0.33mまで盛上。	16F287	FD 302	15
伏見城跡、 黄金塚2号墳	伏・桃山町通山33-41	8/9	GL-0.7mまで盛上。	16F201	FD 224	15
太閤塚(小倉塚、横島屋)	伏・向島吹田河原町8	10/26	GL-0.48mでに黄褐色粗砂。-0.86～-0.94mで黄褐色粗砂とシルトの互層。	16S206	FD 361	15
向島城跡	伏・向島二ノ丸町18-1	7/5	GL-0.3mまで盛上。	16S139	FD 156	30.7

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町21-4、21-5	11/25	GL-0.4mまで盛上。	16S355	TB 411	30.8
唐橋遺跡	南・唐橋川久保町35	7/19・21・26	№1: GL-0.51mで暗灰黄色砂礫の氾濫堆積。-0.81mで暗灰色粘質土の湿地状堆積。-1.08mで明褐色砂礫の氾濫堆積。-1.34mで黄褐色粘質土の湿地状堆積。-1.68～-2.25mで灰黄色砂礫の氾濫堆積。№2: GL-1.27mで灰色シルト(粘性有)。-1.61mで灰色微砂。-1.83～-2.67mで黄褐色砂礫の地山。	16S170	TB 185	30.8
吉祥院天満宮境内	南・吉祥院政所町1-1の一部、2-1、3-2の一部、3-3、3-4の一部	5/31、6/3	GL-0.31mで明黄褐色泥砂。-0.72mで淡黄色細砂と明黄褐色泥砂の互層の平安整地層(土師器層)。-0.79mでに黄褐色泥砂の氾濫堆積。-0.88mでに黄褐色砂礫の地山。	15S472	TB 077	30.8
御土居跡	南・西九条南田町43地	11/16、12/1・7・12	GL-1.05mで黒色粘土質シルトの近世～近代耕作土。-1.45～-1.95mまで褐色砂礫の地山。	16S283	TB 395	31-1
鳥丸町遺跡	南・東九条宇賀辺町7-1	11/1・7・9	GL-0.58mで暗灰黄色砂礫。-0.8～-1.32mまで浅黄色砂礫。	16S376	TB 373	31-2
久我殿遺跡	伏・久我本町5-4	9/21	GL-0.4mまで盛上。	16S299	TB 306	22
久我殿遺跡	伏・久我御旅町2-96-97	6/3	GL-0.94～-1.0mで灰色泥砂の時期不明湿堆積。	15S725	TB 086	22
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町108	4/14・27	GL-1.36～-1.51mで灰色シルトの湿地状堆積。鳥羽離宮に伴う池の埋土。	15T745	TB 025	25.2
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄誓院町307-2	12/21・22	GL-0.85mまで盛上。	16T509	TB 467	25.2
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町48-2、49、50、51の一部	7/6	GL-0.59mまで盛上。	16T222	TB 160	25.2
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町48-2、49、50、51の一部	8/9	GL-0.3mまで盛上。	16T223	TB 222	25.2
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町72	8/25	GL-0.5mまで盛上。	16T164	TB 252	25.2
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町109-2、136	11/7	GL-0.1mまで盛上。	16T377	TB 379	25.2
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽東岸川町58	7/8	GL-0.53mまで盛上。	16S005	TB 167	25.2
深草遺跡	伏・深草輪森町38-6	11/7	GL-0.42～-0.51mで黄褐色泥砂の旧耕作土。	16S422	TB 378	26.4
深草遺跡	伏・深草西通町四丁目90-2	10/25	GL-0.6mまで盛上。	16S414	TB 359	26.4
横大路城跡	伏・横大路中庄町～横大路貴船地内	5/23～9/27	GL-0.65mでに黄褐色粘質土。-1.0～-1.5mで灰色粘土の湿地状堆積。	15S549	TB 066	31-4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
下三橋城跡	伏・横大路下三橋原町37-2, 28-2	6/22・24	GL-0.41mで淡黄色細砂の時期不明洪水層、-0.48～-0.68mで褐色粘質土(炭含)の時期不明包含層。	16S098	TB 121	14
淀城跡	伏・淀池上町48	8/18	GL-0.6mで明黄褐色微砂の時期不明包含層。	15S739	TB 233	23

長岡京地区(NG)左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条三坊十二町跡	伏・羽東師範川町16	7/27	GL-0.19～-0.3mでふい黄褐色シルト(灰白色細砂～シルトブロック状固)	16NG059	NG 202	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師範川町537-50	7/28	GL-0.25mまで盛上。	16NC253	NG 205	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師範川町537-66, 537-67	9/5	GL-0.35mまで盛上。	16NC318	NG 271	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師範川町537-26	9/6	GL-0.2mまで盛上。	16NC317	NG 273	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師範川町537-21	9/7	GL-0.25mまで盛上。	16NC319	NG 278	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師範川町537-62	11/11	GL-0.4mまで盛上。	16NC451	NG 392	22
四条三坊十四町跡	伏・羽東師範川町537-52	12/16	GL-0.3mまで盛上。	16NC550	NG 454	22
四条三坊十五町跡	伏・羽東師範川町537-68	6/8	GL-0.22mまで盛上。	16NC102	NG 094	22
四条三坊十五町跡	伏・羽東師範川町537-54	7/1	GL-0.25mまで盛上。	16NG200	NG 144	22
五条四坊十三町跡	伏・羽東師古川町130-1, 133-1, 795-1	11/4	GL-0.5mまで盛上。	16NC410	NG 377	22
九条二坊十三町、三坊四町跡、淀城跡	伏・淀木津町地先	5/11・12	GL-0.89mまで盛上。	15NC639	NG 050	23
九条三坊十・十五町跡、旧淀城跡	伏・納所妙徳寺町他 地内	7/28・29, 8/18, 10/24, 11/2, 12/1	GL-0.35mで灰黄褐色粗砂の氾濫状堆積、-0.5mで褐色シルト(径3cm以下礫少量含)、-0.7mで暗灰黄色砂礫の氾濫状堆積、-0.98～-1.3mで黄褐色シルト(炭含)の時期不明包含層。	16NC054	NG 204	23

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山	西・嵐山茶屋町37-2, 38-2, 38-3の一部	7/11	GL-0.7mまで盛上。	26N070	MK173	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山茶屋町20-3	9/12	GL-0.1mまで盛上。	28C041	MK288	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山山ノ下町22-17	9/20～11/15	GL-0.35mまで盛上。	28N012	MK303	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山風呂ノ橋町2-33	8/4	GL-0.18～-0.4mで黄褐色泥砂の地山。	28C012	MK213	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山風呂ノ橋町20-10	11/24～12/20	GL-2.0mまで盛上。	28N050	MK409	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山森ノ前町27	6/6	GL-0.35mまで盛上。	27N093	MK091	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山樋ノ上町1-29, 1-30	6/3	GL-0.2mまで盛上。	27C115	MK084	27-1
嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町40-1の一部	4/22	GL-0.2mまで盛上。	27C110	MK036	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山谷ヶ辻子町39-2, 41-5	11/24	GL-0.08～-0.18mで明黄褐色砂泥。	28C079	MK408	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山谷ヶ辻子町14-3, 14-4	8/8	GL-0.4mまで盛上。	28C018	MK221	27-1
史跡・名勝嵐山	西・嵐山谷ヶ辻子町9	9/12	GL-0.35～-0.55mで旧耕作土。	28C030	MK287	27-1
嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山内田町25-4	6/3・6・7	GL-0.67mで灰褐色泥砂と明黄褐色シルトと灰褐色泥砂の互層による旧耕作土、-1.3～-1.37mで明黄褐色シルトの地山。	15S640	MK083	27-1
松尾大社境内	西・嵐山宮町3	4/1	巡回時開催終了。	15S654	MK007	31-5
松尾十三塚古墳群	西・松室道スケ町26-60	8/23	GL-0.4mまで盛上。	16S302	MK244	31-5
松尾十三塚古墳群	西・松室道スケ町26-8	4/26	GL-0.35mまで盛上。	15S723	MK040	31-5
松室遺跡	西・松室北河原町145, 146, 158の一部、159の一部	9/30	GL-0.26～-0.41mで明黄褐色微砂の地山。	16S301	MK316	31-5
革船館跡	西・川島玉頭町24-3	12/26	GL-0.22mでオリブ褐色シルトの時期不明包含層、-0.43～-0.75mで黄褐色泥砂の地山。	16S555	MK470	21-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
葦船遺跡	西・川島沖橋町41-3	4/4	GL-0.25～-0.36mで旧耕作土。	15S685	MK012	21-1
葦船遺跡	西・川島野田町14-1, 15-1, 16-1, 147, 148, 149, 150	5/19	GL-0.28～-0.4mで褐灰色粘質土の旧耕作土。	16EE	MK059	21-1
下津林遺跡	西・下津林六反田1-4	9/29・30, 10/4・6	No.1: GL-0.15mでふい黄褐色砂泥(礫混), -0.54～-0.64mで黄褐色泥砂(礫混)。No.2: GL-0.76～-0.93mで明黄褐色砂泥(礫混)の地山。	16S398	MK314	21-1
上久世遺跡	南・久世上久世町369-1, 366	6/24・27	GL-0.65mで灰色シルトの近世包合層, -0.95～-1.51mで褐色細砂の地山。	16S060	MK125	21-3
中久世遺跡	南・久世中久世町一丁目142-3, 142-2の一部	9/1・2	GL-0.14mでふい黄色シルトの旧耕作土, -0.2～-0.39mで灰色粘土。	16S297	MK265	21-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目3	10/26	GL-0.17～-0.37mで黄褐色砂礫の地山。	16S389	MK362	21-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-18	6/13	GL-0.3mまで盛土。	16S066	MK110	21-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-13	8/31	GL-0.15mまで盛土。	16S231	MK263	21-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-22	5/11	GL-0.2mまで盛土。	15S733	MK056	21-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目85-20	6/29	GL-0.1mまで盛土。	16S121	MK139	21-3
中久世遺跡	南・久世殿城町438, 439, 440, 450	10/11	GL-0.65mまで盛土。	16S365	MK335	21-3
中久世遺跡, 大蔵遺跡	南・久世殿城町480-1の一部	6/13	GL-0.35mまで盛土。	16S070	MK109	21-3
中久世遺跡, 大蔵遺跡	南・久世殿城町480-1の一部	6/22	GL-0.4mまで盛土。	16S071	MK118	21-3
大蔵遺跡	南・久世大蔵町182の一部	5/31	GL-0.2mまで盛土。	16S094	MK078	21-3
大蔵遺跡	南・久世大蔵町182の一部	4/28～5/9	GL-0.24mまで盛土。	15S748	MK044	21-3
大蔵遺跡	南・久世築山町102-1	5/20	GL-0.48mで褐灰色粘質土の旧耕作土, -0.63mで灰黄褐色微砂混シルト, -0.8～-1.22mでふい黄褐色粘質土の地山。	15S728	MK061	21-3
大蔵遺跡,	南・久世大蔵町331-1, 331-3,	12/28	GL-0.34mまで盛土。	16S211	MK473	21-3
大蔵城跡	332-1, 333-1, 602					
福西古墳群	西・大枝中山町地先	11/8	GL-0.8mまで盛土。	16S436	MK383	27-2
福西古墳群	西・大枝東長町1-685, 1-684	7/25	GL-0.5mまで盛土。	16S261	MK197	27-2
南春日町遺跡	西・大原野北春日町～大原野南春日町地内	4/18, 6/2, 12/1	GL-0.35mでふい黄褐色泥砂, -0.44～-0.98mで黄褐色泥砂の地山。	15S632	MK029	27-3

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
比賀江古墳群	右・京北比賀江町地内	10/27～11/21	巡回時掘削終了。	16S058	UK 363	31-6
愛宕山古墳群	右・京北塔町地内	10/27～11/21	巡回時掘削終了。	16S057	UK 364	31-6
出口古墳群	右・京北五本松町地内	4/4, 8/15	巡回時掘削終了。	15S257	UK 008	31-6

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしようさいぶんぶちようさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・蛭嶋根絵美							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京左京一条 四坊九町跡・ 公家町遺跡	京都市上京区 京都御苑2番地	26100	1 241	35度 01分 22秒	135度 45分 52秒	2015/7/23～ 2016/1/28		休憩所
平安京左京五条 二坊十町跡	京都市下京区 麩ヶ井通綾小路下る 要法寺町425	26100	1 1	35度 00分 07秒	135度 45分 10秒	2016/7/22 ～8/10		共同住宅
平安京左京五条 三坊十町跡・ 烏丸綾小路遺跡	京都市下京区 釘隠町252-4、 二帖半敷町668	26100	1 712	35度 00分 05秒	135度 45分 33秒	2016/3/14 ～9/15		ホテル
平安京左京九条 一坊十二町跡・ 史跡教王護国寺 境内	京都市南区 九条町	26100	1 A752	34度 58分 48秒	135度 44分 49秒	2016/6/9		築地塙修理
平安京右京北辺 四坊四町跡・ 史跡妙心寺境内	京都市右京区 花園妙心寺町1他	26100	1 A806	35度 01分 32秒	135度 43分 16秒	2016/8/23		埋設管
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京一条 四坊九町跡・ 公家町遺跡	都城跡 邸七跡	江戸時代	築地基礎	なし		宝永の大火前の女院御 所北側築地を確認。		
平安京左京五条 二坊十町跡	都城跡	鎌倉・室町時代	溝・土坑	土師器・須恵器・灰釉陶器 ・瓦質土器		南北方向の溝を検出。		
平安京左京五条 三坊十町跡・ 烏丸綾小路遺跡	都城跡 集落跡	平安・室町時代	溝・土坑	土師器・須恵器・輸入陶磁器		五条坊門小路北側溝お よび内溝を確認。		
平安京左京九条 一坊十二町跡・ 史跡教王護国寺 境内	都城跡 史跡	室町時代	築地塙	土師器・須恵器・瓦		灌頂院北築地塙の版築 を確認。		
平安京右京北辺 四坊四町跡・ 史跡妙心寺境内	都城跡 史跡	江戸時代	石垣	なし		妙心寺北側の灌にかか わる石垣を確認。		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきしやうさいぶんぶちやうさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・嵯峨根絵美							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京右京二条二坊三町跡	京都市中京区西ノ京冷泉町119	26100	1	35度00分54秒	135度44分08秒	2016/11/24～11/29		高齢者施設
平安京右京三条二坊二町跡	京都市中京区西ノ京朝輪町47-1	26100	1	35度00分40秒	135度44分04秒	2016/11/22～12/14		簡易宿所
平安京右京四条三坊十三町跡・山ノ内遺跡・西院城跡	京都市右京区西院小栗町7-3	26100	1 929 933	35度00分14秒	135度43分30秒	2016/8/1～8/8		共同住宅
平安京右京九条一坊十四町跡・史跡西寺跡・唐橋町遺跡	京都市南区唐橋西寺町35-4, 40	26100	1 A751 756	34度58分53秒	135度44分14秒	2016/5/31		電柱
上京道跡・寺ノ内旧城	京都市上京区堀川通寺ノ内上る二丁目上天神町630-2の一部ほか	26100	224 168	35度02分11秒	135度45分01秒	2016/3/23		寺院
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京二条二坊三町跡	都城跡	鎌倉時代	井戸	土師器, 須恵器, 瓦器, 瓦		鎌倉時代の井戸を良好な状態で検出。		
平安京右京三条二坊二町跡	都城跡	平安時代中期	溝	土師器, 須恵器, 緑釉陶器		西朝負小路東側地内溝を確認。		
平安京右京四条三坊十三町跡・山ノ内遺跡・西院城跡	都城跡 集落跡 城跡	平安時代 室町時代	落込み, 柱穴, ビット	土師器, 須恵器, 焼締陶器		特になし		
平安京右京九条一坊十四町跡・史跡西寺跡・唐橋町遺跡	都城跡 寺院跡 集落跡	平安時代	遺物包含層	瓦		平安時代の瓦が多量に出土した。		
上京道跡・寺ノ内旧城	都城跡 寺院跡	室町時代	溝, 土坑, ビット	土師器, 瓦器, 信楽焼, 青磁		16世紀初頭の溝を確認した。		

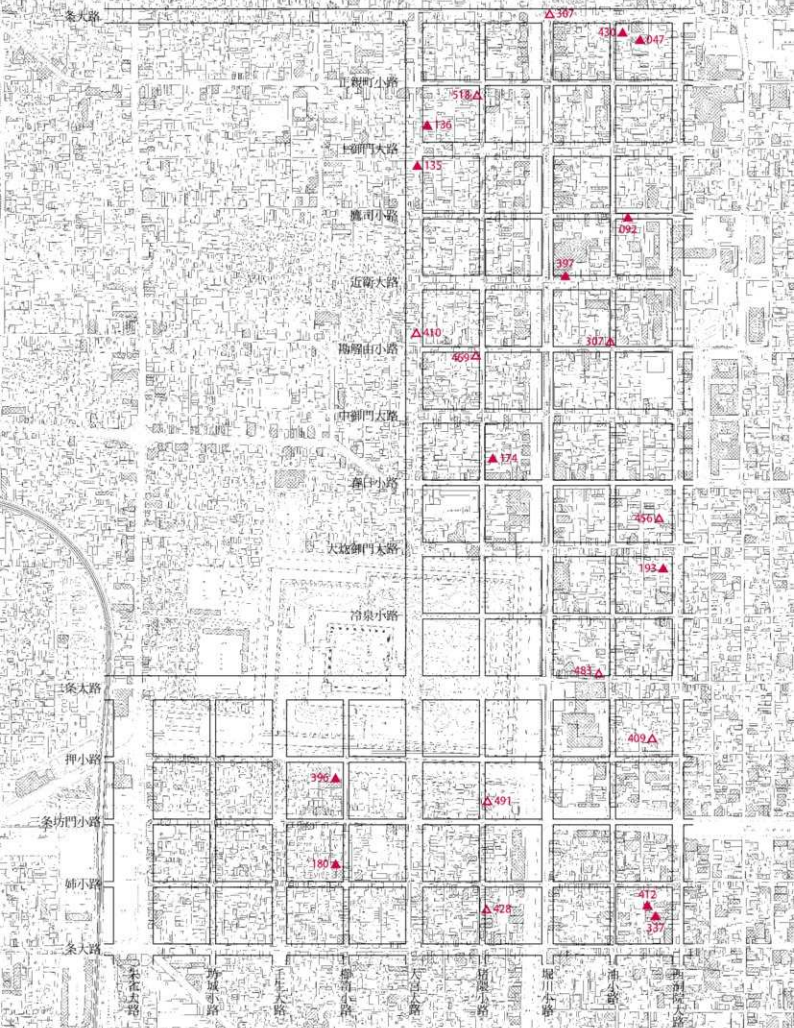
報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・蛭嶋根絵美							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
尊重寺跡	京都市上京区五辻通千本東入榎木町861	26100	222	35度01分53秒	135度44分35秒	2016/7/14		共同住宅
大塚・小山石切丁場跡	京都市山科区大塚大岩、大塚高岩他	26100	641	34度58分33秒	135度50分19秒	2016/8/7～8/17		学術調査
醍醐庵寺	京都市伏見区小栗栖千々廻町～醍醐西大路町地先	26100	1155	34度56分57秒	135度48分45秒	2015/11/12～2016/5/19		埋設管
極楽寺跡	京都市伏見区深草野手町17-3	26100	1122	34度57分52秒	135度46分24秒	2016/2/15～3/10		共同住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
尊重寺跡	寺院跡	鎌倉時代	土坑	なし		尊重寺跡範囲内で初めて遺構を検出。		
大塚・小山石切丁場跡	丁場跡	桃山時代	平場	なし		矢穴石を調査。		
醍醐庵寺	寺院跡	古代	溝、整地層	瓦		醍醐庵寺に関連する南北溝、整地層などを検出した。		
極楽寺跡	寺院跡	平安時代 鎌倉時代	集石遺構、遺物包含層	土師器、瓦器、褐釉陶器、瓦		極楽寺造営にかかわる可能性のある堆積層を確認した。		

图 版

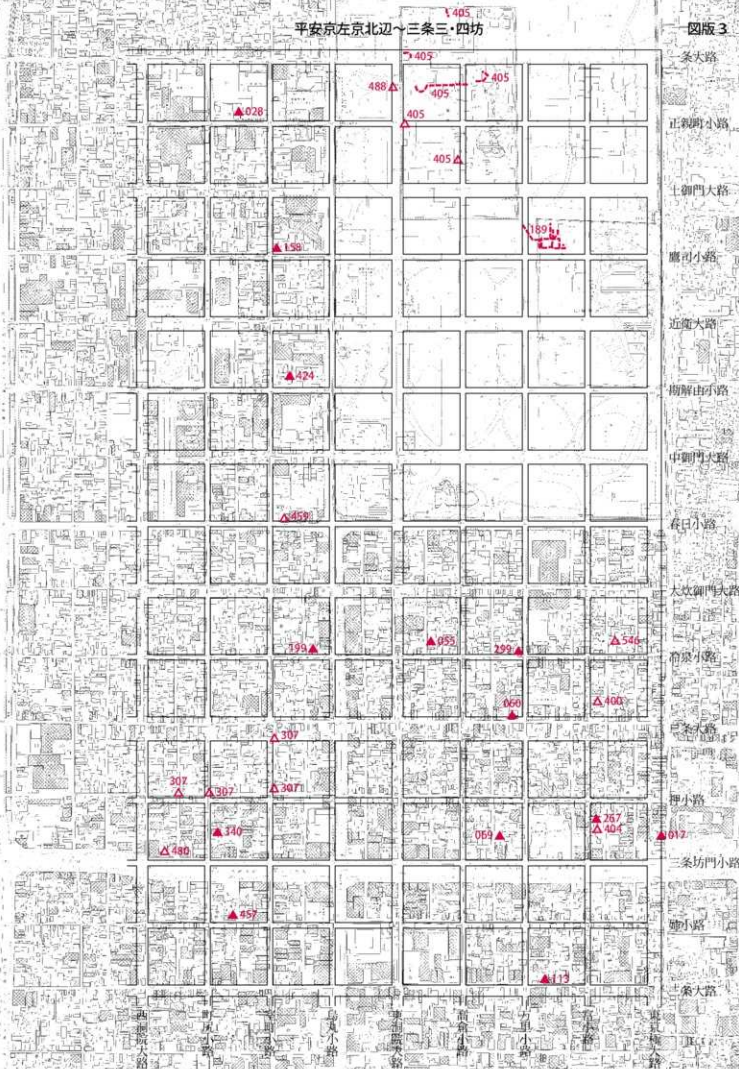
凡 例

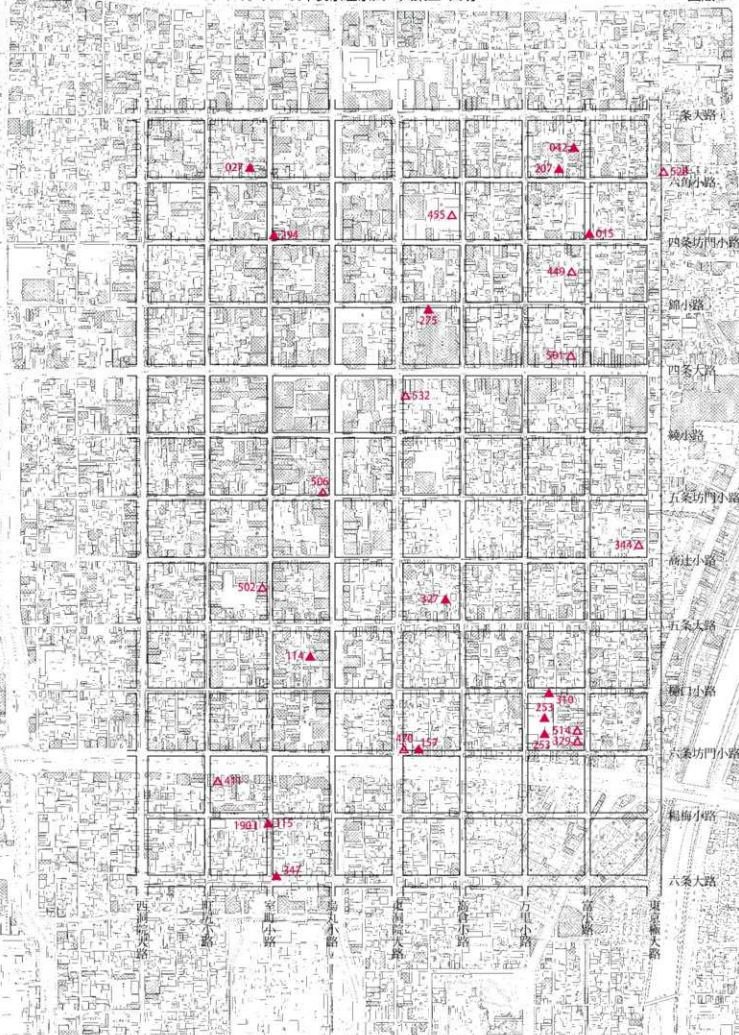
- △ ----- 2016年1～3月期(平成27年度)詳細分布調査地点
▲ —— 2016年4～12月期(平成28年度)詳細分布調査地点

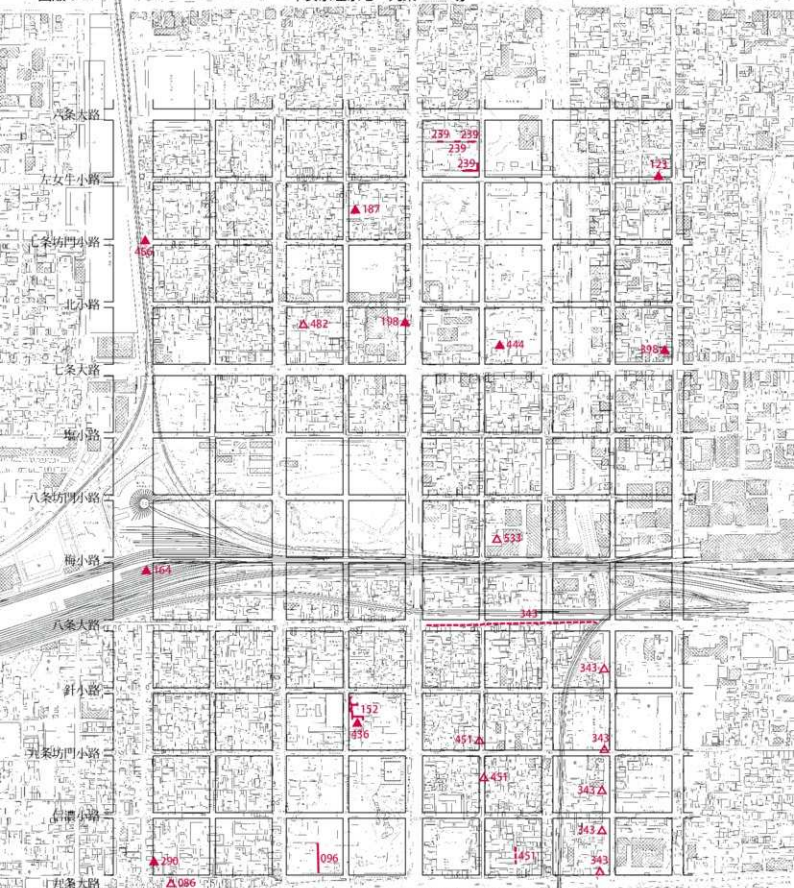


平安京左京北辺～三条三・四坊

図版 3









六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塵小路

八条坊門小路

塵小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西朝原路

町屋小路

多重小路

島小路

北高梁路

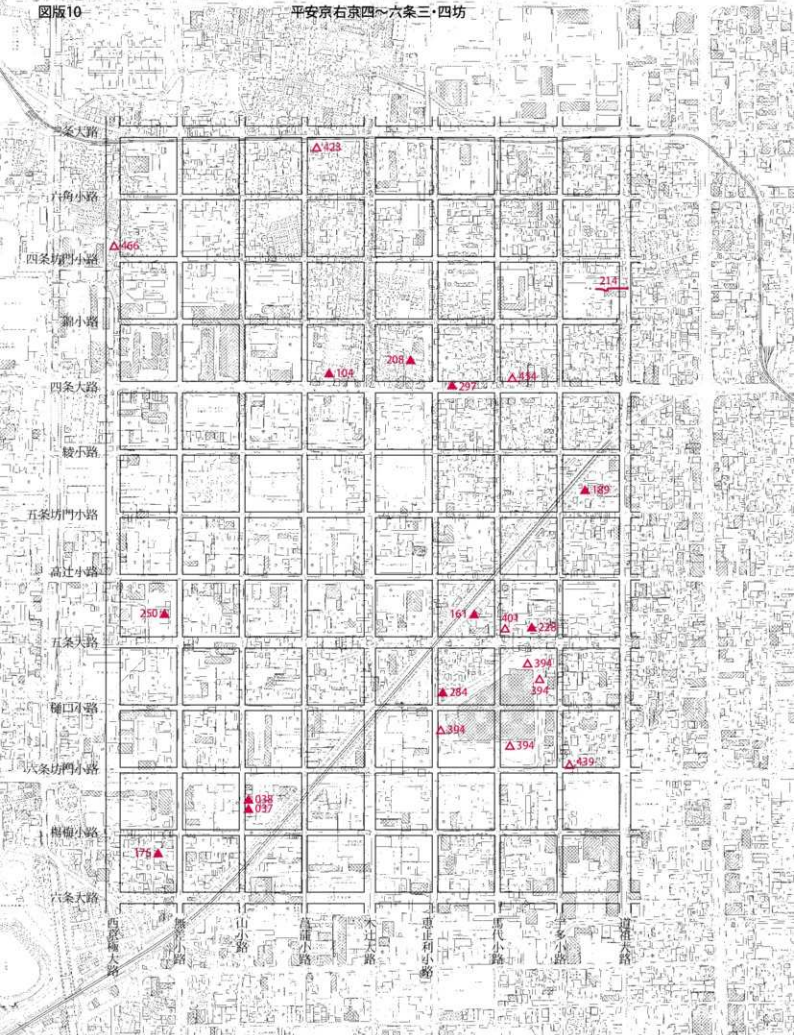
高倉小路

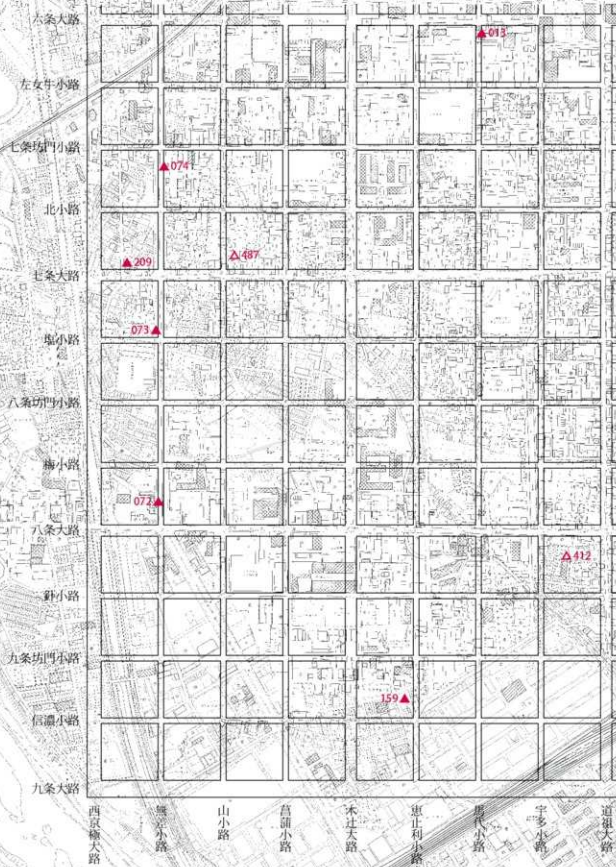
万葉小路

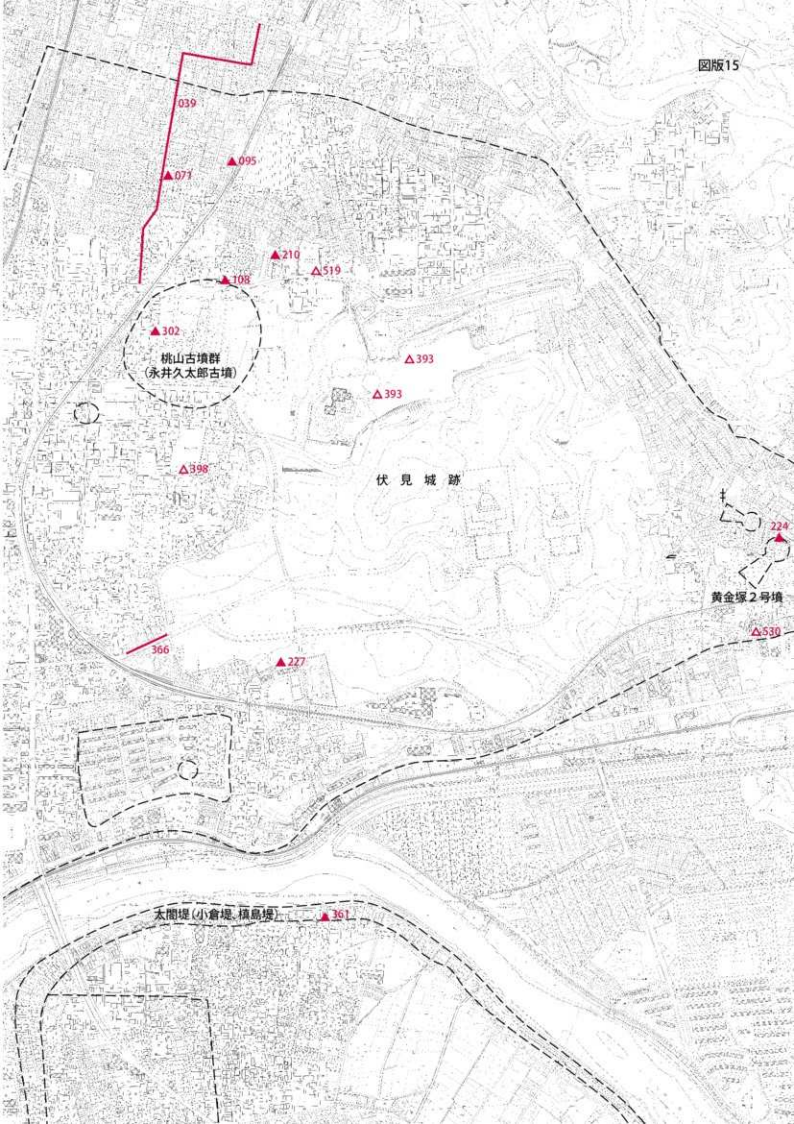
富小路

東高橋大路

355△





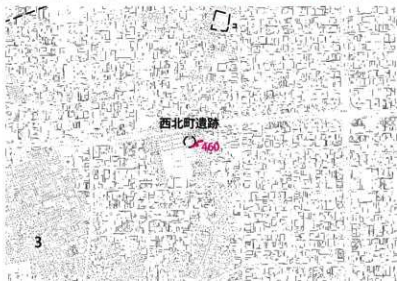
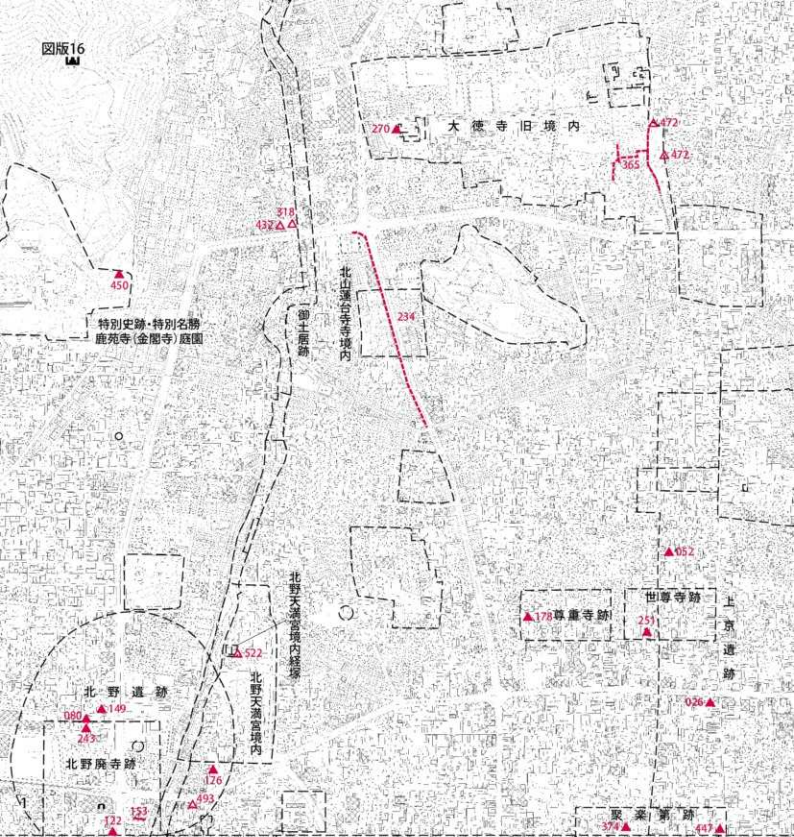


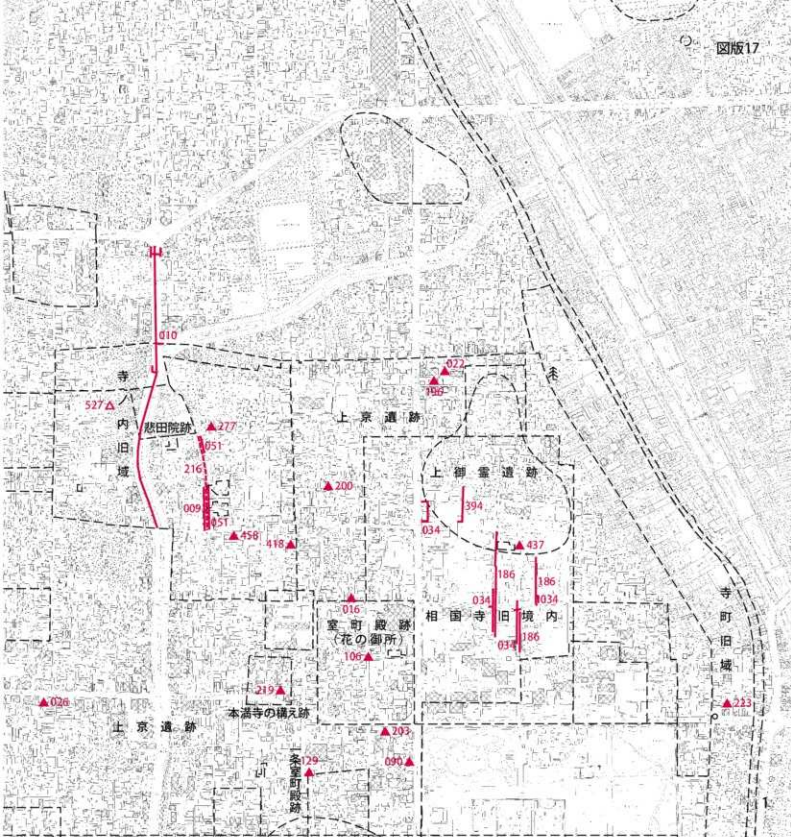
桃山古墳群
(永井久太郎古墳)

伏見城跡

黄金塚2号墳

太閤堤 (小倉塚、桶屋塚)







北白川追分町遺跡

北白川追分町縄文遺跡

322

追分町古墳群

自由上大路町遺跡

吉田二本松町遺跡

▲280

聖護院川原町遺跡

031 031 030 031 031 031 031

▲021

白河街区跡

白河北殿跡

▲031

▲031

▲030

▲031

▲031

▲031

▲116

▲233

▲154

▲460

▲021

▲098

東光寺跡

名勝平安神宮神苑

▲028

▲440

▲326

法勝寺跡

▲443

▲449

成勝寺跡

▲465

▲465

▲465

▲107

巴勝寺跡

▲301

▲301

▲111

▲484

▲457

▲457

岡崎遺跡

▲463

▲305

▲259

▲547

栗田口塚跡

▲431

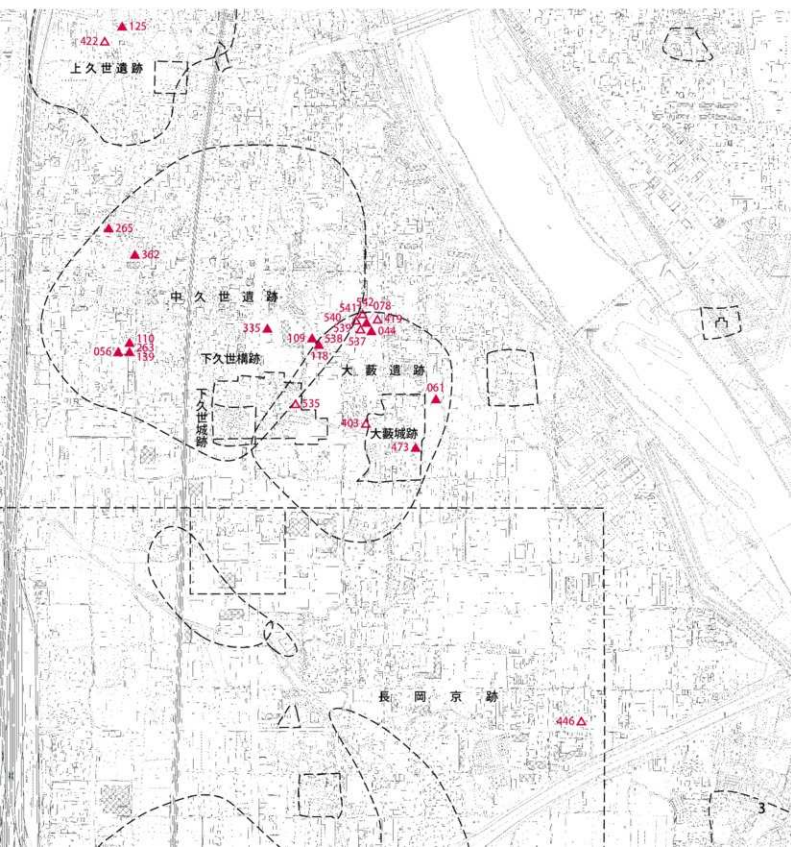
史跡・高禪寺境内

●

○

51





精冠井遺跡

▲426

▲504

東土川遺跡

久我殿遺跡 ▲306

▲085

▲381

▲381-▲381

▲381

▲381

羽束師置川城跡

▲278
▲454 ▲476 ▲144
▲524 ▲205 ▲417 ▲408
▲474 ▲▲▲▲▲270
▲434 ▲▲▲▲▲497
▲509 ▲392 ▲407 ▲884
▲435 ▲321

▲202

▲268
川原寺跡

▲468

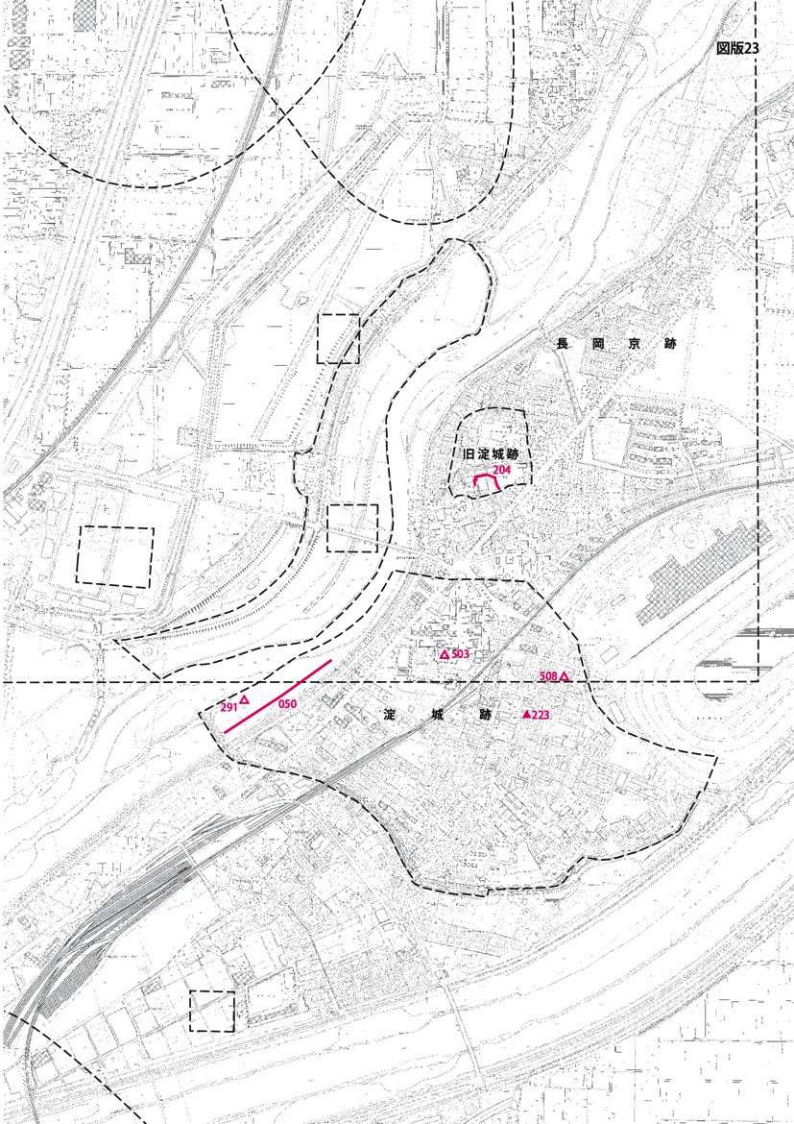
▲498

羽束師志水町遺跡
▲363 ▲

長岡京跡

▲377

▲431



長岡京跡

旧淀城跡

204

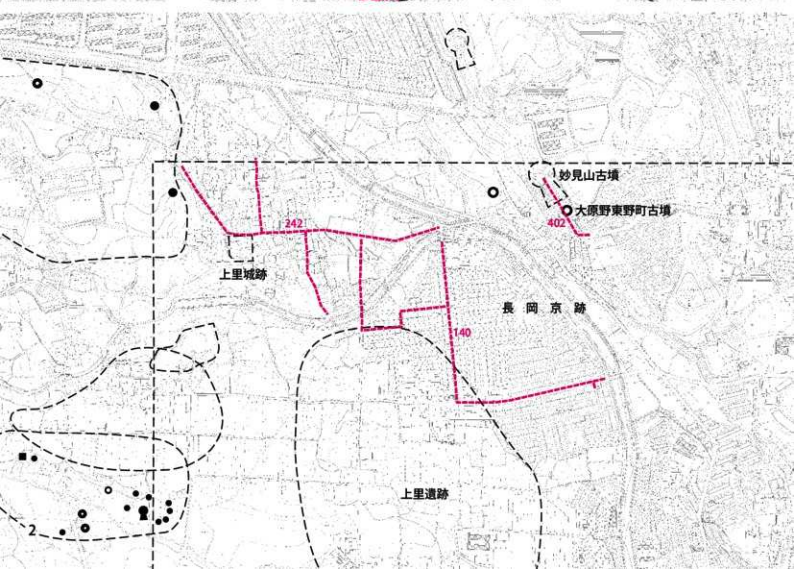
△503

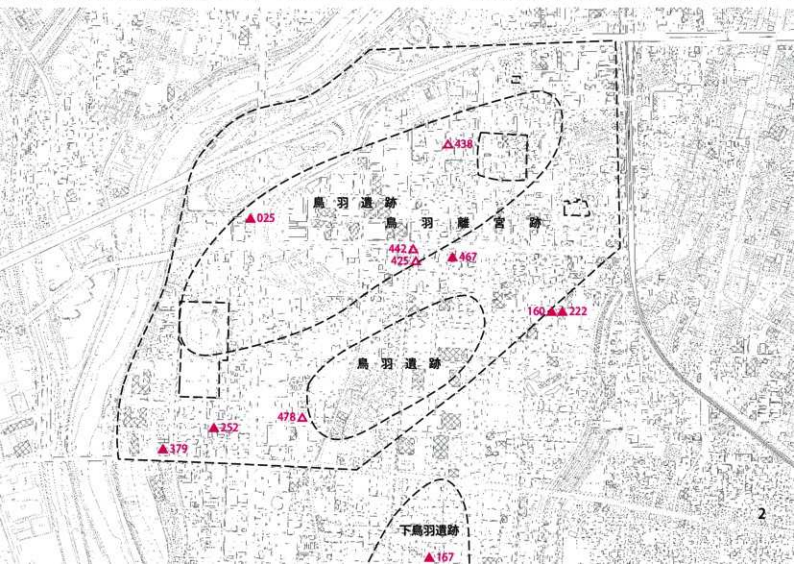
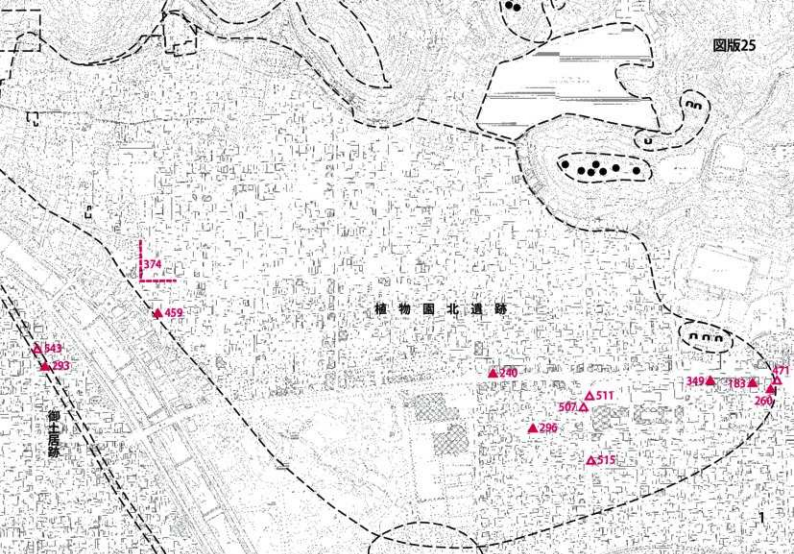
508△

291△ 050

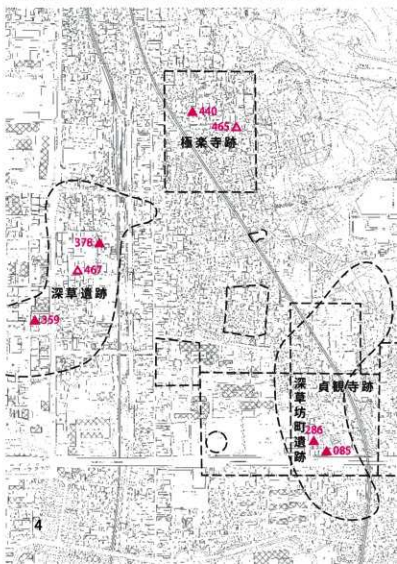
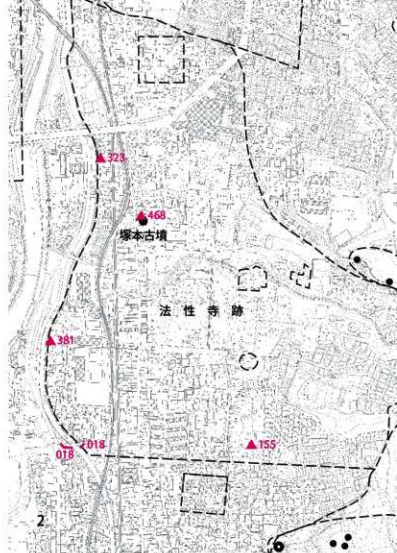
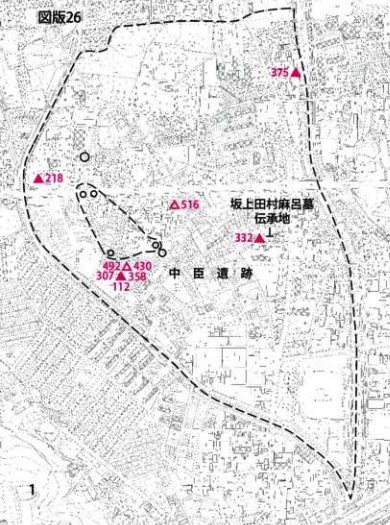
淀城跡

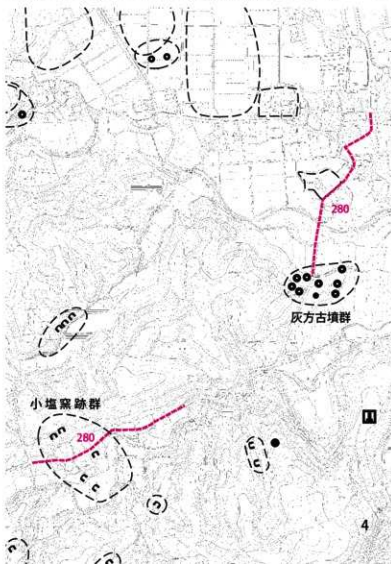
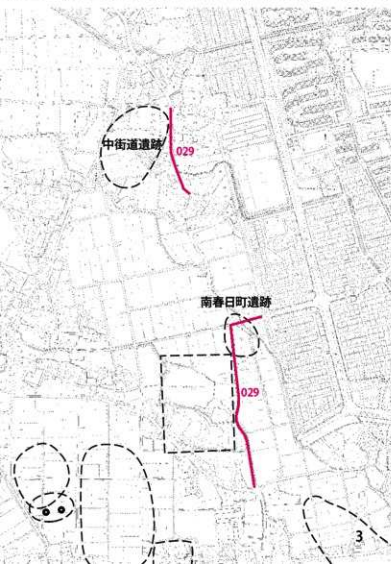
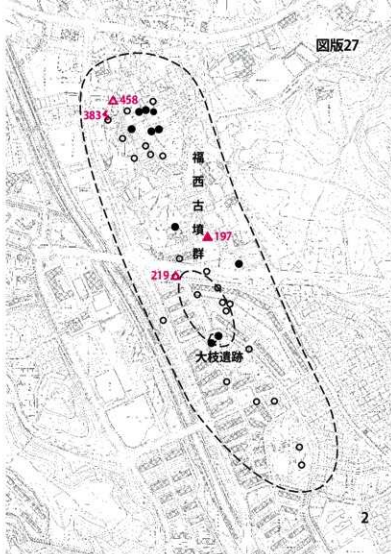
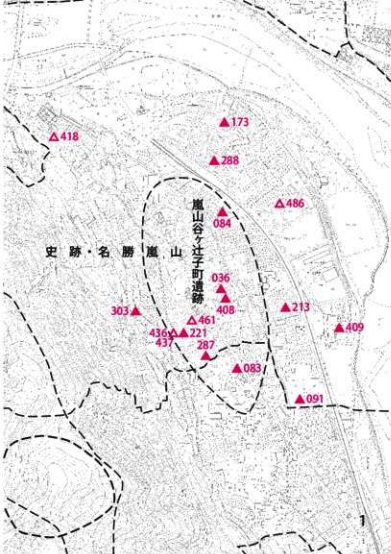
△223





图版26





嵯峨院跡

▲416



嵯峨折戸町遺跡

▲354



山越古墳群

▲334



龍安寺庭園

▲003



嵯峨野高田町遺跡

▲384



南野古墳群

▲548



鞍馬山経塚群

▲550



八幡古墳群

▲232

▲319

妙満寺窯跡 ▲165

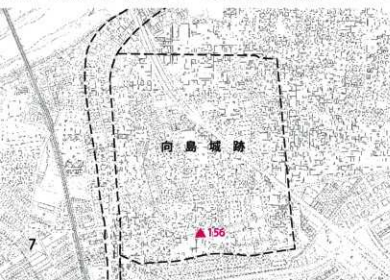
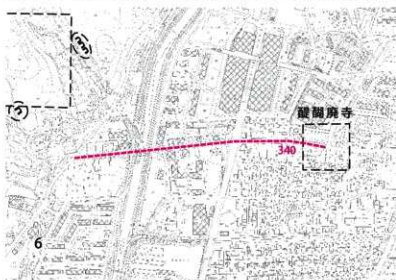
栗栖野瓦窯跡

▲313

▲020









京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成28年度

発行日 2017年3月31日
発行 京都市文化市民局
編集 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課
住所 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394
Y・J・Kビル2階
TEL(075)366-1498
印刷 株式会社 昭英社
TEL(075)351-1811